



福音を教え学ぶ

宗教教育セミナー・インスティテュートの
教師ならびに指導者用手引き

福音を教え学ぶ

宗教教育セミナー・インスティテュートの
教師ならびに指導者用手引き

発行：末日聖徒イエス・キリスト教会
ユタ州ソルトレーク・シティー

ご意見やご提案をお待ちしています。誤りのご指摘も含めて、以下にお送りください。

Seminaries and Institutes of Religion Administration

50 E. North Temple Street, Floor 9

Salt Lake City UT 84150-0009 USA

電子メール：ces-manuals@ldschurch.org

氏名, 住所, 所属ワード, ステークを明記し, 本手引きの書名をご記入のうえ,
ご意見・ご提案をお書きください。

©2012 Intellectual Reserve, Inc.

版權所有

印刷：日本

英語版承認：2010年12月

翻訳承認：2010年12月

原題：*Gospel Teaching and Learning* Japanese

10581 300

目次

はじめに.....	v
救い主の方法で教える.....	v
序文.....	ix
教会教育システム.....	ix
宗教教育セミナー・インスティテュート.....	ix
1. 目的.....	1
わたしたちの目的〔1.1〕.....	1
生活する〔1.2〕.....	2
教える〔1.3〕.....	5
管理運営する〔1.4〕.....	7
2. 福音を教え学ぶときの基本.....	10
御霊によって教え、学ぶ〔2.1〕.....	10
愛と敬意と目的意識のある学習環境を作る〔2.2〕.....	13
毎日聖文を研究し、コースの聖典を読む〔2.3〕.....	19
聖典と預言者の言葉の背景と内容を理解する〔2.4〕.....	23
福音の教義と原則を見つけ、理解し、それらが真実であり重要であることを感じ、それらを応用する〔2.5〕.....	26
福音の教義と原則を説明し、分かち合い、証する〔2.6〕.....	31
重要な聖句と基本的教義に精通する〔2.7〕.....	34
3. セミナリーとインスティテュートで聖文を教える.....	38
福音を教え学ぶときの基本を取り入れる〔3.1〕.....	39
ルカ5章：例〔3.2〕.....	42
4. 教える準備をする.....	47
個人的な準備〔4.1〕.....	47
生徒の準備〔4.2〕.....	49
レッスンの準備〔4.3〕.....	51
5. 教授法、技術、採り上げ方.....	58
質問〔5.1〕.....	58
クラス討論〔5.2〕.....	63
クラスで一緒に聖文を読む〔5.3〕.....	64
教師の提示〔5.4〕.....	65
物語〔5.5〕.....	66
小グループ討論と割り当て〔5.6〕.....	67
筆記活動〔5.7〕.....	68
ホワイトボードまたは黒板〔5.8〕.....	69
実物と絵〔5.9〕.....	70
視聴覚プレゼンテーションとコンピュータープレゼンテーション〔5.10〕.....	70
音楽〔5.11〕.....	74
一般的な助言と注意〔5.12〕.....	76
6. 教師として改善を続ける.....	78
主の約束〔6.1〕.....	79
索引.....	81



はじめに

「わたしたちは自分自身を分析し、教師である自分を向上させたいと思うとき、どのようなより良い模範を見つけることができるだろうか。自分の理念と目標と方法を分析し、イエス・キリストのそれと比較すること以上に、わたしたちが行えるすばらしい学習があるだろうか。」(ボイド・K・パッカー, *Teach Ye Diligently*, 改訂版 [1991年], 22)

救い主の方法で教える

救い主について知っていることを少しの間考えてみてほしい。救い主と、また救い主の周りに集まった弟子たちを心に描くことができるだろうか。ガリラヤの海のそばで群衆に教えておられる、あるいは井戸端で女性に個人的に語りかけておられる救い主を想像できるだろうか。救い主の教え方と導き方についてどのようなことに気づいただろうか。人々が学び、霊的に成長し、福音に従う者となるのを、救い主はどのような方法で助けられただろうか。

救い主は、人々を愛し、彼らのために祈り、絶えず奉仕された。一緒にいる機会を見つけ、愛を示された。人々の興味と希望と望みと、彼らの生活に何が起こっているかを御存じであった。

救い主は、彼らが何者であり、どのような人になれるかを御存じであった。彼らが学び、成長するのに助けとなる独自の方法、すなわち彼らにまさにふさわしい方法を見つけ出された。彼らが苦闘しているときに、彼らを見限ることなく、引き続き愛し、教え導かれた。

救い主は、祈りと断食の時を御独りで過ごし、教える準備をされた。毎日わずかな御自分の時間に、天の御父に導きを求められた。

救い主は、聖文を用いて教え、御自分の使命について証^{あかし}された。人々に、自分で聖文について考え、聖文を使って自分の疑問に答えを見つけるように教えられた。救い主が力と権能をもって神の言葉を教えられたとき、彼らの心は内に燃えた。そして、彼らは聖文が真実であることを自分自身で知ったのである。

救い主は、簡潔な話と、たとえと、彼らにとって意味のある実生活の例を話された。彼らが自分自身の経験と周囲の世界から福音の教訓を見つけることができるようにされた。漁や子供の誕生、畑仕事について語られた。互いを気遣うことについて教えるために、迷い出た羊を救い出す話をされた。天の御父の優しい心遣いを信頼するよう弟子たちに教えるために、「野の花〔のこを〕考えて見るがよい」と勧められた。

救い主は、彼らが考え、深く感じるように、幾つかの質問をされた。彼らの答えに心から関心を示し、彼らが信仰を表したことを喜ばれた。彼らが自分の疑問について尋ねる機会と、彼ら自身の洞察を分かち合う機会を与えられた。そして、彼らの質問に応じ、彼らの経験談に耳を傾けられた。救い主から愛されていたので、彼らは自分の考えや個人的な気持ちを述べても差し支えないと感じていた。

救い主は、彼らに証を述べるように求められた。そして、彼らが証を述べたとき、御^み霊^{たま}が彼らを感動させた。救い主はこう尋ねられた。「あなたがたはわたしをだれと言



うか。」ペテロはそれに答え、その証は強められた。「あなたこそ、生ける神の子キリストです。」

救い主は、彼らを信頼し、備え、そしてほかの人々を教え、祝福し、人々に仕える重要な責任を与えられた。そして、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」と命じられた。救い主の目的は、彼らがほかの人々に仕えることによって改心するように助けることであった。

救い主は彼らに、信仰をもって行動し、救い主から教えられた真理に従って生活するように求められた。心を尽くして福音に従った生活ができるように弟子たちを助けることに集中してすべての教えを授けられた。これを成し遂げるために、機会を見つけては、彼らが有効な経験によって学べるようにされた。ニーファイ人に御姿を現されたとき、一人一人を御自分のもとに来るように招いて、ニーファイ人が自分自身で救い主を目にし、感じ、知るように仕向けられた。彼らが御自分の告げたことを十分に理解していないと



感じられたときには、家に帰り、また戻って来てもっと学ぶ備えをするよう求められた。

救い主は、あらゆる点で彼らの模範であり、良い指導者であられた。彼らとともに祈ることによって、祈りについて教えられた。彼らを愛し、彼らに奉仕することによって、愛し、奉仕することを教えられた。福音を教えることによって、主の福音を教える方法を教えられたのである。

明らかに、救い主の教え方は世の方法とは異なっている。

したがって、これは、すなわち救い主が教えられたように教えることは、あなたの神聖な召しである。あなたがこれを行うとき、青少年は、福音の種を植え、膨らませ、育てるための場所を心の中に設けるであろう。これは改心に結びつくであろう。あなたが教える究極の目標はこれである。青少年が改心するのを助けるとき、彼らが生涯にわたって救い主に従う備えをするのを、すなわち、彼らが伝道の奉仕をし、神殿の儀式を受け、義にかなった家族を育て、全世界に神の王国を築くのを助けることになる。



序文

教会教育システム

末日聖徒イエス・キリスト教会の教会教育システム（CES）は、末日聖徒イエス・キリスト教会の教育管理会・理事会の指示の下にその機能を果たす。教育管理会・理事会は、大管長会、十二使徒定員会の中から指名された会員、ならびに教会のそのほかの中央幹部と中央役員で構成されている。

教会教育システム内の個々の組織として、宗教教育セミナー・インスティテュート、ブリガム・ヤング大学、ブリガム・ヤング大学アイダホ校、ブリガム・ヤング大学ハワイ校、ならびにLDSビジネスカレッジがある。

宗教教育セミナー・インスティテュート

宗教教育セミナー・インスティテュートは、青少年とヤングアダルトのために週日の宗教教育を提供する。宗教教育セミナー・インスティテュートはまた、合衆国外の幾つかの地域で小学校と中高等学校を管理している。

宗教教育セミナー・インスティテュートにおけるわたしたちの務めは、単なる教育ではなく宗教教育を施すことである。宗教教育とは永遠のための教育であり、主の御霊の影響力を必要とする。J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長は、セミナーとインスティテュートの教師に語り、次のように教えている。「教師である皆さんは偉大な使命を負っています。皆さんは教師として、教育の頂点に立っています。皆さんの教える事柄は、値の知れない価値があり、広範囲にわたって影響を及ぼすという意味において、永遠の過去から、現在、永遠の未来にわたって人間にかかわり合うものすべてに比べて決してひけをとりません。」（『教育に関する教会の指針』改訂版〔1994年〕、12）

現在、全世界で数千人のセミナーとインスティテュートの教師と指導者が、教会の青少年とヤングアダルトがイエス・キリストの福音を学び、その原則に従って生活できるように助けている。

この手引き『福音を教え学ぶ』は、その務めを果たす教師を支援するために用意されたものであり、リソースブックである。教師はこの手引きの内容に精通し、自分にとって最も助けとなる分野に集中して、繰り返し参照するべきである。教師がこの手引きを研究し、主の指示を求めるとき、主は、教師が準備する際に靈感を授け、教師と生徒の関係を強くし、教師の教えに力を添え、主の業をもっと十分に果たせるように御霊を授けてくださるであろう。

宗教教育セミナー・インスティテュートの目的

わたしたちの目的は、以下のことができるよう、青少年とヤングアダルトを助けることです。イエス・キリストの教えと贖い^{あがな}について理解しそれに頼る。神殿の祝福を受ける資格を得る。天の御父とともに永遠の命にあずかるため、自分自身と自分の家族と周りの人々を備える。

この目的を達成するために――

生活する

わたしたちはイエス・キリストの福音に従って生活し、御霊^{みたま はんりょ}を伴侶とするため懸命に努力します。わたしたちは、家庭、教室、地域社会にあつて、行動においても人との交わりにおいても模範となります。わたしたちは、絶えず自分の働き、知識、態度、人格を向上させるように努めます。

教える

わたしたちは生徒に、聖典と預言者の言葉に見いだされるままの福音の教義と原則を教えます。これらの教義と原則を、彼らが理解し、教化されるような方法で教えます。わたしたちは、生徒が学習の過程における自らの役割を果たすよう助けます。また、福音を他の人々に教える備えができるよう彼らを助けます。

管理運営する

わたしたちはプログラムと資産を適切に管理運営します。わたしたちの働きは、親が家族を強める責任を果たすための助けとなるものです。わたしたちは、生徒に参加するように勧め、また、生徒が互いに交わり、ともに学ぶための霊的な環境を提供するうえで、神権指導者と密接に協力して働きます。

目的

イエス・キリストの福音の教師には、神聖な信頼が置かれている。彼らの目的は、単にレッスンを教えることだけにとどまらない。ダリン・H・オクス長老は次のように述べている。「福音の教師はメッセージを伝えたり、教えを説いたりするだけで満足することは決してありません。優れた福音の教師は主の子らに永遠の命をもたらす主の業を助けることを願います。」（『福音を教える』『リアホナ』2000年1月号、96）

「宗教教育セミナー・インスティテュートの目的」は、主の業を助ける働きに関して教師と指導者に明確な指示を与えるものである。

わたしたちの目的〔1.1〕

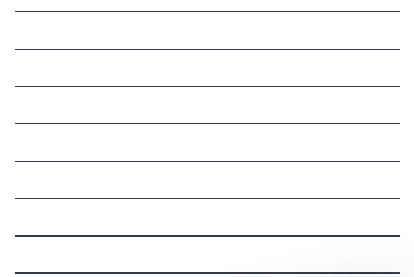
わたしたちの目的は、以下のことができるよう、青少年とヤングアダルトを助けることです。イエス・キリストの教えと贖い^{あがな}について理解しそれに頼る。神殿の祝福を受ける資格を得る。天の御父とともに永遠の命にあずかるため、自分自身と自分の家族と周りの人々を備える。

天の御父は、御自分の子供たちのそれぞれが永遠の命を得ることを望んでおられる（モーセ1：39 参照）。救い主は次のように教えられた。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです。」（ヨハネ17：3）したがって、宗教教育が焦点を当てているのは、生徒が天の御父と御子イエス・キリストを知って愛するように助けること、また救い主の教えと贖いについて理解しそれに頼るように助けることである。

イエス・キリストの贖罪^{しよくざい}は、救いの計画の中心を成すものである。その基本的な真理の上に福音の教義と原則が打ち立てられている。イエス・キリストの贖罪がすべての福音を教える^{あかし}学ぶ中心でなければならない。ボイド・K・パッカー長老は次のように証している。「（贖罪は）キリスト教の教義の根本です。皆さんは枝が茂った木のように福音に対する知識は豊富かもしれませんが、もし枝葉の部分しか知らず、しかもそれが根に関係のない、真理から離れたものであるならば、そこに命も実質も贖いもありません。」（『仲保者』『聖徒の道』1977年10月号、488）

生徒は、イエス・キリストについて学び、イエス・キリストの教えと模範に従い、自分の生活の中にイエス・キリストの贖罪の効力を及ぼすとき、強さを得^{ゆる}、赦しと癒し^{いや}と改心を経験する。ヘンリー・B・アイリング管長は次のように教えている。

「わたしたちは目標をより高く持たなければなりません。登録、定期的な出席、卒業、聖文の知識、聖霊が真理を確認してくださるのを感じる経験など、これまで掲げてきた目標を保たなければなりません。さらに、伝道地と神殿を目指さなければなりません。しかし、生徒には、生徒である間に必要なものがもっとあります。……



「わたしたちが教会の若い人々に、救い主イエス・キリストを愛するようにと教えるとき、彼らは主のまことの弟子になるでしょう。この過程は、彼らが忠実な愛ある夫と父親、妻と母親、すなわち永遠の家族の導き手になる備えとなるでしょう。神殿は彼らの生活の自然な、そして重要な一部となるでしょう。宣教師となり、ヤングアダルトとして、また後には成熟した夫婦として伝道地で主に仕えるでしょう。……わたしたちが青少年の心をキリストに向けて、彼らを強めるとき、家族と教会を強めていることにもなるのです。」



(ディーター・F・ウークトドルフ, "A Teacher of God's Children" (ディーター・F・ウークトドルフ管長とのタペ, 2011年1月28日), 3)

イエス・キリストの純粋な福音が、聖霊の力によって生徒の心に植え付けられなければなりません。……わたしたちの目標は、彼らがわたしたちと一緒にいる間に、イエス・キリストの回復された福音にほんとうに帰依するようにすることです。」(“We Must Raise Our Sights” [モルモン書に関するCES大会, 2001年8月14日], 2)

真の改心は、イエス・キリストの福音がもたらす最高の祝福に至るものである。最高の祝福は神殿の儀式によって得られる。生徒は神殿の聖約を忠実に交わしてそれを守るとき、昇栄と永遠の命を含むそれらの祝福にあずかる資格を得る。霊的な強さが加えられ、より大きな平安を与えられ、さらに個人の啓示を受けるであろう。

生活の中心を救い主と神殿に置く生徒は、世の誘惑と欺きに対してより大きな守りを得ることができ、また天の御父から求められるすべてのことを成し遂げる、より良い備えをすることができる。永遠の命に至る道に確固としてとどまる強さを得ることができ、また自分の家族とほかの人々が同じ弟子の道を見だし、従えるように、より良い助けを与えることができる。

に、より良い助けを与えることができる。

生活する [1.2]

わたしたちはイエス・キリストの福音に従って生活し、御霊を伴侶とするため懸命に努力します。 [1.2.1]

生徒が「セミナー・インスティテュートの目的」の項で概説されている目的を達成するのを助ける際に、教師ができる最大の貢献の一つは、イエス・キリストの福音に一貫して忠実に従うことである。教師は、キリストのような人格をはぐむように努力し、また自分の人生のあらゆる面で天の御父を知り、御父に喜ばれるように努めるとき、神聖な力を祝福として与えられる。その力は、生徒が福音のメッセージをどのように受け入れ、理解するかに影響を及ぼすであろう。

教師は、福音に従って忠実に生活するとき、聖霊を伴侶とする資格を得る。この聖霊を伴侶とすることは、教師がセミナーとインスティテュートで立派に務めを果たすうえできわめて重要である。教義と聖約の中で、主は次のように強調しておられる。「御霊を受けなければ、あなたがたは教えるはならない。」(教義と聖約 42:14) ロバート・D・ヘイルズ長老は次のように述べている。「宗教教育セミナー・インスティテュートにおける教師の責任は数多くありますが、これらの責任を果たすために、教師はまず、個人の義を確立するように努めなければなりません。教師として、常に御霊がともにいてくださるよう、福音に従って生活しなければなりません。」(“Teaching by Faith” [ロバート・D・ヘイルズ長老とのタペ, 2002年2月1日], 1)

わたしたちは、家庭、教室、地域社会にあつて、行動においても人との交わりにおいても模範となります。 [1.2.2]

教師は、高潔な生活をし、自分が教える教義と原則にふさわしい模範となる責任がある。あらゆる状況で、主を愛し聖霊を伴侶とする人が行うように、語り、仕え、

生活しなければならない。

メモ

最も重要なのは、自分の家の人目に触れない所でどのように行動するか、また伴侶と子供にどのように接するかである。「説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により」この最も重要な関係が保たれていなければならない(教義と聖約 121:41)。エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように述べている。「夫婦として皆さんの関係がすばらしいものであるようにと願っています。皆さんの家庭に平安と救い主の愛があり、皆さんの家庭を訪れるすべての人がそれを感じるようにと願っています。皆さんの家庭に口論や不和があってはなりません。……皆さんは、行うすべてのことと皆さんがどう見えるかで、夫婦として大管長会を代表しているのです。」(“The Gospel Teacher and His Message” [CES 宗教教育者への講話, 1976年9月17日], 7)

教師は教室で、慈愛、忍耐、優しさ、尊敬、神聖なものを敬うことなど、キリストのような特質を表す機会が毎日ある。教師は、生徒と良好で適切な関係を維持しなければならない。しかし、特定の人に優しくしすぎて誤解を招いたり、憶測やうわさのもとになったりしないようにしなければならない。



「皆さんはそれぞれ、かなり以前から、自分がどういう人間であることを教えているということをよく理解しています。……特定のレッスンで教える特定の真理よりも、複合的に、皆さんの特性の方がよく記憶されます。……わたしたちがキリストの弟子になろうと真剣に努めているなら、それが体現され、記憶されるのです。自分がどのように記憶されるかという展望を持ち、そのうえで個人の義を守っていると、皆さんの生徒の人生に真実の貢献ができることでしょう。」

(ニール・A・マックスウェル, “But a Few Days” [CES 宗教教育者への講話, 1982年9月10日] 2)

教師は、学校や地域や教会の活動や行事に参加したり、出席したりする際に、キリストのような振る舞いをするように努めなければならない。親や同僚、宗務指導者、地域社会の人々と適切かつ協力的な関係を築き、維持するように努めなければならない。いつもこれらのことを行って、イエス・キリストの福音に従って生活するという純粋な心からの決意を示すと、人々の生活に良い影響を及ぼす力が増し加えられる。

わたしたちは、絶えず自分の働き、知識、態度、人格を向上させるように努めます。 [1.2.3]

教師は神の子供として、神性の一部を内に備えている。それは、向上し、進歩し、もっと天の御父とイエス・キリストのようになりたいという望みを持たせるものである。教師は、絶えずこの望みを深め、また主とほかの人々の助けを得て、向上したいという気持ちをもって行動しなければならない。ゴードン・B・ヒンクレー長老は、個人として成長し続けることの必要性を強調して次のように述べている。

「わたしは向上できると信じています。成長を信じています。……」

兄弟姉妹、あなたが 30 歳であろうと、あるいは 70 歳であろうと、成長し続けてください。」(“Four Imperatives for Religious Educators” [CES 宗教教育者への講話, 1978年9月15日], 2)

向上するには、望みと熱意と忍耐が、また熟考と祈りによって求める主の助けが必要である。ヘンリー・B・アイリング長老は、自己改善について重要な原則を教えている。「ほとんどの人は、自己を改善するように努力した経験が多少はあります。わたしは自分の経験から、人々と組織の改善法について学びました。最も大切な注目すべき点は、わたしたちのよく行う事柄の中に小さな変化を起こしていくことです。着実に、また繰り返し行うことには力があります。変わるために適切な小さな事柄を選ぶよう靈感による導きを得ることができれば、従順であり続けることに

メモ

よって大きな改善をもたらされます。】(“The Lord Will Multiply the Harvest” [ヘンリー・B・アイリング長老との夕べ, 1998年2月6日], 3)

セミナーとインスティテュートで、教師は、絶えず自分の働き、知識、態度、人格を向上させるように努めなければならない。

働き。教師は、教える責任と管理運営する責任における働きを向上させるようにいつも努めなければならない。基本的な原則と技術を理解し応用するようにバランスよく、着実に、熱心に努力することによってそれを行うことができる。セミナーとインスティテュートの資料に、またスーパーバイザー、同僚、生徒、神権指導者、そのほかの人々に助けを求めることは、教師と指導者が自分の働きについてもっと正確な評価を得るのに、また最も必要な分野を改善するために必要な導きを得るのに役立つであろう。

「兄弟姉妹、知識が十分な人はだれ一人いません。学習の過程は終わりのない過程です。わたしたちは読まなければなりません。観察しなければなりません。吸収しなければなりません。心を向けるものについて深く考えなければなりません。」



(ゴードン・B・ヒンクレー, “Four Imperatives for Religious Educators,” 2)

知識。教師は、聖典と預言者の言葉の背景と内容、ならびにそれに含まれている教義と原則を研究するように一貫して努めなければならない。そうするとき、救い主の福音と贖罪しよくざいについての理解が増し、もっと生徒の人生に祝福をもたらすことができるようになるであろう。教師は、聖文ならびにセミナーとインスティテュートの資料に含まれている原則と効果的な教授法について知識と理解を増すようにしなければならない。適切な管理運営の原則に精通し(7ページの第1.4項「管理運営する」を参照)、またセミナーとインスティテュートの方針と業務を理解しなければならない。

態度。教師の態度によって、かなりの程度、教師自身の幸せと生徒に良い影響を及ぼす能力が決まる。元気であるように絶えず努め(教義と聖約68:6参照)、ほかの人々に仕えるように努め、一致を得ようと努力し、難しい状況で最善を尽くす教師は、かかわる生徒と同僚の人生に祝福をもたらすであろう。

人格。福音に従って生活するように努力し、自分の働き、知識、態度を向上させるように一貫して誠実に努める教師は、「セミナー・インスティテュートの目的」を達成するのを助けるために必要な人格が自然にはぐくまれるであろう。リチャード・G・スコット長老は次のように教えている。「わたしたちは、自分がそうありたいと願う人物になります。そのためには首尾一貫して毎日、自分がそうなりたいと願う人物であらねばなりません。義にかなった人格は、皆さんがなろうとしている人物が備えるべき大切な特質です。義に

「もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の弱さを示そう。……わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」



(エテル12:27)

かなった人格は、今手にしているいかなる物質、学習によって得たいかなる知識、あるいはこれまでに達成したいかなる目標よりもずっと大切です。】(「本質を変える信仰の力と人格」『リアホナ』2010年11月号, 43)

結局、自分の働き、知識、態度、人格を向上させるように努めるときに大切なのは、イエス・キリストの模範に従うことである。ハワード・W・ハンター大管長は次のように述べている。「主イエス・キリストの教えと模範は、生活のあらゆる面でわたしたちの行動を形づくり、人格を形成し[ます。]それは、主の御名みなを冠した教会への献身にとどまらず、家庭、職場、地域社会などの多岐にわたる私生活にまで及んでいます。」(「神の証人になる」『聖徒の道』1990年7月号, 64参照)

教える [1.3]

メモ

わたしたちは生徒に、聖典と預言者の言葉に見いだされるままの福音の教義と原則を教えます。 [1.3.1]

イエス・キリストの福音の教義と原則に関する知識、理解、^{あかし}証は、天の御父の御^み心^{こころ}にかなう選択をする指針と十分な強さを生徒に与えるであろう。

教義とは、イエス・キリストの福音の基本的な不変の真理である。ボイド・K・パッカー長老は次のように教えている。

「真実の教義を理解すれば、人の態度や行動は変わります。

福音の教義を研究することは、人の行動を研究することよりも、ずっと速やかに行動を改善する力があります。」(『幼き子ら』『聖徒の道』1987年1月号, 18 - 19)

リチャード・G・スコット長老はこう強調している。「原則は真理を凝縮したものであり、異なった状況に広く応用できるものです。真の原則が分かれば、最も混乱した、またどうしようもない状況においても確信をもって決断することができます。」(『霊的な知識を得る』『聖徒の道』1994年1月号, 97 参照)

聖典と預言者の言葉には、教師と生徒が理解し、教え、応用するように努めなければならない福音の教義と原則が含まれている。末日に福音を教える人々に、主は次のように指示しておられる。「『聖書』と完全な福音が載っている『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない。」(教義と聖約 42:12) 主はまた、末日の預言者の教えを理解し、それに従うことの重要性を断言しておられる。「彼が……わたしの言葉と戒めを受けるとき、あなたがた……は、彼があなたがたに与えるそれらのすべてを心に留めなければならない。……あたかもわたし自身の口から出ているかのように、彼の言葉を受け入れなければならない。」(教義と聖約 21:4 - 5)

1938年に、J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長は、大管長会を代表して、セミナリーとインスティテュートの教師に歴史的な講演をし、次のように述べている。

「皆さんがまず関心を払うべきこと、皆さんの最も大切な、また唯一の義務は、この末日に啓示されたままに、主イエス・キリストの福音を教えることです。皆さんは資料とし、典拠として、教会の標準聖典と、この末日に主の民を導くように神より召された人々の言葉を使って、この福音を教えなければなりません。……

皆さんは職の高低にかかわらず、教会の標準聖典に宣言され、主の思いと御心を教会に伝えるように権能を与えられた人々の宣べた教会の教義を、変えたり修正したりしてはなりません。」(『教育に関する教会の指針』改訂版 [1994年], 12 - 13 参照。教義と聖約 42:12 - 13 も参照)



メモ

これらの教義と原則を、彼ら〔生徒〕が理解し、教化されるような方法で教えます。〔1.3.2〕

教師は、福音の教義と原則を教える方法を決めるとき、生徒がこれらの重要な真理を理解し、聖霊によって教化され高められるような方法を選ばなければならない。教師と生徒は、教義と原則を理解すると、その意味が分かり、それらとほかの原則と教義との関係を知り、救いの計画における、また自分自身の人生におけるその重要性が分かる。人は福音の原則に従って生活し、また心が聖霊によって照らされて初めて、永遠の原則と教義をほんとうに理解できるのである。

教化は聖文を理解すると同時に起こるものである。「edify」(教化する)という言葉は、ラテン語の語根「aedes」(「住居」または「神殿」の意)と「facere」(「作る」の意)から派生したものである(*Collins English Dictionary — Complete and Unabridged* [2003年], “edify” 参照)。したがって、「教化する」とは、神殿の建設に関連しており、霊的に建てる、あるいは強めることを意味している。喜び、平安、啓発、義にかなって生活したいという望みは、教化に関連するものである。教師と生徒が両者ともに教授と学習の過程で御霊の指示に従うならば、聖典では次のことが約束されている。「説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。」(教義と聖約 50 : 22)

わたしたちは、生徒が学習の過程における自らの役割を果たすよう助けます。また、福音を他の人々に教える備えができるよう彼らを助けます。〔1.3.3〕

改心を促し、福音が生徒の心の中に根づくのに助けとなる福音の学習には、教師の側の熱心な努力以上のものが必要である。霊的な学習には、学習者の努力と選択の自由を使うことが必要である。ヘンリー・B・アイリング長老は次のように教えている。「真の改心は、大きな努力とともに、生徒が信仰をもって自由に求めることにかかっています。」(“We Must Raise Our Sights,” 4) デビッド・A・ベドナー長老は、生徒の払う努力がその心に聖霊の影響力を招くことを強調している。

「教師は、説明し、論証し、論し、証^{あかし}することができ、しかも大きな霊的な力をもって効果的に行うことができます。しかしながら、結局、メッセージの内容と聖霊の証は、受ける人がそれを受け入れるときにのみ心に入ります。……

正しい原則に従って行動し、選択の自由を使う学習者は、聖霊に心を開き、聖霊の教えと、証の力と、確信をもたらす証を招き入れます。」(“Seek Learning by Faith” [デビッド・A・ベドナー長老との夕べ, 2006年2月3日] 1, 3)

聖典では、霊的な学習を求める者は、教えを受けるために自分の思いと心を備え、研究と熟考と祈りによって熱心に知識と理解を求め、また聖霊から受ける気持ちに従わなければならないと教えられている(エズラ7:10; 1ニーファイ10:17-19; 教義と聖約138:1-11; ジョセフ・スミス—歴史1:10-20参照)。多くの

生徒にとって、聖文から学ぼうとそのような努力をすることは不慣れであり、多少困難に思われるかもしれない。しかし、教師は、彼らが理解し、受け入れ、福音の学習における役割を果たすのを助けることができる。以下のことを行うように生徒を

「わたしたちは、誠実に一貫して信仰に促された行為を続けることによって、聖霊からの教えを学んで受け入れる意欲があることを天の御父と御子イエス・キリストに示すことができます。」



(デビッド・A・ベドナー, “Seek Learning by Faith,” 3)

励ますことによって、彼らが霊的な学習における役割を積極的に果たす方法を学ぶのを助けることができる。

メモ

- 毎日の聖文研究を習慣とする。
- 御霊の影響を受けるように心と思いを備える。
- 自身の生活に関連のある教義と原則を見つけ、自分の言葉で述べる。
- 熱心な研究と瞑想と祈りによって聖文の理解を深める。
- 福音と福音を生活に応用する方法をもっとよく理解するのに役立つ質問をし、答えを求める。
- 洞察と経験と気持ちを分かち合う。
- ほかに人々に福音の教義と原則を説明し、それが真実であることを証する。
- 印を付ける、相互参照する、聖典研究補助資料を使用するなど、聖文研究の技術を伸ばす。

霊的な学習における自らの役割を果たす生徒は、聖霊から教えを受けようとする意欲を示していることになる。そのような生徒はしばしばもっと聖文に心を向け、感動を覚える。救いの教義と原則をさらにはっきりと理解し、思い出し、また教えられたことをもっとよく応用するようになる。福音の教義と原則を見つけ、質問をし、答えを分かち合うとき、自分自身で研究するための有益な技術も学ぶのである。

このように参加することによって、生徒は自分の家族や友人、そのほかの人々にもっと効果的に福音を教えることができるようになる。また、将来、宣教師、親、教師、また教会の指導者として福音の教義と原則を教えるための備えがもっとよくできるであろう。



「〔生徒が〕参加しようと決心することは選択の自由を使うことであり、そうすると、各個人の必要に適した個人あてのメッセージが聖霊によって伝えられます。参加しやすい雰囲気を作ると、教師が伝えることのできる教えよりもっと重要な教えを御霊が伝えてくださる可能性が高まります。

その参加によって、御霊の指示が生徒の生活にもたらされます。」

(リチャード・G・スコット, "To Learn and to Teach More Effectively," *Brigham Young University 2007–2008 Speeches* (2008年), 4–5)

管理運営する [1.4]

わたしたちはプログラムと資産を適切に管理運営します。 [1.4.1]

管理運営するとは、人々を指導し、人々に仕え、またプログラムと資産について指示し管理することと定義づけることができる。イエス・キリストは、すべての事柄について完全な模範を示す御方として、真実の指導者が持つ神聖な特質の手本を示された。現在の割り当てが何であろうと、セミナーとインスティテュートのすべての指導者と教師は、キリストのような方法で指導し管理する機会と責任がある。

慈愛、ビジョン、謙遜^{けんそん}という特質を備えている人は、主が望んでおられるように主の業を果たすことができる。慈愛、すなわちキリストの純粋な愛は、教師にとって、生徒、神権指導者、親、同僚、スーパーバイザーとの関係の基でなければならない。慈愛とは、単なる気持ちだけではなく、振る舞い方と生き方でもある(モロナイ7:45参照)。ビジョンを持っている指導者は、靈感による指針を与え、目的意識を生み出し、周囲の人々に熱意を注ぎ込む。聖典では、ビジョンがなければ民は滅びると教えられている(箴言29:18参照)。謙遜な管理者と教師は、自分が主に依存していることをよく理解し、また「セミナー・インスティテュートの目的」を達成す

メモ

るためにはほかの人々と緊密に協力して働こうとする。主は次のように述べておられる。「人は謙遜であり、愛に満ち、信仰と希望と慈愛を持ち、また自分に任せられたすべてのことについて自制しなければ、だれもこの業を助けることはできない。」(教義と聖約 12:8)

「慈愛は長く堪え忍び、親切であり、ねたまず、誇らず、自分の利益を求めず、容易に怒らず、悪事を少しも考えず、罪悪を喜ばないで真実を喜び、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」



(モロナイ 7:45)

すべての教師と指導者は、適切にプログラムと資産について指示し管理する機会と責任がある。管理運営上の責任は、個人に祝福をもたらすという霊的な目的のためにある。「予算を立て、レポートを作成し、教会の所有物や資産に配慮し、安全を確保し、プログラムを監督し、評議会に参加〔し、生徒や親、神権指導者と話し合うことは〕すべて、管理運営上のきわめて重要な務めである。」(『適切に管理運営する——教会教育システム指導者ならびに教師用手引き』〔2003年〕、2)ヘンリー・B・アイリング長老は次のように教えている。「皆さんが仕えている人々のために現世の事柄を適切に行うことの霊的な価値を、決して、決して過小評価しないでください。」(“The Book of Mormon Will Change Your Life”〔モルモン書に関するCESシンポジウム、1990年8月17日〕、7)

わたしたちの働きは、親が家族を強める責任を果たすための助けとなるものです。〔1.4.2〕

子供にイエス・キリストの福音を教える第一の責任は、親にある。親は子供の社会性の発展、対人関係、服装と身だしなみの標準を監督すること、また教義上の質問に答えることについても責任を負っている。教会の指導者は、親がこの責任を果たすのを助ける。

セミナーとインスティテュートの指導者と教師は、第1に、親を支援する。そのために、聖典と預言者の言葉に見いだされるままのイエス・キリストの福音を生徒に教え、教義的に見て家族が重要であることと、家族と家族の活動を優先することの重要性を強調する(『適切に管理運営する』4参照)。教師は生徒に、親を敬い、親に助言と指導を求めるように励まさなければならない。教師はまた、クラスで教えていることを親と分かち合うこともできる。

わたしたちは、生徒に参加するように勧め、また、生徒が互いに交わり、ともに学ぶための霊的な環境を提供するうえで、神権指導者と密接に協力して働きます。〔1.4.3〕

宗教教育セミナー・インスティテュートのプログラムはすべて、適切な神権の鍵^{かぎ}を保有している中央と地元の神権指導者の両方の指示の下で運営される。

青少年とヤングアダルトに祝福をもたらす努力をするに当たって、セミナーとインスティテュートの指導者と教師は、地元の神権指導者と密接に、また緊密に協力して働くことが重要である。神権指導者の指示の下で、指導者と教師は、話し合い、協力して、確実に各青少年とヤングアダルトが登録し、出席し、適切な学習コースを修了するように彼らに勧め、彼らを励ます。教師と管理者は、神権指導者と積極的に連絡を取り合い、生徒をセミナーとインスティテュートに登録し定着させるようにしなければならない。クラスに来ている生徒だけを教えることで満足してはならない。

セミナーとインスティテュートの指導者と教師は、既定の方針と手続きに添って、神権指導者と密接に協力して、クラスのために設備の準備をし、証^{あかし}が強められ福音の知識が増す適切な霊的かつ社会的環境を備える。教師と管理者は、現行のセミナーとインスティテュートの方針に従わなければならない。また、社交活動と奉仕活動の種類と頻度について地元の神権指導者と協議し、神権指導者や補助組織指導者が計画し実施する活動を妨げず、むしろ支援できるようにする。

教師と管理者は、若い男性と若い女性の指導者とも緊密に協力して働き、また「神への務め」プログラムと「成長するわたし」プログラムに参加するように適切に青少年を励まさなければならない。可能であれば、セミナー教師は、青少年が必要としていることについて、青少年のほかの教師やアドバイザー、指導者と相談しなければならない。

(セミナーとインスティテュートの管理運営に関する原則と業務の詳細については、手引き『適切に管理運営する』を参照する。)

メモ

Lined area for taking notes.



2

福音を教え学ぶときの基本

「宗教教育セミナー・インスティテュートの目的」では、「教える」際の3つの主要な目的が示されている。管理者と教師は、宗教教育セミナー・インスティテュートの目的を達成するためにこれを行うように努める。

1. わたしたちは生徒に、聖典と預言者の言葉に見いだされるままの福音の教義と原則を教えます。
2. これらの教義と原則を、彼らが理解し、教化されるような方法で教えます。
3. わたしたちは、生徒が学習の過程における自らの役割を果たすよう助けます。また、福音を他の人々に教える備えができるよう彼らを助けます。

これらの目的を達成できるよう助けるために、セミナーとインスティテュートの教師と生徒は、「福音を教え学ぶときの基本」を実行するように特に勧められている。

福音を教え学ぶときの基本

教師と生徒が行うべきこと

- 御霊^{みたま}によって教え、学ぶ。
- 愛と敬意と目的意識のある学習環境を作る。
- 毎日聖文を研究し、コースの聖典を読む。
- 聖典と預言者の言葉の背景と内容を理解する。
- 福音の教義と原則を見つけ、理解し、それらが真実であり重要であることを感じ、それらを応用する。
- 福音の教義と原則を説明し、分かち合い^{あかし}、証する。
- 重要な聖句と基本的教義に精通する。

これらの原則と実践と結果は相互に関連し合っている。これらの基本的な事柄を、賢明に、また相互に調和を保って実行するとき、生徒は、聖文と聖文に含まれている教義と原則を理解する能力を身に付けることができる。また、福音の学習における役割を積極的に果たすよう生徒に促し、福音に従って生活して福音をほかの人々に教える能力を増し加える。

御霊^{みたま}によって教え、学ぶ〔2.1〕

福音を教え学ぶことは、聖霊の力によって行われる。御霊による教授と学習は、聖霊が役割を果たされるとき、すなわち聖霊が教師、生徒、またはその両者ととも働かれるときに行われる。御霊によって教え学ぶことによるのみ、生徒はイエス・キリストの教えと贖い^{あがな}について理解しそれに頼るようになり、永遠の命の資格を得ることができる。

ヘンリー・B・アイリング管長は、霊的な学習において聖霊が果たされる重要な役割を強調し、次のように教えている。「生徒は、聖なる御霊によって教えられないかぎり、神について知ることはできませんし、本来あるべき愛し方を知ることもできません。御霊によってのみ、生徒は、神がわたしたちを深く愛してわたしたちの罪を償うために御子を遣わして下さったこと、イエスが神の御子であられること、またキリストが罪の代価を支払って下さったことを知ることができるのです。御霊によってのみ、モルモン書が神の真実の言葉であることを知ることができるのです。そして、靈感によってのみ、永遠の命を受けるために必要な儀式を与えて下さっている御父と御子の愛を感じることもできます。聖霊によって心の中に深く植え付けられるそれらの証^{あかし}を得ることによってのみ、生徒は、確かな土台の上に足を置き、人生の誘惑と試練を通じてしっかりと立てることでしょう。」(“To Know and to Love God” [ヘンリー・B・アイリング管長との夕べ, 2010年2月26日], 2)

以下のリストは、福音を教え学ぶ際に聖霊が果たされる役割に関連してその働きの幾つかを述べたものである。

- 父なる神と御子イエス・キリストについて証して下さる (1コリント 12:3; エテル 12:41 参照)。
- 教師と生徒の両方を教化される (霊的に高める, あるいは強める) (1コリント 14:12; 教義と聖約 50:22 - 23; 84:106 参照)。
- 喜び, 愛, 平安, 忍耐, 温厚などを含む「御霊の実」を授けて下さる (ガラテヤ 5:22 - 23; ローマ 15:13; 教義と聖約 6:23; 11:12 - 13 参照)。
- 権威をもって大胆に語る力を人に与えられる (1ニーファイ 10:22; アルマ 18:35; モロナイ 8:16 参照)。
- 福音の教義と原則が真実であることを証して下さる (ヨハネ 15:26; 教義と聖約 21:9; 100:8 参照)。
- 真理, 知識, 洞察, 理解, 啓発を与えて下さる (ヨハネ 16:13; 1コリント 2:9 - 11, 14; 教義と聖約 6:14; 11:13 - 14; 76:5 - 10, 116 参照)。
- 教師と生徒がアイデア, 概念, 原則を思い出せるように助けて下さる (ヨハネ 14:26 参照)。
- 言うべきことと言ってはならないことについて靈感を与えて下さる (ルカ 12:11 - 12; 2ニーファイ 32:7; 教義と聖約 84:85; 100:5 - 6 参照)。
- 真理を人々の心に伝えて下さる (2ニーファイ 33:1 参照)。
- 人々の心を和らげて下さる (1ニーファイ 2:16; アルマ 24:8 参照)。
- 慰めを与えて下さる (ヨハネ 14:26; 教義と聖約 88:3 参照)。
- 聖^{きよ}め, 心を変えて下さる (モーサヤ 5:2; 3ニーファイ 27:20; モロナイ 6:4 参照)。

教師は、霊的な学習における聖霊の重要な役割を理解すると、これらの働きを果たされる御霊を招くために、自分が行えることをすべて行うであろう。これを行うために、個人としてふさわしくあるように努めるであろう。「信仰の祈り」をささげ



メモ

(教義と聖約 42:14), またそれぞれのレッスンの準備を十分に行おうとするであろう。生徒の学習経験に焦点を当てるようにし、またほかのことに心を奪われたり心配したりせずに心を穏やかにするように努めるであろう。謙虚な探究心を持つであろう。また、学ぶ過程で聖霊を招くように生徒に勧めるであろう。

教師と生徒は、聖霊を受けやすくする助けとして以下のことを行える。

- 有意義なディボーションを行う。
- 聖典と預言者の言葉を読み、教える。
- 救い主の模範と救い主に関する話し合いに焦点を当て、救い主について証を述べる。
- 福音の教義と原則について簡潔明瞭^{めいりょう}に述べる。
- 静かな中で靈感を受けられるように深く考える時間を取る。
- 適切な個人の経験を分かち合い、教義と原則について証する。
- 霊を鼓舞する音楽を使う。
- 互いと主に対して愛と感謝を表す。

教師は次のような質問を考えることによって、クラスに御霊の働きがあるかどうか知ることができる。

- 生徒は、救い主、福音、聖文に対する愛が増していると感じているだろうか。
- 生徒は、教えられている原則をはっきりと理解しているだろうか。
- 生徒は、教化され、学んだ原則を行動に表す促しを感じているだろうか。
- クラスの和合一致が増しているだろうか。
- 証を述べ、証を強くしているだろうか。
- 生徒は、学ぶことに興味を持ち、学び続けているだろうか。
- 教室に「愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実」の気持ちがあるだろうか (ガラテヤ 5:22)。

「クラスの中に主の御霊がとどまるようにしたければ、穏やかな雰囲気は絶対に不可欠です。」

(ジェフリー・R・ホランド「教会で教え、学ぶ」『リアホナ』2007年6月号、59)



いかに才能があっても、あるいは忠実であっても、御霊の働きをなせる教師はだれ一人としていないことを覚えておくことが重要である。時折、霊的な経験を作り出そうとする教師がいる。ボイド・K・パッカー長老は次のように教えている。「霊的な事柄に無理強いはいきません。……豆に無理に芽を出させたり、卵にひなにかえるように命じたりすることができないように、無理に御霊から答えを引き出すこともできません。皆さんにできるのは成長を促す環境作りをし、養い、守ることであり、無理強いはいきません。成長を待たなければならないのです。」(「主のともしび」『聖徒の道』1983年10月号、40 参照)

御霊によって教えようとする教師は、自分の知性や教える技術、人柄だけに頼ってはならない。聖霊の影響に頼るようにはしなければならない(2ニーファイ4:34 参照)。また、感情をおおったり、あるいは御霊がある証拠として意識的に涙を誘おうとしたりすることは避けなければならない。ハワード・W・ハンター会長は次のように注意している。「毎日教室で教えている教師……として、わたしたちは、気をつけなければ、ふさわしくない作為的な手段によって主の御霊の真実の影響

を模倣しようとし始めるかもしれません。感情の高まりや流れ出る涙が御霊の臨在と同一視されるような状況をわたしは心配します。確かに主の御霊は、涙など、情緒的な強い感情をもたらすことがあります。しかし、その外面的な現れを御霊そのものの臨在と混同してはなりません。」(“Eternal Investments” [ハワード・W・ハンター会長との夕べ, 1989年2月10日], 4)

教師は、「御霊から……と告げられました」とか、「……するようにと御霊が言いました」などという言葉の使い方には気をつけなければならない。故意であろうとなかろうと、このような言葉は、自分で自分を宣伝するものと思われたり、霊的水準が高いという過大評価をほのめかすことになったりしかねず、結局は霊的な事柄を無理強いするものである。通常、教師は、自分が御霊に促されていることを公言せずに、御霊の促しに従って行動すればそれで十分である。

ヘンリー・B・アイリング長老はこのように勧告している。「生徒に御霊を伴う経験を与えることは、それについて話すことよりもはるかに重要です。また、御霊について経験することは人によって少し違うということを知っておいてください。……それは非常に個人的なものであるので、あまり多く具体的な話をしないように少し慎重になった方がよいと思います。御霊を伴う経験は……『御霊を感じていますか』と言い続けるよりもよいのではないかと思います。『御霊を感じていますか』と言い続けることは逆効果になる危険性があると思います。」(“Elder Richard G. Scott and Elder Henry B. Eyring Discussion” [CES 訓練衛星放送, 2003年8月], 8)

教師は、御霊によって教えるということは、指定された教科課程用資料を使うことを含め、熱心によく考えてレッスンを準備する責任を排除するものではないということに留意しなければならない。他方、祈ることや考えること、あるいは可能な変更を加えることをせずに、教科課程用資料のすべての提案に従うというのではなく、御霊によって教えるにはそれ以上のことが必要である。さらに教師は、レッスンの概要に厳密に従うことに集中するあまり、心を開くことをしない、つまりクラスの間中に御霊を受けて御霊からの印象に従わないということのないようにしなければならない。

愛と敬意と目的意識のある学習環境を作る [2.2]

教師と生徒が、主と互いと神の言葉を愛し尊ぶとき、学習が促される。目的意識を共有すると、努力と期待を集中させ、また教室での経験が方向づけられる。愛と敬意と目的意識のあるこのような環境を作ることは、教師と生徒の両方の責任であり、聖霊の影響力による教化をもたらす。

愛と敬意 [2.2.1]

愛は心を和らげ、聖霊の影響力を招く。教師は、救い主が人々を愛されるように愛するとき、救い主が御覧になるように人々を見る。教師は、キリストのような愛があれば、若い男性と女性一人一人が真の改心を遂げられるように助けることを決してやめない。ダリン・H・オックス長老は次のように教えている。「教える召しを受けるときに、わたしたちは永遠の父なる神と御子イエス・キリストを愛しているためにその召しを受け、そして教えるべきです。そのうえで、福音の教師は生徒への

メモ

メモ

愛をもって常に教えなければなりません。……わたしたちを奉仕に駆り立てる最も崇高な動機は、神に対する愛と神の子供たちに対する愛です。愛に基づいて教える人は、自分が仕えている御方の御手に使われる者として尊ばれることでしょう。」(「福音を教える」『リアホナ』2000年1月号, 95参照)



主を愛し、自分たちに対する主の愛を知っている教師と生徒は、主に近づき、もっと主のようになりたいと心から望むようになる。教師と生徒は、主の言葉と預言者の言葉を尊び、敬うと、熱心に聖文を研究し、学ぶことを応用し、また学んでいることをほかの人々と分かち合いたいと思うようになる。

生徒は、教師やほかの生徒から愛され、尊敬されていると分かれば、学ぶ準備が整っているクラスにやって来るであろう。受け入れられ、愛されていると感じれば、心が和らぎ、恐れが薄れ、自分の経験と気持ちを教師やクラスのほかの生徒と分かち合いたいという望みとそれに必要な自信を持つようになるであろう。

教師は、生徒が贖罪を理解するように助けることにより、生徒に彼らの神聖な性質と、天の御父と御子にとって無限の価値があることを教えることにより、また適切に敬虔な方法で御二方につ

いて語り証することにより、生徒の主に対する愛と尊敬の気持ちを養うことができる。

教師は、生徒に対して抱いている愛と尊敬の気持ちを増すようにしなければならない。そうすることは、生徒に対してキリストの純粋な愛を放つのに役立つ、また忍耐と思いやりをもって教えるのに役立つであろう。教師は、生徒の名前を覚え、彼らの関心事、才能、努力目標、能力を知るように努めることができる。生徒全体のために、また各々のためにも祈ることができる。クラスに来るすべての生徒を自ら歓迎し、またすべての生徒に参加する機会を与えることができる。生徒が質問するときや自分の考えや気持ちを分かち合うときに、注意深く耳を傾けなければならない。さらに、生徒が参加する催し物やスポーツ競技、その他の行事に行くときよい。生徒を愛するように努力はしても、親や神権指導者に代わろうとしたり、生徒の個人的な相談相手になろうとしたりしてはならない。

「たといわたしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘やさわがしい鑊鉢と同じである。



たといまた、わたしに預言をする力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても、また、山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、わたしは無に等しい。」

(1コリント13:1-2)

ほとんどの教師には、ある程度、能力に限界のある生徒や心身に障がいのある生徒がクラスにいるであろう。彼らも天の御父の子供であり、現世で経験する問題や制限にかかわらず福音を学ぶ必要がある。預言者ジョセフ・スミスはこのように教えている。「神がかつて世に送られたすべての精神と霊は、成長することができます。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』[2007年], 210) 教師は、生徒の全員にこまやかに気を配り、レッスンを準備し、行うときに彼らの個人的な必要と能力を考慮する必要がある。

教師が生徒に対する真心からの愛を増すために行える最も有益なことの一つは、心から祈って慈愛の賜物を求めることである。

預言者モロナイはこのように教えている。「したがって、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの

愛で満たされるように、また神の子となれるように、熱意を込めて御父に祈りなさい。」(モロナイ7:48)

メモ

目的意識 [2.2.2]

教師と生徒が目的意識を共有すると、信仰が増し、教室での経験の指針が定まり、経験が意義深いものとなる。生徒は、天の御父と御子イエス・キリストを知るようになるために、また聖典と預言者の言葉を研究することによって永遠の命に向かって進むためにクラスに出席しているということを理解するであろう。また、生徒は、探究と祈りの姿勢で主に近づくことによって、聖霊により教えられ教化されることができると信じるであろう。教師と生徒が、御霊^{みたま}によって学べる、また互いから学べるという期待をもって聖文研究に取り組むとき、啓示を招く環境が整えられる。

教師は以下のことを行うことによって教室で目的意識を持つように促すことができる。

- 学習者としての役割を果たすことを生徒に期待する。目的意識があるクラスでは、教師は生徒に学習者としての役割を果たすことを期待し、そうすることによって生徒を助けている。また、そのようなクラスでは、生徒は有意義な方法で貢献するという信頼を得ている。生徒を心から愛し、目的意識を持っている教師は、わずかな努力で満足しないで生徒の成長と成功に十分に気を配る。このような教師は、愛をもって励まし、生徒が学習者としてもイエス・キリストの弟子としてもその潜在的な能力を発揮するように彼らを高めるであろう。
- 聖文と福音について誠実で、熱心で、精力的である。生徒は、教師が話し合いの対象となっている題材に熱意と信仰を持っていると感じるとき、通常、目的を持って学びたいという、より大きな望みを持つものである。
- 教化するレッスンを準備する。教師は、教化するレッスンをよく準備してクラスに来て、従うように導かれた指示を信頼するとき、生徒に目的意識が伝わり、生徒はそれを容易に理解することができる。
- 必要な資料と機器を準備する。教師は、必要な資料と機器を準備するために、生徒よりも先に教室に到着しなければならない。そうすれば、到着する生徒の一人一人にあいさつすることができる。生徒は、時間どおりに教室に来て、クラスが始まる前に机に向かい、聖典やマーカーペン、日記など、然るべき学習教材をすべて準備しておくようにしなければならない。
- 時間を無駄にしない。クラスが時間どおりに始まり、無駄な時間はないと生徒が分かるとき、生徒は目的意識を感じるであろう。
- クラスの手順を定めておく。クラスでしばしば繰り返す物事の手順を定めておくことは、秩序感覚と目的意識をもたらす。クラスの手順はすべての生徒の参加を促し、教師と生徒が貴重なクラスの時間をもっと有効に使うのに役立つ。聖典と学習教材を受け取り、片付ける、心を啓発するディボーションを計画し、提供する、配付物や資料を配り、集めるなどの作業の手順を定めておくことができる。発表事項を伝えること、生徒の出席記録をつけること、割り当てを確認すること、その他の事務を行うことは、ディボーションとレッスンの前に済ませておくのがよい。

メモ

適切な学習環境を作るための追加の提案〔2.2.3〕

愛と敬意と目的意識のほかに、理想的な福音の学習環境には、秩序、^{けいけん}敬虔、平安な気持ちもある。ボイド・K・パッカー長老は、「靈感は穏やかな環境の中ではいっそう容易に与えられ」、また「敬虔さが啓示をもたらす」と教えている（「啓示をもたらす敬虔さ」『聖徒の道』1992年1月号、23）。以下に挙げるのは、福音を学ぶ助けになる環境を設け、維持するために教師が用いることのできるその他の提案である。

物理的な学習環境を整える

物理的な環境は生徒が福音の学習で経験することに影響を及ぼすことがある。教師は、生徒が快適に感じ、レッスンに集中できるように、教室の準備をするためにできることをすべて行わなければならない。考慮すべき事柄として以下のことがある。

座席。 何か特別な事情がないかぎり、生徒皆が楽に座り、書いたり、聖典や学習教材を置いたりする席がなければならない。また生徒が教師や教師の用いる視覚資料を見やすい座席配置でなければならない。可能な場合、様々な学習活動に応じて座席配置を変えてもよい。席を決めておくと、教師が生徒の名前を早く覚えるのに役立ち、小人数のグループ学習やマスター聖句の活動のためにクラスを編成するのに便利であり、またレッスン中に互いにおしゃべりをしがちな生徒を引き離すことができる。教師は、集中できないあるいは視力障がいのある生徒によく気を配って席を配置し、レッスンへの参加を促すようにする。

気を散らすもの。 教師は、教授と学習を妨げかねないような、気を散らすものを取り除くように努めなければならない。家庭で教える場合は、特に難しいことがあるかもしれない。しかしその場合でも、入念に計画すれば、妨げとなるものを最小限に抑えることができる。

教室の環境。 福音に関連した絵や写真、イラスト、ポスターなどの展示で学習環境を良くすることができる。きれいで、清潔で、整頓された教室も人を敬虔にし、^み御霊の影響を受けやすくする環境となる。



教師の外見。 教師の服装と身だしなみが慎み深く、適切であり、福音のメッセージの神聖さを反映するものである場合、生徒はもっと学習経験の重要性を理解しやすくなる。

ディボーションalを効果的に行って御霊を招く。

クラスの始めに短いディボーションalを行わなければならない。ディボーションalは、思いと心を霊的な事柄に向けさせることによって生徒を結束させるすばらしい方法である。それによって、教師と生徒は御霊を感じ、学ぶ準備をすることができる。ディボーションalは通常、賛美歌、祈り、聖文を読んで得た考えから成る。生徒が個人の聖文研究で得た気持ちと洞察を分かち合い、^{あかし}証を述べる時、それは非常に効果のあるものとなる。時間の長い、あるいは手の込んだディボーションalでは、レッスンの時間が短くなるだけでなく、実際に御霊が退いてしまう恐れがある。ディボーションalにリフレッシュメントを出すと、霊的というより

も、軽々しい陽気な雰囲気になってしまう。教師は、ディボーショナルの目的と、ディボーショナルを改善するために行える事柄と、すべての人に参加を促すことのできる方法について、生徒たち、特にクラスリーダーと時間を割いて話し合う必要がある。

メモ

霊的な学習の原則について話し合う。

教師は、年度の始めに生徒を交えて、どのような状態であれば霊的な学習が促されるかについて話し合うとよい（1コリント2：10－11；教義と聖約50：17－22；88：121－126参照）。これらの話し合いでは、福音を学ぶときにともにいるように主の御霊を招く態度と、また御霊が退く原因となる態度にも焦点を当てるとよい。教師と生徒は、御霊を招くために同意した事柄を実践するために絶えず互いに励まし合わなければならない。このような努力は、生徒と教師の両方が、学ぶ過程で御霊を招くために果たす役割を理解し、その役割を果たすのに役立つであろう。

学習活動を注意深く選ぶ。

教師は、様々な学習活動が生徒の気持ちや態度を様々に変えるということを知っておかなければならない。例えば、クラスの始めににぎやかなゲームをして教えた後、レッスンを霊的に終えることができなくなって困った教師がいる。また、クラスの間にリフレッシュメントを出したときに、規律の問題がさらに大きくなるということを知った教師もいる。

生徒の行動に注意を払い、適切に対応する。

教師は、レッスン中に起こっていることに気を配り、適切な方法で対応しなければならない。生徒が退屈そうであったり、落ち着かない様子であったりする場合、それは、レッスンに集中していないか、あるいは、教えられている事柄を、もしくはそのレッスンが自分にどう当てはまるかを理解していないためと考えられる。教師は、生徒が集中するのを助けるために、レッスンの提示方法を何か変える必要があるかもしれない。生徒が不適切な行動をし、クラスから御霊を退かせるような原因を作っている場合、それを無視するのではなく、靈感を求めてその問題に対処する必要がある。教師は、ほかの生徒との会話がないう生徒や孤独に見える生徒にも気を配らなければならない。そのような生徒には、教師やクラスのほかの生徒からの個人的な関心がさらに必要かもしれない。そのような場合、教師は、知っておく必要のある根本的原因や事情があるかどうか確認するために親と神権指導者に話すことよい。

秩序を乱す行為や不適切な行為を正す。

教師が教室に適切な秩序と敬意をもたらすのに役立つ、心に留めておくべき一般的な原則が幾つかある。秩序があるとは、必ずしも完全に沈黙するというのではなく、またクラスが楽しく愉快な所であってはならないということでもない。しかし、秩序を乱したり不敬な言動をしたりする生徒やグループは、学習に悪い影響を与えたり、聖霊の影響力が及ぶのを妨げたりすることがある。

メモ

「愛すべき人よりも、解決すべき問題の方を重要視しないでください。」

(トーマス・S・モンソン「人生の旅路に喜びを見いだす」『リアホナ』2008年11月号, 86)



生徒の一人あるいはグループの行儀が悪いと、それによって教師とほかの生徒がいらいらすることがある。そのような場合、教師にとって特に大切なのは、自分の感情をコントロールし、御霊の影響力を求めることである。起こっている出来事に教師がどのように対応するかは、出来事そのものよりも重要であり、生徒の敬意と信頼感を増すこともあれば、減じることもある。教師は、不適切な行為を正す場合、確固とした姿勢を示しながらも、優しさと公平と心配りも示し、その後すぐにレッスンに戻る必要がある。生徒を公然とあざけることは、一時的に生徒の行為を正すのに役立つかもしれないが、教師と生徒のどちらをも教化しない。また、ほかの生徒たちが教師を恐れたり、信頼しなくなったりするという結果を招く危険性もある。教師は、説得、寛容、温厚、柔和、偽りのない愛、優しさという義にかなった影響力のことを心に留めておかなければならない(教義と聖約 121: 41 - 42 参照)。

問題が起きたときに、教師がその問題を処理するために取れる具体的な方法が幾つかある。これらの方法を使えば、すべての生徒やあらゆる状況に同じ方法では対応できない規律の問題に対処できる可能性がある。

- **目を合わせる。**生徒は、教師に気づかれたいと考えて、不適切なときにおしゃべりをすることがある。そのような場合、教師はその生徒たちの方を向いて目を合わせ、起きていることに教師は気づいているということを知らせる。
- **話すのを中断する。**話を聞くべきときにおしゃべりをしている生徒がいる場合、教師は、必要であれば話している途中であっても、話すのを中断する。彼らより大きな声を出して話しても、通常は問題の解決にはならない。
- **近づく。**不適切な行動を直接に指摘せずに正すもう一つの方法は、問題の生徒に近づいて、傍らに立つことである。この方法を取ると教師はレッスンを続けることができ、生徒も通常は教師の存在を感じて、していることをやめるものである。
- **質問する。**不適切な行動そのものには触れず、問題の生徒にレッスンに関連した質問をする。そうすれば、恥ずかしい思いをさせずに、生徒をレッスンに引き戻すことができる。

あまり直接的でないこれらの方法に生徒が反応せず、まだクラスの妨げとなることがあるかもしれない。その場合、以下のようなもっと直接的な方法を取って、秩序の維持を図ることができる。

- **問題の生徒と個人的に話す。**主は、もしだれかがほかの人に害を及ぼした場合、害を受けた人が自分に害を与えた人と「二人だけで」話し合わなければならないと述べておられる(教義と聖約 42: 88)。教師は、生徒が不適切な行動を取っている理由について本人と話し合い、態度を変えなければならないこと、そうしなければほかの手段を取るようになることをその生徒に知らせる。教師は、生徒の行動とその個人の価値とを区別するようにしなければならない。「人の価値が神の目に大いなるものである」ことを覚えておくことが重要である(教義と聖約 18: 10)。教師は、好ましくない行動は容認できないが、その生徒は価値ある存在であることを生徒

に伝えなければならない。また、主の勧告に従うことを心に留めて、「あなたの責めた人……にいつその愛を」示さなければならない（教義と聖約 121：43）。

- 妨害する生徒たちを引き離す。
- 親や神権指導者と相談する。容認できない行動が続く場合、教師がその生徒の親と相談することはしばしば有益である。問題を解決するのに役立つさらなる洞察とアイデアを親から得られることがよくある。生徒のビショップから助けが得られる場合もある。
- 生徒をクラスから出す。デビッド・O・マッケイ大管長は教師に次のように勧告している。「[あなたの努力が] 実を結ばなければ、その親に訴え、『もし行動がこのまま改まらなければ、登録を取り消さざるを得ません』と話してもよい。これは非常に厳しい処置である。教師は〔生徒〕の登録を取り消すことができる。ただし、そうする前にほかのあらゆる手立てを尽くすべきである。しかし、秩序がなければならない。それは人の成長に必要なものであり、一人〔の生徒〕が、あるいは二人〔の生徒〕がその要素を生み出すことを拒むなら、彼らを去らせなければならない。クラス全体が徐々に毒されていくよりは、一人〔の生徒〕が飢える方がよい。」（“The Teacher’s Greatest Responsibility” *Instructor*, 1965年9月号, 343）

生徒に長期間の出席停止を伝える前に、教師は、親、セミナーとインスティテュートのスーパーバイザー、また担当の神権指導者と相談しなければならない。そのような場合、教師にとって大切なのは、次の点を生徒と親が理解できるように助けることである。すなわち、容認できない行動を選ぶということはセミナーに出ない選択をするに等しい。容認できないのは妨害行為であり、生徒ではない。選びを変える生徒はクラスに戻ることができる。

メモ



「反応を示さない生徒には今は教えることはできないかもしれませんが、愛することはできます。そして、今日、愛することができるなら、明日は教えることができるかもしれません。」

（ジェフリー・R・ホルランド「教会で教え、学ぶ」『リアホナ』2007年6月号, 70 参照）

毎日聖文を研究し、コースの聖典を読む〔2.3〕

毎日聖文を研究する〔2.3.1〕

毎日の個人の聖文研究は、教師と生徒にとって、福音を学び、証^{あかし}を増し、主の声を聞く絶えざる機会となる。主は教義と聖約の中で次のように述べておられる。「聖文が、あなたがたを教えるためにわたしから与えられている。」（教義と聖約 33：16）預言者ニーファイは、「キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、……永遠の命を受ける」と教え（2 ニーファイ 31：20）、また「キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げる」とも教えている（2 ニーファイ 32：3）。

末日の預言者は、毎日聖文を学ぶことの重要性を強調している。ハロルド・B・リー大管長は次のように忠告している。「もし毎日聖文を読んでいないとしたら、わたしたちの証は次第にやせ細り、霊性が深まることもありません。」（『歴代大管長の教え—ハロルド・B・リー』〔2000年〕, 70）ハワード・W・ハンター長老も次のように教えている。「毎日聖文を勉強する人の方が、長時間勉強したかと思うとぱったり休むという人よりも、はるかにはかどることは確かです。」（『聖典を読む』

メモ

『聖徒の道』1980年3月号, 87)

リチャード・G・スコット長老は次のように勧めている。「どうぞ大切な青少年一人一人の思いと心に聖文への愛を燃え上がらせてください。青少年一人一人の中でその消すことのできない炎が燃え上がるようにしてください。炎は、それを感じた人々を、絶えず主の言葉を知り、主の教えを理解し、それを実践し、それをほかの人々と分かち合いたいという望みを持つように動機づけることでしょう。……

まず、生徒が主の神聖な言葉について多くを学ぶとき、一步一步生徒とともに歩んでください。聖文に対する皆さんの熱意と敬意と愛を彼らが感じられるようにしてください。

第2に、生徒が聖文を読み、深く考え、ひそかに祈るようにして、聖文からわき出る力と平安を見いだせるように助けてください。」「(“Four Fundamentals for Those Who Teach and Inspire Youth” [旧約聖書に関するCESシンポジウム, 1987年8月14日] 5)

「生徒を強める前に、皆さんが研究と信仰の両方によって王国の教義を調べ、福音を学ぶことが不可欠です。」

(エズラ・タフト・ベンソン, “The Gospel Teacher and His Message” [CES宗教教育者への講話, 1976年9月17日] 3)



生徒が聖文を大切に日々研究するようになるのを助けること以上に、教師が生徒の生活により力強く永続的な良い影響を及ぼせることはほとんどない。教師が自分の生活で日々の聖文研究の模範を示すことから、しばしばこれが始まる。毎日有意義な個人の聖文研究を行う教師は、自らの生活における聖文の価値について個人の証を生徒に述べる資格がある。このような証は、生徒が自分自身で定期的に聖文を研究しようと決意するのに役立つ重要な要素となる。

教師は、日々の個人の聖文研究の背景となる教義と原則を一貫して教えるべきである。教師はまた、個人の聖文研究の時間を毎日取るように生徒一人一人を励まし、また実績が分かる適切な確認方法を使って、毎日研究するという責任を生徒が引き受けるように助け、さらに個人の聖文研究で学び、感じていることを幾らか互いに分かち合う機会をクラスで定期的に与えることができる。毎日の聖文研究を促すときは、自分で聖文を研究しようと懸命に努力している生徒を当惑させたり、やる気を失わせたりしないように気をつけなければならない。

「絶えず命の言葉をあなたがたの心の中に大切に蓄えるようにしなさい。」

(教義と聖約 84 : 85)



識字障がいなどの学習障がいがある生徒には、音声や手話、点字など、生徒の必要により合った方法で聖文を学ぶ選択肢を与えるようにしなければならない。読むのに苦勞する生徒の多くにとって、ほかの人が声に出して読んでいる間、そのページを目で追うことは有益である。

聖文研究の技術と方法

生徒が個人の聖文研究をよく行えるようにするために、教師は、生徒が聖文研究のいろいろな技術と方法を身に付けて活用するのを助けることができる。以下に挙げるすべての技術と方法、ならびにこの手引きに述べられていないその他の技術と方法を指導して、生徒が御霊によって学び、聖文を理解し、福音の教義と原則を見つけ、それらを生活に応用する際の助けとする。

聖典研究補助資料を使う。教会は広範囲にわたる聖典研究補助資料を作成し、幾つかの言語で標準聖典に載せている。(ほかの言語でも『聖句ガイド』として準備されている。)補助資料として、脚注、章の前書き、項目別索引、『聖書辞典』(Bible Dictionary)、地図などがある。これは、教師と生徒が聖文を研究するときに利用できる最も価値のあるものである。教師は、この研究補助資料をクラスの間で適切に使って、生徒がこれに精通するように助けることができる。教会はまた、その他の有益な研究資料をオンラインで利用できるようにしている。

メモ

印を付け、注釈を施す。教師と生徒にとって、学んだことに注意を払い、忘れないようにするための最も有益な方法の一つが、聖文に印を付け、注釈を施すことである。印を付けるとは、明示する、区別する、際立たせる、あるいは留意を促すことである。そのために、聖文の大切な言葉や語句に傍線を引いたり、色を塗ったり、要点を書いたりする。注釈を施すとは、解説の言葉を書き加えることである。聖文の注釈の例として、個人として感じたこと、預言者の注解、相互参照、言葉の定義、クラスの生徒のコメントから得た洞察を、特定の聖句の隣の余白部分に書くことなどがある。

聖文に印を付け、注釈を施すことは、教師と生徒にとって次の点で役立つ。

- 重要な言葉、語句、概念、真理、人物、出来事を思い出すことや見つけることが容易になる。
- 聖文の意味が明確になり、よく分かる。
- 自分が得た洞察とほかの人々から得た洞察を残しておく。
- ほかの人々に福音を教える準備ができる。

教師は生徒に次のように言って、聖文に印を付けるように促すことができる。「この聖句を調べるときに、皆さんが見つけた大切な原則に印を付けるようにしてください。」「これは大切な相互参照聖句です。聖典の余白に書いておくとよいでしょう。」聖文に印を付けることについては、特定の方法を教えるよりも、年度を通してその基本要素を教え、説明し、実行する方がよい。

深く考える。深く考えるとは、ある事柄について^{めいそう}瞑想する、あるいは熟考することを意味し、それにはしばしば祈りが伴う。生徒が個人の聖文研究のときに深く考えるようになると、御霊がしばしば真理を明らかにし、どうすればもっとイエス・キリストのようになれるかを知る助けを与えてくださる。

救い主はニーファイ人を教えた後、彼らに次のように言われた。「わたしが述べたことを深く考えなさい。」(3 ニーファイ 17:3) 霊的にレッスンに参加し、学んでいることを実践して理解を深めるように生徒を促す一つの方法は、学んだことについて瞑想する時間をクラスで与えることである。そのようなときに、教師は、主の助けを求めるように生徒に勧めなければならない。



「もっとゆっくりと、もっと注意深く、また心にもっと多くの疑問を抱いて読むように〔皆さんの生徒に〕勧めてください。生徒が深く考え、すべての言葉、すなわちすべての聖文という寶石を調べるように彼らを助けてください。それを明かりにかざし、引っ繰り返し、どのように反射し屈折するか見るように教えてください。ある日ある必要を抱えた生徒がだれか、このようにして調べることによって、畑に隠してある宝、すなわち高価な真珠、値の知れない真珠を掘り出すことでしょう。



(ジェフリー・R・ホランド, "Students Need Teachers to Guide Them" [CES 衛星放送, 1992年6月20日], 4)

質問する。 聖文を研究するとき質問をして答えを求めるようにすることは、生徒が身に付けられる最も重要な聖文研究技術の一つである。質問をする生徒は、聖文の背景と内容をもっとよく理解できるようになり、また福音の重要な教義と原則を見つけて理解できるようになる。生徒は、質問をするようになると、自分が学んでいることは真実であり重要であると感じるようになり、また学んでいることをどのように実践すればよいか分かるようになる。

難しい言葉と語句の意味を明確にする。 生徒が難しい言葉と語句を理解するのに、辞書、生徒用資料、脚注、聖典研究補助資料がしばしば役立つ。

思い描く。 思い描くとは、聖文の話の中で起こっていることを心の中で想像することである。例えば、生徒は、救い主に向かって水の上を歩いているペテロ（マタイ 14：28 - 29 参照）や、火の燃える炉の中に投げ込まれたシャデラク、メシャク、アベデネゴ（ダニエル 3：19 - 25 参照）を想像することができる。思い描くことは、

生徒にとって、聖文の話をもっと鮮明で生き生きしたものとするのに役立つ。

聖文を自分に当てはめる。 聖文を自分に当てはめるとは、自分自身の生活になぞらえることである。生徒は次のように自問することができる。「自分の生活でどのような事情や状況が、聖文のこの箇所事情や状況に似ているだろうか。」「自分は今聖文で学んでいる人物にどのように似ているだろうか。」生徒は、自分の経験と聖文中の経験の類似点に目を向けるとき、福音の教義と原則を見つける能力を増すことができる。また、自分自身の生活のよく似た状況でこれらの原則をどのように応用できるか知ることでもある。

相互参照する。 相互参照とは付加的な聖文の参照箇所のことであり、これによって、学んでいる箇所に関する情報と洞察をさらに得ることができる。相互参照する、すなわち「リンクさせる」とは、生徒が聖句や教義、原則を理解するのに助けとなる聖文の参照箇所をつなぎ合わせることであり、有益な相互参照は、脚注とその他の研究補助資料、教師用手引きと生徒用資料、また総大会の話の中に見つけることができる。教師と生徒は、自分で学んでいるときにも関連ある相互参照を見つけることができる。

比較し、対比する。 聖句や教義、原則は、何かほかのものとは比較あるいは対比するときに、明確になることがよくある。教えや人物、出来事の類似点または相違点に留意すると、福音の真理にさらによく集中することができる。例えば、ベニヤミン王の統治とノア王の統治を対比すれば、義にかなった指導者が受ける祝福と邪悪な指導者の招く破滅を非常にはっきりと知ることができる。ヤコブとアルマの生涯と教え、証を、シーレムとコリホルの思想や生涯と比較することによって、生徒はもっと容易に今日の世の偽りの思想を見分け、それと闘う方法を知ることができる。イスラエルの子ら、リーハイと家族、ヤレド人が旅した約束の地への行程を比較し対比することから、教師と生徒は原則を学び自分の人生における旅に役立てることができる。

リストを作る。 リストとは、一連の関連する考え、概念、教えのことである。教師と生徒にとって、聖文中にリストを探すことは、記録者が強調している要点を明確にするのに役立つ。例えば、十戒は一つのリストである（出エジプト20章参照）。至福の教えもリストと見なすことができる（マタイ5:3 - 12:3 ニーファイ12:3 - 11参照）。教義と聖約4章には、主に仕える召しを受ける人々の資格についてのリストがある。

メモ

関連性、パターン、テーマを探す。 聖文を研究するときに関連性、パターン、テーマを探すように生徒に勧める。デビッド・A・ベドナー長老は次のように語っている。「霊的な知識をさらに加えてくれるのが、関連性、パターン、テーマを探しながら啓示を注意深く調べるという方法です。……救いの計画の理解ととらえ方が広がります。」（「生ける水の源」〔ヤングアダルトのためのCES ファイヤサイド, 2007年2月4日〕, 2）

教師と生徒は、通常、年度を通してクラスでこれらの技術と方法の多くを使うことになる。そうするとき、教師は、時折レッスンを中断して、使っている方法や技術について生徒と短時間話し合い、個人学習で使うように励ますとよい。

コースの聖典を読む〔2.3.2〕

すべての標準聖典、すなわち、旧新約聖書、モルモン書、教義と聖約、ならびに高価な真珠は、靈感によって書かれたものであり、福音の教義と原則が含まれている。標準聖典は人に対する神の業について述べており、イエス・キリストの贖罪^{しよくざい}について教えている。個人にとっても人々にとっても重要なものであり、天の御父によって備えられた福音と救いの計画について、より深い理解を与えてくれる。

生徒と教師は、各学習コースに対応する聖典をすべて読み、研究しなければならない（例外として、旧約聖書については教科課程用資料に挙げられている抜粋箇所を読む）。

聖典と預言者の言葉の背景と内容を理解する〔2.4〕

聖典と預言者の言葉の背景と内容が分かると、教師と生徒は、靈感を受けた記録者の告げようとしていることをよく理解する準備ができる。背景と内容は、ほかの人の経験と教えに記録されている福音の教義と原則を明らかにし、例証する。以下の多くは特に聖典の背景と内容を理解することについて述べたものであるが、同じ原則と考え方が、末日の預言者の言葉とメッセージの研究にも応用できる。



「遠い昔から、天の御父は、聖霊の導きを通して人生のきわめて困難な問題への解決策を見いだせるように、えり抜きの男女に靈感を与えてくれました。御父は、これら権能^{しもべ}を持つ僕たちに、そのような解決方法を記録するよう靈感を与えてくれました。そのようにして、御父の幸福の計画を信じ、御父の愛する御子イエス・キリストを信じる信仰を持つ子供たちに一種の手引きを与えようとされたのです。その解決方法は、標準聖典と呼ばれる宝を通して、いつでも手の届くところにあります。標準聖典とはすなわち、旧約聖書、新約聖書、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠のことです。」

（リチャード・G・スコット「聖文の力」『リアホナ』2011年11月号, 6）

メモ

背景〔2.4.1〕

背景とは、(1) ある節または一連の節の前後にある聖句、あるいは(2) 特定の聖句や出来事、話にかかわる状況あるいは背景となる状況のことである。

背景は、聖文の内容を理解する手段である。聖文の中の物語、教え、教義、原則を明らかにし、理解を深める背景情報を提供する。聖典の各記録者は聖霊に導かれて書いているが、その記録は記録者の描写法と文化の影響を受けている。したがって、記録を理解するために、教師と生徒は、記録者が見たように物事を見ることができるよう、努めて心の中で「彼らの世界に足を踏み入れ」なければならない。以下は、様々なタイプの背景の例である。

歴史的な背景。 ジョセフ・スミスが教義と聖約 121, 122, 123 章の啓示を受け、記録したのがリパティーの監獄にいたときであったことを考えると、逆境や、力と権能の使用などの事柄に関してこれらの章で教えられている教義と原則に深みと力が加えられる。

文化的な背景。 古代イスラエルの祭りの日と休日の背景を知ることによって、それが象徴的に救い主とその使命にどのように関連しているかが明らかになる。サマリヤ人の起源と、キリストの時代にユダヤ人が彼らのことをどのように思っていたかを知ることによって、良いサマリヤ人のたとえがよく理解できるようになり、またサマリヤの井戸での救い主と女性の出会いの意味が深まる。

たとえや出来事、教義、原則を引き出した質問や状況。 教義と聖約 9 章はオリバー・カウドリが翻訳できなかったことに対して与えられたものであることを理解すると、その章で教えられている啓示に関する原則が明らかになる。

だれが、だれに、なぜ語っているか。 贖罪と復活、裁き、憐れみ、公正に関するアルマの教えは、その教えの背景が息子コリアントンとの対話であり、息子は自分が犯した重大な罪の結果について心配していたということを知ると、より深い意味を持つ。

地理的な背景。 カナンの地勢を知ることによって、ロトとアブラハムが定住した場所、それが彼らの選択にどのような影響を与えたか、またその選択が彼らの家族にどのように影響したかをもっと深く理解できるようになる。

聖典、聖典中にある研究補助資料、教科課程用資料には通常、教師と生徒が聖文の内容を理解するのに助けとなる背景上の情報が十分に含まれている。

内容〔2.4.2〕

内容とは、聖文を構成している話の筋、人物、出来事、説教、靈感に基づく説明である。聖文の内容は、その聖句ブロックに見いだされる教義と原則をきたものとし、関連性を与える。例えば、真鍮の版を手に入れたニーファイの話は、主を信じる信仰を持ち、御霊に聞き従うことによって、克服できないように思える問題を克服できるようになるという原則を教えている。エジプト脱出に関する出来事を理解すると、主を信頼し、預言者に従うことによって、民と国家は主が約束して下さった祝福を受けることができるが、民がつぶやき、不従順になると祝福は差し止められ

「聖文の中で説かれている教訓に慣れ親しんでください。主のたとえや預言者の勧告の背景や場面を学んでください。それらを、あたかも自分に話されているかのように研究してください。実際、わたしたちに語られているからです。」



(トーマス・S・モンソン「最高の自分になる」『リアホナ』2009年5月号, 67-68)

「わたしは聖文を理解する鍵を持っています。その答えを引き出した質問は何であったのか……と問うのです。」



(ジョセフ・スミス, *History of the Church*, 第5巻, 261)

るということが明らかになる。

メモ

生徒は、聖文に述べられている人々を知るとなると、自分が直面する難問に対処し、信仰をもって生活しようという靈感と励みを得ることができる。リチャード・G・スコット長老は、モルモン書の約束について次のように述べている。

「モルモン書をひもとけば、ニーファイ、ヤコブ、エノス、ベニヤミン、アルマ、アンモン、ヒラマン、モルモン、モロナイ、そのほか大勢の人々の友情と価値ある模範に出会うでしょう。彼らは、もう一度勇気を奮い立たせ、信仰と従順への道を示してくれるでしょう。……」

しかしそれ以上に大切なのは、彼らは皆例外なく、皆さんの目を完全無比な友、救い主、贖い主、キリスト・イエスに向けてくれるということです。」（「引き上げてくれる真の友」『聖徒の道』1989年2月号、79）

聖文に注意深く保存されてきた説教は、内容のもう一つの非常に重要な部分である。罪のことで苦しんでいる生徒は、パウロや息子アルマの説教を希望と励ましの源とすることができる。民に対するベニヤミン王の最後の説教では、救い主と贖罪の力と重要性が見事に説かれており、また奉仕の意味、従順のもたらす祝福、必要な人に手を差し伸べることの重要性が明らかにされている。イエス・キリストの弟子になろうと熱心に努力している生徒は、山上の垂訓における救い主の言葉を学び、応用するように努めることによって洞察を得られる。

難しい言葉や語句の意味、たとえや象徴などの解釈を学ぶことも、内容を理解することの一部である。例えば、「味」（マタイ5：13）、「すぎる」（教義と聖約11：19参照）、「裂ける」（教義と聖約45：48）などの言葉や、「腰に帯を締める」（教義と聖約75：22参照）、「財布と袋」（ルカ10：4参照）という語句の意味を知るとは、聖文の意味を明らかにするのに役立つ。救い主のたとえで教えられている原則は、高価な真珠（マタイ13：45－46参照）、麦と毒麦（マタイ13：24－30参照）、迷い出た羊（ルカ15：4－7参照）などのたとえの象徴的な意味が分かると、もっと容易に理解できるようになる。

教師は、学び、教えることのできるすべての情報とともに、知恵を働かせて、実際にどれだけの時間を背景と内容に充て、またどれだけの時間を福音の教義と原則を学ぶことに費やすかを決めなければならない。教師は、生徒が聖文の中に見いだされる永遠の真理を理解するのに役立つ背景と内容を提供しなければならない。しかし、そうした背景や細部を強調しすぎて、それがレッスンの中心となってしまうのではない。



メモ

福音の教義と原則を見つけ、理解し、それらが真実であり重要であることを感じ、それらに応用する〔2.5〕

福音の教義と原則を見つけ、理解することは、教師と生徒が聖典と預言者の言葉を自分の生活に応用するのに役立つ、また物事を決める際の指針となる。福音の教義と原則が真実かつ重要であり、緊急を要するものであると感じれば、学んだことを応用したいという望みが強くなる。福音の原則を応用すると、約束された祝福がもたらされ、理解力と改心が深まり、教師と生徒がもっと救い主のようになるのに役立つ。

教義とは、イエス・キリストの福音の基本的な不変の真理である。天の御父は骨肉の体を持っておられる、バプテスマは神の王国に入るために必要である、また、すべての人が復活するなど、このような真理は教義の例である。

原則とは、物事を決めるときに指針として取り入れることのできる不朽の真理や決まりである。福音の原則は普遍であり、人々が福音の教義を毎日の生活に応用する助けとなるものである。リチャード・G・スコット長老は次のように教えている。「原則は真理を凝縮したものであり、異なった状況に広く応用できるものです。」（「霊的な知識を得る」『聖徒の道』1994年1月号, 97）すなわち、福音の原則は通常、行動ならびにそれに伴う結果を示す。例えば、祈ることは常に誘惑に打ち勝つのに助けとなる（教義と聖約 10:5 参照）。また、わたしたちが聖霊の促しに従えば、主から命じられたことを果たせるように聖霊は助けてくださる（1ニーファイ 4 章参照）。

教義と原則の違いを見分けることは時折難しい。ヘンリー・B・アイリング長老は次のように述べている。「ところで、わたしは、原則と教義をはっきり区別するのに多くの時間をかけたいとは思いません。その種のことはあまり役立たないという話を聞いたことがあります。」（“Training Guidelines and Resources: Elder Richard G. Scott and Elder Henry B. Eyring Discussion,”〔CES 衛星訓練放送, 2003 年 8 月〕, 10）

教義と原則を見つける〔2.5.1〕

聖文の主要な目的の一つは、福音の教義と原則を教えることである。マリオン・G・ロムニー管長は次のように説明している。「人は実に、福音の原則を学ぶことなしに聖文を研究することはできません。なぜなら、聖文は、わたしたちを益するために原則を書き残したものだからです。」（“The Message of the Old Testament”〔旧約聖書に関する CES シンポジウム, 1979 年 8 月 17 日〕, 3）ボイド・K・パッカー長老は次のように教えている。「〔原則は〕聖文の中に見いだせます。それは啓示の本質であり、啓示が与えられる目的です。」（“Principles,” *Ensign*, 1985 年 3 月号, 8）この神権時代に、主は聖典に見いだされるままの福音の原則を教えるようにと主の教会の教師と指導者に命じておられる。「さらにまた、この教会の長老と祭司と教師は、『聖書』と完全な福音が載っている『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない。」（教義と聖約 42:12）

聖典に見いだされる福音の教義と原則を見つける方法を学ぶには、思慮深く努力し、実行する必要がある。この努力について、リチャード・G・スコット長老は

次のように語っている。「原則を探求することです。原則と、その説明のために用いられている枝葉的な事柄とを注意深く識別しましょう。」(「霊的な知識を得る」97)

教師は、クラスで時折、教義と原則を指摘する時間を取る。また別の時間に、生徒を導き、励まし、生徒自身が教義と原則を見つけるようにする。教師は、生徒が自分で教義と原則を見つける能力を身に付けられるように熱心に助けなければならない。

教義と原則によっては、はっきりと述べられていて見つけやすいものもある。このような明白に述べられている原則の前には、しばしば「これによって分かるように」「したがって」「それだから」「見よ」などの言葉が見られる。これらの言葉は、聖典の記録者がその言わんとすることを要約したり、結論を引き出したりしていることを示す。

例えば、ヒラマン3:27は次のとおりである。「これによって分かるように、主は、真心から主の聖なる名を呼ぼうとするすべての人に憐れみをかけられる。」

アルマ12:10は次のとおりである。「したがって、心をかたくなにする者はわずかな御言葉しか受けないが、心をかたくなにしない者は、さらに多くの御言葉を与えられて……。」

エペソ6:13では次のように教えられている。「それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。」

アルマ41:10には次のようにある。「見よ、あなたに言うておくが、悪事は決して幸福を生じたことがない。」

聖典の記録者は、多くの原則を言葉で直接に述べるのではなく、言外に伝えている。言外に伝えられる原則は、聖典の書全体、章、あるいは単独の節から得られこともあり、あるいは聖典の話の筋や出来事、たとえの中に示されていることもある。言外に伝えられる原則を見つけることには、聖典の話の中で述べられている真理を見分けることと、それを明確かつ簡潔に述べることが含まれる。そのためにはしばしば、時間をかけて注意深く考えることが必要である。リチャード・G・スコット長老は次のように教えている。「集めた真理を組み立てて簡潔な原則を生み出そうと努めるのは、有意義なことです。」(「霊的な知識を得る」97 参照)

言外に伝えられる原則は、聖句ブロック内の原因と結果の関係を探すことによって見つかることがよくある。聖典の話に出てくる人や人々の行動、態度、行いを分析し、また祝福や結果を見つけることによって、福音の原則がよりはっきりと分かるようになる。

言外に伝えられる原則は、以下のような質問をすることによっても見つかることができる。

- その話の教訓と要点は何だろうか。
- 記録者がこの出来事や言葉を入れたのはなぜだろうか。
- 記録者はわたしたちに何を学ばせようとしたのだろうか。
- この言葉の中で教えられている基本的な真理は何だろうか。

メモ

メモ

以下は、言外に伝えられる原則の幾つかの例である。

息子アルマまたはパウロの生涯における出来事から学べる原則：真理を受け入れて罪を悔い改める人は、ほかの人々を福音の祝福に導くことができる（アルマ 36：10 - 21；使徒 9：4 - 20 参照）。



10 人のおとめのたとえから学べる原則：わたしたちは、忠実に霊的な備えをしておけば、主が来られるときに用意ができています。しかし、霊的な備えを怠れば、来臨のときに主に受け入れられない（マタイ 25：1 - 13 参照）。

ダビデとゴリアテの話から学べる原則：わたしたちは勇気と主を信じる信仰をもって行動するときに、人生における大きな難問に打ち勝つことができる（サムエル上 17：40 - 51 参照）。

以下は生徒が原則と教義を見つけられるように助けるための幾つかの方法である。

- 学んでいる概念を、「もし……なら、……である」という表現で書いてもらう。
- 学んだ真理を、「これによって分かるように」という書き出しでまとめるように割り当てる。
- 聖句ブロックの中で人が取った行動を見つけ、その行動がもたらした祝福または結果を探してもらう。
- 聖文中の原則と教義を見つける鍵の言葉または語句に傍線を引くように勧める。
- 聖句ブロック中の教義または原則をホワイトボードまたは黒板に書く。そして、生徒に、そのブロックを調べ、それが原則であるとした根拠を見つけるように言う。

原則と教義を見つけたら、それを明瞭かつ簡潔に述べるのが重要である。「『真理を知らせるには、宣べ伝えなければならない。より明確に、より完全に伝えることができれば、聖なる御霊が人の心にこの御業の真实性を証されるのに、いっそう好都合である。』〔*New Witnesses for God*, 全 3 巻（1909 年）, 第 2 巻, vii〕（B・H・ロバーツ。ジェームズ・E・ファウスト「伝道に出る前に息子に知ってほしいこと」『聖徒の道』1996 年 7 月号, 49 に引用。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』〔2004 年〕, 182）

見つけた原則や教義をホワイトボードまたは黒板に書くことや、生徒に書き出してもらったり聖句に傍線を引いてもらったりすることは、生徒の心にこれらの真理をはっきりと刻みつけるのに役立つ一つの方法である。

教義と原則を理解する〔2.5.2〕

福音の教義や原則を理解するとは、見つけた真理、主の計画におけるほかの原則や教義とその真理との関係、またどのような状況でその原則を生活に適用できるかを生徒が理解することである。教師や生徒は、教義や原則を理解すると、その言葉にどういう意味があるかだけでなく、その教義や原則が自分の生活にどれほど影響を及ぼすかについても知ることができる。教義や原則を見つけ、理解

できると、それをもっと容易に応用することができる。

メモ

教師と生徒は、以下のことによって福音の教義と原則に対する理解を増すことができる。すなわち、関連ある教えの聖句と追加の洞察を調べる、末日の預言者と使徒の言葉や教えに心に向けることによって学んでいる福音の真理をほかの人々に説明する、また、聖霊の助けを祈り求める。原則を応用すると、理解がさらに深まる。

教師は、生徒が教義と原則を理解する助けとして、その意味を分析するように導く質問をすることができる。例えば、モルモン書の2,000人の若い戦士の話から、疑わなければ神は救ってくださるという原則を学ぶことができる（アルマ 56：47－48 参照）。この原則が意味することについてもっと深い理解を得るために、教師と生徒は、以下のような質問について考えてみるとよい。

- 若い戦士が疑わなかったことは何だろうか。
- これらの若い戦士が疑わなかったというどのような証拠があるか。
- 神はその若い戦士をどのようにして救われただろうか。
- 今日こんにちの教会の青少年が戦っている「戦い」としてどのようなものがあるだろうか。
- 神はそのような戦いからどのような方法で青少年を救ってくださるだろうか。
- アビナダイ、ジョセフ・スミス、あるいはシャデラク、メシャク、アベデネゴの経験は、救われるということの意味について何を教えているだろうか。

旧約聖書のナアマンとエリシャの話から、わたしたちはへりくだって、預言者の勧告に進んで従うならば、癒しを得ることができるという原則を学ぶことができる（列王下 5：1－14 参照）。この原則が意味することを理解するために、教師と生徒は、以下のような質問について考えてみるとよい。

- 謙遜けんそんであることは預言者の勧告に従うのにどのように役立つだろうか。
- ナアマンが最後には進んで「七たび……身を浸〔した〕」ことは、預言者の勧告に忠実に従うとはどういうことか理解するのにどれほど役立つだろうか。
- 今日、体の病気のほかにどのようなことからの癒しが必要だろうか。
- 預言者たちは、世の人々には意味がないかもしれないがわたしたちに霊的な癒しをもたらす何を行うように求めているだろうか。

教義と原則が真実であり重要であることを感じる〔2.5.3〕

生徒は福音の原則と教義を見つけ、理解するかもしれないが、御霊みたまによってそれが真実であり重要であると感じ、その原則を自分の生活に取り入れる緊急性をある程度感じるまで、応用しないことがよくある。ロバート・D・ヘイルズ長老は次のように説明している。「真の教師は、いったん〔福音の〕真実を教えたら、……〔生徒が〕さらに一歩踏み出して心に霊的な証あかしと理解を得て、行動と行いに移るようにします。」（“Teaching by Faith”〔ロバート・D・ヘイルズ長老との夕べ、2002年2月1日〕、5）



メモ

「福音を教えるとき、回復されたイエス・キリストの福音が真実であり、重要であり、緊急を要するものであることを、これまで以上に強調しなければなりません。教授の目的であるこの3要素は非常に重要です。なぜなら、その力が完全な改心を促すからです。」

(ニール・A・マックスウェル, "Those Seedling Saints Who Sit before You" (旧約聖書に関する CES シンポジウム, 1983年8月19日), 2)



聖霊は、生徒の思いと心に教義や原則の重要性を銘記し、原則を実行したいという望みとそれを行う力を与えてくださる。教師は、クラスで各生徒がこの経験を得られるようにするために、あらゆる努力を払わなければならない。リチャード・G・スコット長老は、教師に次のように勧めている。「生涯にわたって使えるように生徒の思いと心に真理を深くしみ込ませる方法について、導きを祈り求めてください。皆さんがよく祈ってそうする方法を求めるときに主が導いてくださることを、わたしは知っています。」(“To Understand and Live Truth,” [リチャード・G・スコット長老との夕べ, 2005年2月4日], 2)

生徒が心の中に御霊の影響を招くのを助け、学んだ原則に従うように生徒を備える最も効果的な方法の一つは、その原則に関する個人の経験についてよく考えるように促すことである(61ページの第5.1.3項「気持ちと証を促す質問」を参照)。これは、原則が自分の生活やほかの人々の生活に及ぼした影響を生徒が理解するのに役立つ。例えば、^{じゅうぶん} 十分の一の律法について話し合った後、教師はこのように尋ねるとよい。「十分の一の律法を守ることによって、皆さんの生活に、あるいはほかの人々の生活に、どのような祝福があったでしょうか。」生徒がこのような質問についてよく考え、クラスで適切な個人的経験を分かち合うとき、生徒自身とほかの人々が福音の教義と原則に従って生活することによって受けた祝福をもっとはっきりと理解できるように、聖霊は生徒を助けてくださる。御霊はまた、生活にこれらの真理を応用したいという、より大きな望みを生徒が感じられるように助けてくださる。教師はまた、自分の生活から、あるいはほかの人々の生活から実話を分かち合い、話し合っている原則の重要性と、その原則に従って生活することの重要性を生徒が感じられるようにする。

教師は、原則と教義が真実であることを証する機会を生徒に与えることができる。また、自分の証を述べる機会を探さなければならない。さらに、聖典中の人物が述べている証を強調することによって、また、末日の預言者と使徒の証を讀んだり聞いたりすることによって、教義と原則が真実であり重要であることを生徒が感じるようにすることができる。

「福音を教える目標は、……クラスの会員の心の中に『情報を注ぎ込む』ことではありません。……その目的は、福音の原則に従って生活することについて考え、感じ、その後、何かを行うように個人を促すことです」

(トーマス・S・モンソン, Conference Report, 1970年10月, 107)



教義と原則を応用する [2.5.4]

生徒が学んだ原則について考え、話し、それに従って生活するとき、応用が行われる。リチャード・G・スコット長老は、原則を応用することの重要性について説明し、次のように語っている。「教室で起こっていることの効果を測る最善の方法は、真理が理解されており、生徒の生活に应用されていることを観察することです。」(“To Understand and Live Truth,” 3)

生徒は、生活に福音の原則を応用すると、約束されている祝福を受ける。また、自分が応用した教義や原則をより深く理解し、^{あかし} 証を得ることができる。例えば、安息日を聖日として守る生徒は、守らない生徒よりも、その意味をより完全に理解するであろう。心を尽くして主に信頼しており(箴言3:5参照)、逆境や試練のときに強められ慰められている生徒は、そのようにしていない人々よりも、その原則をもっとよく理解できる。

教師は、生徒に、理解し感じたことについて^{めいそう}瞑想し、深く考え、あるいは書き留める時間と、生活に应用するための具体的な行動について考える時間をクラスで与えるべきである。そのときに教師は、主の導きと指示を求めるように生徒に勧めなければならない。教師はまた、生徒が経験する可能性のある状況について話し合い、それらの状況で福音の原則を应用することによって生活にどれほどの祝福がもたらされると思うか生徒の考えを分かち合ってもらうことができる。教えられた原則に従って生活するために役立てられる目標を設定するように生徒に提案することができる。配付資料として聖句や引用文、詩、賛美歌の歌詞の一部を準備し、原則を思い出させるものとして生徒が家に持ち帰れるようにしてもよい。

福音の原則を应用できる方法を教師と生徒が提案する時間をクラスで持つとよい。このような試みによって、毎日の生活に福音の原則を应用する方法について有益なアイデアを生徒に与えることができる。しかしながら教師は、生徒に特定の应用を課して指示的になりすぎないように注意しなければならない。個人的な应用に対する最も有意義な指示は、聖霊を通じて主の靈感あるいは啓示として個別に与えられるということに留意する。ダリン・H・オークス長老は次のように教えている。「福音の原則と『王国の教義』(教義と聖約88:77)を教えるように命じられている教師は通常、特定の規則や应用方法を教えることを慎むべきです。……教師が聖文と生ける預言者から教義とそれに関連する原則を教えたら、その後の具体的な应用方法や規則については通常、個人や家族の責任となります。」(「福音を教える」95)

福音の教義と原則を説明し、分かち合い、^{あかし}証する〔2.6〕

教義と原則を説明し、洞察と関連ある経験を分かち合い、神聖な真理について証すると、福音の教義と原則についての理解が明らかになり、ほかの人々に福音を教える能力が向上する。生徒は説明し、分かち合い、証するとき、述べているその事柄についてより大きな証を得られるようにしばしば聖霊によって導かれる。また、聖霊の力によって、生徒の言葉と表現は、それを聞いている友人や人々の心と思いに大きな影響を与えるであろう。

よく考え、よく祈ってレッスンを研究し、準備し、教える教師は、多くのことを学びやすい。この同じ原則が生徒にもそのまま当てはまる。生徒は回復された福音の教義と原則を研究し、互いに教え合うとき、より大きな理解力を得、証が強まるであろう。



メモ

説明する〔2.6.1〕

生徒と教師が互いに聖文を説明し合うとき、聖文の理解が増す。ある聖句の意味、あるいは教義や原則の意味を明確かつ簡潔に話す準備をすると、その節を深く考え、自分の考えを整理し、また教えるために聖霊を招くようになるであろう。

スペンサー・W・キンボール大管長は次のように教えている。「わたしたちは行うことによって行うことを学びます。福音を教えるために福音を研究すれば、知識を得ます。なぜなら、明かりを携えてほかの人の道を照らすとき、自分自身の道も照らすことになるからです。ほかの人々にふさわしいレッスンをするために聖文を分析し、準備するとき、自分自身の心がはっきり定まります。すでに知っていることを説明するときに、そのほかの真理も明らかになり、理解が深まり、新たな結びつきができ、実践の力が増すように思われます。」(*The Teachings of Spencer W. Kimball*〔1982年〕, 530)

ほかのだれかに教義や原則を説明する機会を生徒に与えると、生徒は、自分が学んだことをほかの人々に教える前にもっと深く考え、もっと大きな理解力を求めるように促される。教師は、信仰を持つこと、バプテスマを受けること、あるいは什分の一の律法に従うことがなぜ重要であるのかを説明するように生徒に頼むことができる。創造、墮落、あるいは家族が天の御父の計画の中心であると信じている理由についてほかのだれかに話すように生徒に勧めることができる。二人一組か小グループで、ロールプレイで、クラス全体で、あるいは書いて、これを行うことができる。親やきょうだい、友人、級友に聖句を説明するように、あるいは教義や原則を教えるように、時々生徒に勧めることも適切である。

分かち合う〔2.6.2〕

教師と生徒は、教義や原則に関する洞察と理解を共有し、それについて個人的に経験したことを伝え合う機会を持つようにしなければならない。また、ほかの人々の生活で見た経験を話すこともできる。

J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長は次のように述べている。「皆さんのセミナーやインスティテュートにやって来る青少年はほとんど、自分が霊的な祝福を受けていることをよく知っています。また、祈りの効果を目にし、病人を癒す信仰の力を目の当たりにし、霊的なほとばしりを見えています。世の人々は一般に、このようなことを知らずにいます。」(『教育に関する教会の指針』改訂版〔1994年〕, 11-12) クラスでこのような経験を分かち合う機会を生徒に与えなければならない。(教師は、クラスで分かち合うには適さない非常に神聖な経験、あるいは個人的な経験もあることを生徒が理解できるように助ける必要があるかもしれない。アルマ12:9; 教義と聖約63:64 参照)



あかし
証する (2.6.3)

メモ

福音の原則について説明し、自分の生活に応用した経験を分かち合った生徒は、自分が信じるようになったことについて証する備えがよりよくできていることがしばしばある。

ボイド・K・パッカー長老は、証することによってもたらされる祝福の一つについて次のように説明している。「一つの原則を述べたいと思います。証は実際に証を述べる中で見いだすものです。……」

本を読み、人の話を聞いて証を得ることにはそれなりの意義があります。それは最初の段階として必要なことです。しかしそれは、自分が証したことが真実であるという御霊の確認を心に受けることとはまったく別の事柄です。」「(「主のともしび」42 参照)

証を分かち合うことは、証を述べる本人に祝福をもたらすだけでなく、ほかの人々の信仰と証も強める。証することは、回復された福音に関する特定の教義と原則について聖霊が証を述べてくださる機会ともなる。証は必ずしも、「わたしは証します」という言い回しで始まるわけではない。それはただ、人が真実であると知っていることを心から確信をもって語る言葉だという場合もある。福音の教義や原則をどのように感じているかということと、それによって自分の生活が変わったことについての簡潔な断言とも言える。教師とほかの生徒が福音の原則の価値について証を述べるのを聞くとき、生徒は、それらの原則を自分の生活に応用できる方法をもっとはっきりと理解でき、また応用するようという促しをもっと感じることができる。

教師は、経験し確信していることを分かち合うように勧める質問をすることによって、福音の真理について証するように生徒を促すことができる(61ページの第5.1.3項「気持ちと証を促す質問」を参照)。また、友人に証するほかの機会を生徒に与えることもできる。教師は、証が個人に与えられる神聖なものであることを心に留めておかなければならない。証を分かち合うように勧めることはできるが、決して強要してはならない。教師は、天の御父と御子イエス・キリストを愛していること、また福音の教義と原則が真実で価値あるものであることについてしばしば証する機会を持たなければならない。救い主が述べられた証と同様に、末日の預言者たちと使徒たちが述べた証にも留意し、それを引用しなければならない。



あかし
「証、つまりほんとうの証は、御霊から生じ、聖霊によって確認され、人の生活を変えるものです。」

(M・ラッセル・バラード「純粋な証」『リアホナ』2004年11月号、40)



「教えている際に信仰を促す出来事が起こります。生徒が友人に教え、証する役割を果たすときに、それは起こります。」

(ロバート・D・ヘイルズ, "Teaching by Faith" 4)

メモ

重要な聖句と基本的教義に精通する〔2.7〕

人がその思いと心の中に永遠の真理を大切に蓄えるとき、聖霊は、必要なときにこれらの真理をその人の記憶から呼び起こし、信仰をもって行動する勇気をお与えになる。ハワード・W・ハンター大管長は次のように教えている。

「皆さんに切にお勧めします。教えるときに聖文を使ってください。また、生徒が聖文を使い、聖文を使い慣れるように、皆さんのできる範囲ですべてのことをして生徒を助けてください。若い人々が聖文を信頼するようになってほしいのです。……

まず、生徒が聖文の力と真理を信頼し、天の御父が実際に聖文を通じて自分に語りかけておられるという確信と、聖文を調べれば自分の問題と祈りに対する答えが見つかるという確信を持ってほしいと、わたしたちは思っています。……

……適切な聖句を探し出せるほどよく聖文を知らないために必要な助けを得られず、びくびくしながら、またはばつの悪い思いで、あるいは恥ずかしい気持ちで教室を後にする生徒が一人もいないようにと、わたしたちは願っています。」 (“Eternal Investments,” 2)

生徒が永遠の真理を大切に蓄え、聖文についての確信を増すのを助けるために、セミナー・インスティテュートは、マスター聖句を選び、「基本的教義」のリストを作成している。マスター聖句とこれらの教義の勉強を一緒に進めて、生徒がこれらの教義を自分の言葉で述べられるように、そしてマスター聖句を使ってこれらの真理について説明し証することができるようにしなければならない。

マスター聖句〔2.7.1〕

宗教教育セミナー・インスティテュートは、4つのセミナーコースのそれぞれに対して25のマスター聖句を選んでいる。これらの聖句は、福音を理解し、分かち合うために、また信仰を強めるために、重要な聖句による基盤を与えるものである。以下のようにしてこれらの聖句を「マスター」するようにセミナーの生徒に勧める。インスティテュートの生徒には、これら100のマスター聖句を基礎として、ほかの重要な聖句への理解を深めるように勧めなければならない。

聖句をマスターするために以下のことを行う。

- 探す。関連する参照聖句を知ることによって聖句を探す。
- 理解する。聖句の背景と内容を理解する。
- 応用する。聖句で教えられている福音の原則と教義を応用する。
- 暗記する。聖句を暗記する。

暗記は、選び抜かれた聖句を生徒が知って大切にするのに役立つ素晴らしい方法になり得る。リチャード・G・スコット長老は次のように説明している。「主が記録するよう命じられた聖句をそのまま引用すると、ほかの言葉では伝わらない本質的な力を発揮します。」（「主は生きておられる」『リアホナ』2000年1月号, 105）しかし、各生徒に寄せる期待はその生徒の能力と状況に合ったものであるように注意しなければならない。暗記できないことで恥ずかしさや困惑を感じさせないようにしなければならない。

教師自身がこれらの聖句をマスターすれば、教師はもっとよく生徒を助けることができるであろう。教師がいつもマスター聖句を引用し、適切な期待を寄せ続け、様々な学習スタイルに訴える方法を用いると、生徒がこれらの重要な聖句をマスターするようにもっとうまく助けることができる。レッスン中に、関連ある教義と原則を明確にするためにマスター聖句を使うようにしなければならない。ディポーショナルのテーマとして使用してもよいし、教室のどこかに掲示してもよい。また、クラスの外で学び、応用するように生徒に勧めなければならない。

複数の教師が一つのクラスを教えている場合、マスター聖句を統一した方法で進めると、生徒の学習が促される。教師が過去の年度のマスター聖句を定期的に復習するようになれば、生徒は、選び抜かれた聖句のすべてをマスターした状態を保つことができる。

聖句をマスターすることは教科課程の重要な一部であるが、毎日継続して行う聖文研究を軽視させるものではなく、補足するものでなければならない。教師は、マスター聖句に充てる時間について賢明でなければならない。家庭学習コースの教師は、週日のクラスが週日のマスター聖句活動にならないように特に注意を払わなければならない。教師は、聖文の威厳と目的、精神に一致し、争いを防ぐような方法や活動、音楽を選択しなければならない。

基本的教義〔2.7.2〕

セミナーとインスティテュートのクラスで強調するために、「基本的教義」が発表されている。教師は、生徒がこれらの福音の基本的教義を見つけ、理解し、信じ、説明し、応用することができるように助けなければならない。そうすることは、生徒が証を強め、イエス・キリストの回復された福音に、より感謝する助けとなるであろう。これらの教義を学ぶことは、生徒がこれらの重要な真理をほかの人々に教える準備をさらによく整えるのにも役立つであろう。

たとえ「基本的教義」のリストに挙げられていなくても、ほかの意義深い福音の教義も教えるのを忘れないことが重要である。



「聖文を暗記することで、大きな力が得られます。聖文を暗記することは、新しい友情を築くことです。それはまるで、必要なときに助けてくれる人、靈感と慰めを与えてくれる人、必要な変化を遂げる動機を与えてくれる新しい人に出会うのに似ています。」

（リチャード・G・スコット「聖文の力」『リアホナ』2011年11月号, 6）



メモ

宗教教育セミナー・インスティテュートによって選ばれた「基本的教義」は、以下のとおりである。

- 神会
- 救いの計画
- イエス・キリストの贖罪しよくざい
- 神権時代, 背教, 回復
- 預言者と啓示
- 神権と神権の鍵
- 儀式と聖約
- 結婚と家族
- 戒め

教師は、これらの教義を個人的に学んで理解すると、教えるときにもっと自然にそれを参照し、それについて証あかしを述べるようになる。しかし、配列順に聖文を教えることから離れて、これらの教義だけに焦点を当ててはならない。むしろ、聖文と学習コースに自然に出てくるときに、これらの教義に入念にまた絶えず注意を払うようにしなければならない。このようにすれば、「基本的教義」のリストは、生徒にとって非常に価値のあるそれらの永遠の真理に焦点を当てることと、学習コース全体にわたってそれらを強調することを思い出させるものとなる。これらの「基本的教義」はディポーショナルのテーマとして使ってもよい。

また、賢明な教師は、生徒がこれらの教義を理解するのを助ける際に、忍耐と一貫性が重要であることも忘れないであろう。生徒がすぐにすべてを完全に理解することは期待されていない。主は、「教えに教え、訓戒に訓戒」を与えてその子供たちを教えられる（教義と聖約 98:12）。教師と生徒は、これらの教義はセミナーの4年間をかけて理解し、またインスティテュートでも引き続き学ぶものと見なすべきである。

3

セミナーと インスティテュートで 聖文を教える

青 少年とヤングアダルトがイエス・キリストの教えと贖罪^{しよくざい}について理解し、それに頼るようになるために、セミナーとインスティテュートの教師は、聖典に見いだされるままの福音の教義と原則を生徒に教える責任を負っている。これが果たされるように、宗教教育セミナー・インスティテュート教育委員会は、セミナーとインスティテュートのコースでは、標準聖典に見られる順序で書とその章を教えることにした。すべての節をそれが記されている順序どおりに教えなければならないという意味ではないが、各レッスンは、通常、話の流れ、あるいは聖句の自然な流れに従う。この方法で聖文を研究することは、靈感を受けた記録者が伝えようとしたメッセージの全容を理解する基となり、福音の原則と教義を、聖文に出てくるままに、また聖文に述べられているままに研究することができる。

配列順に聖文を研究することは、以下のような効果がある。

- 教師と生徒は、福音の真理を互いに照らし合わせながら、また聖文のほかに内容と関連づけながら研究することができる。こうすることで、教師と生徒は聖文中の靈感されたメッセージをはっきりと、またしっかりと見て理解することができる。
- 聖典に見いだされるままの福音の教義と原則を適切に強調し、繰り返すことができる。
- 生徒と教師が「原因と結果」の関係をもっと容易に見つけるうえで助けとなる。
- レッスン時に詳細に話し合うことができない場合でも、生徒が複数の福音の原則を見つけて理解するうえで助けとなる。個々の生徒は、これらの真理が聖霊によって明らかになった後、自分自身の状況にそれらを当てはめることができる。
- 教師と生徒は、過去に生きていた人々の生涯と経験の面から福音の教義と原則を研究し、それについて話し合うことができる。こうすることで、生徒はこれらの原則と教義を自分自身の生活に当てはめて考えやすくなる。
- 各標準聖典の全体についてある程度まで精通するうえで助けとなる。



デビッド・A・ベドナー長老は次のように教えている。「〔聖典を〕初めから終わりまで通して読むと、生ける水が生活の中へ流れ込んできます。つまり、重要な出来事、福音の教義、永遠の原則がわたしたちの中に流れてくるのです。聖典を通して読むと、聖文のおもな登場人物について知ることができます。一つ一つの出来事や教えの順序、時代、背景が分かります。通して読むと、聖典の全体像がつかめます。この読み方は、生ける水を飲むための第1の最も基本となる読み方です。」（「生ける水の源」〔ヤングアダルトのためのCES ファイヤサイド, 2007年2月4日〕, 2 参照）

メモ

福音を教え学ぶときの基本を取り入れる〔3.1〕

セミナーやインスティテュートの聖典に基づいた各レッスンは、特定の概念や教義、あるいは原則ではなく、聖句ブロックに焦点を当てて行う。教科課程では聖典をこれらの聖句ブロックに分割しており、聖句ブロックは小さな場合は一つの章、大きな場合は一つの書全体にわたることがある。ほとんどの聖句ブロックには、行動や話題が変わる自然な変わり目がある。これらの変わり目に基づいて、聖句ブロックをより小さなセグメントすなわち節のまとまりに分ける。聖句ブロック全体をこれらのより小さなセグメントに分けて研究することで、靈感を受けた記録者のメッセージを理解し教えるための枠組みができる。

教師と生徒は、聖句ブロックのこれらのセグメントを配列順に研究すると、「福音を教え学ぶときの基本」の多くを取り入れることができる。背景と内容を理解する、福音の教義と原則を見つけ、理解し、それが真実であり重要であることを感じ、応用するなど、「福音を教え学ぶときの基本」は、方法ではなく、達成すべき結果である。これらの基本事項は互いに作用し合い、これらが、思いと心に福音を注ぎ込むために教師と生徒が取り入れることのできる基本パターンとなる。このパターンは次のとおりである。

1. 背景と内容を理解する。 聖句ブロックの背景と内容を生徒が理解できるように助けることは、聖文を教えるプロセスの基本ステップである。背景や話の流れなどの情報を理解することは、福音の原則と教義を見つけ、また聖句ブロックの中に見られるそれらの真理を説明し解説する基礎となる。聖句ブロックの中の1、2節だけを教えることでは、この基本によって明瞭に深く理解できるはずのものがしばしば減じたり、失われたりする。
2. 教義と原則を見つける。 聖文の内容を理解することは、生徒と教師が聖句ブロック内に見られる原則と教義を見つける備えとなる。時折、聖典の記録者は、自分が伝えたいと思っている原則や教義を直接に言葉として述べることもある。そのほかに、それらの真理を聖文の話の中に入れて述べることもある。その場合は、その福音の教えを、真理を言い表す簡潔な言葉にする必要がある。



メモ

3. それらの教義と原則の意味を理解する。いったん原則と教義を見つけると、生徒と教師は、それらの真理の意味を分析し話し合うことによって、それをもっとよく理解しようとする。聖句ブロック自体の中に明快な注解が含まれていることがしばしばある。それは生徒が教義または原則を述べている言葉の意味を理解するのに助けとなる。さらに、聖文を現代の状況に当てはめることは、生徒が自分の生活にとってその原則と教義がどのような意味を持つかをもっとよく理解するのに役立つ。教義または原則についての生徒の理解が増すと、福音の真理をほかの人々に説明する機会を持つことによって、その生徒自身の理解力は増し、さらにしっかりしたものとなる。

4. 御霊の影響によって原則や教義が真実であり重要であることを感じる。生徒が原則や教義をはっきりと理解することは、それが真実であり重要であることを感じる備えとなる。そして、御霊の影響によって原則または教義が真実であり重要であり、緊急を要するものであると感じれば、自分の生活にその真理を応用したいという思いが増す。教師は、福音の原則に従って生活して得た経験を分かち合う機会と、それが真実であることを証する機会を生徒に与えることによって、彼らが御霊から来るこの気持ちを招いて養えるようにする。教師はまた、自分自身の証と経験を分かち合うこともできる。多くの場合、聖典の記録者も、教えられている原則や教義について証を述べている。教師と生徒は、聖句ブロックの節の中にあるこれらのことを確認する証を探さなければならない。

5. 教義と原則を応用する。生徒は原則や教義が真実であり重要であると感じれば、それを生活に応用するようになる。個人的な福音の原則の応用が最も頻繁に行われるのはクラス以外の場所である。しかし、生徒が学んでいることを有意義な方法で応用しようと決意を強め、その能力を増すのに役立つ重要な事柄は、レッスン中に起こる。教師は、生徒が自分自身の状況について深く考え、その原則または教義を応用できる具体的な方法を考える機会を生徒に与えることができる。生徒が原則を自分自身の生活に当てはめる方法を思い巡らし、考える時間を持つとき、御霊はその生徒の心に個人的な導きを与える。教師は、適切なきに、将来どのようにその原則を応用できるかについてアイデアを分かち合うように生徒に勧めることができる。

教師と生徒は聖句ブロック内のそれぞれの節のまとまりについて学ぶとき、レッスンの全体にわたってこの基本パターンのすべて、あるいは一部を繰り返す。

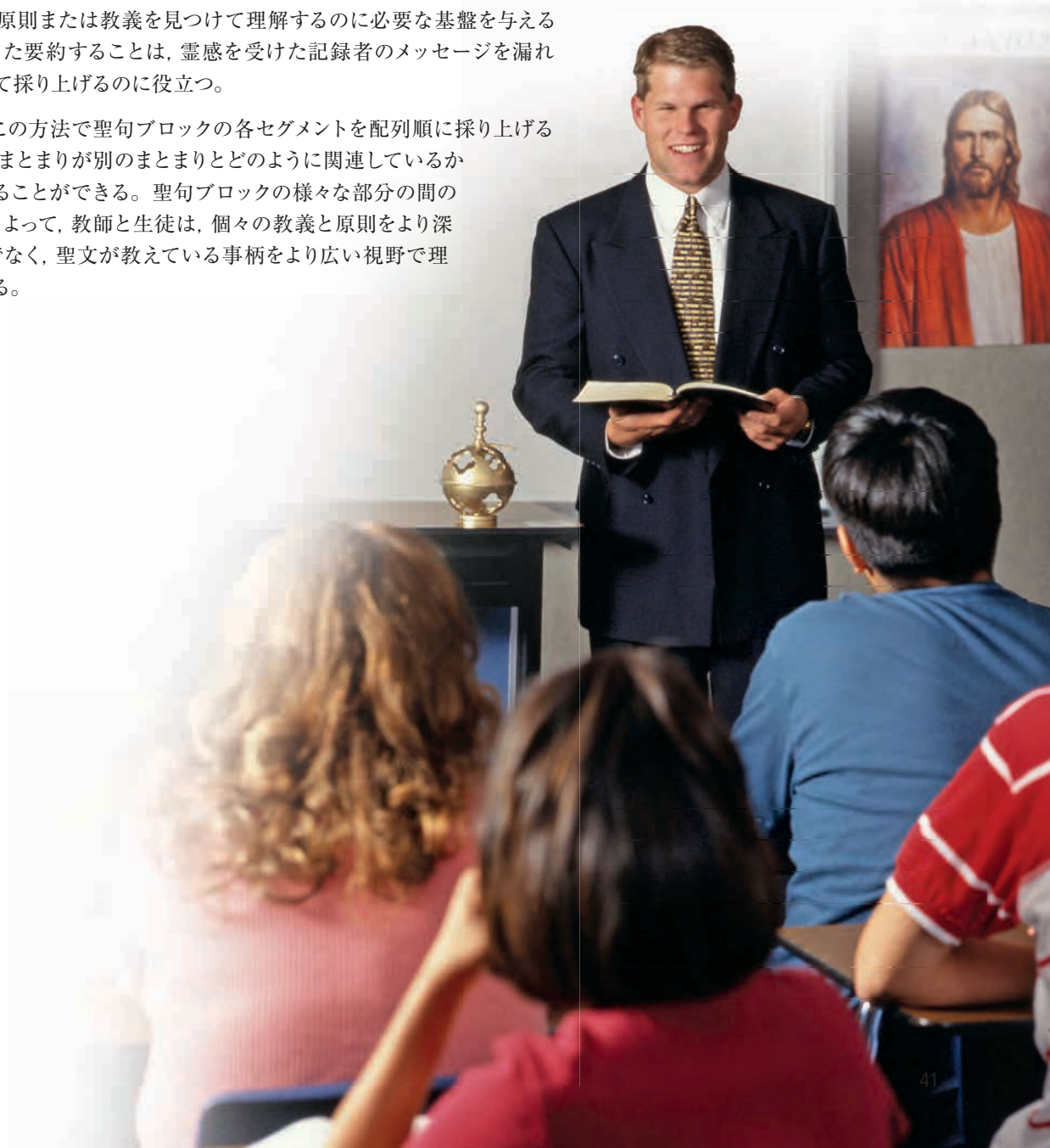
レッスンの中で強調する聖句ブロックのセグメントもあれば、あまり注意を払わなくてよいセグメントもある。それが靈感を受けた記録者のメッセージ全体の中心ではないか、あるいは生徒にとって特に必要なものではない場合、あまり注意を払わなくてよい。強調すべきセグメントに関しては、次のことに多くの時間を充て、力を注ぐようにする。すなわち、背景と内容を理解する、福音の原則と教義を見つける、原則を理解し、それが真実であり重要であることを感じ、それを応用するように努めるという一連のプロセスを通して生徒を指導し続ける。

別の例としては、背景と内容を十分に研究し理解して原則または教義を見つけ、その後、聖句ブロックの次のセグメントに移るといった方法がある。教義または原則がその文章の中で明らかになった場合、教師または生徒はそれを簡潔に述べる。すると、たとえそれらの真理についてレッスン中に十分な話し合いをしなくても、聖霊は機会をとらえて個々の生徒に必要な福音の真理を教え、個人に合ったものにしてくださる。

その他のセグメントについては、教師と生徒は、背景と内容だけを学ぶ。あるいは、教師は、次の節のまとまりに移る前に話の流れや内容を簡単に要約することができる。要約するとは、クラスで強調しない章または節に含まれている事柄について簡潔に述べることである。要約することによって、教師は聖句ブロックの部分をさっと紹介することができる。教師は、聖句ブロックのセグメントを省略せずに要約することで、生徒が話の流れと背景をはっきりと記憶にとどめ、その後にブロックの中に出てくる原則または教義を見つけて理解するのに必要な基盤を与えることができる。また要約することは、靈感を受けた記録者のメッセージを漏れなく、流れに添って採り上げるのに役立つ。

教師と生徒がこの方法で聖句ブロックの各セグメントを配列順に採り上げる時、一つの節のまとまりが別のまとまりとどのように関連しているかをよりよく理解することができる。聖句ブロックの様々な部分の間の関係を知るによって、教師と生徒は、個々の教義と原則をより深く理解するだけでなく、聖文が教えている事柄をより広い視野で理解することもできる。

メモ



メモ

ルカ 5 章 : 例 [3.2]

以下の例は、教師が「福音を教え学ぶときの基本」を取り入れて聖句ブロックを教える方法を示すものである。

ここで例として採り上げるルカ 5 章の聖句ブロックは、話の流れや話題が変わるより小さな節のまとまり、すなわちセグメントに分けることができる。

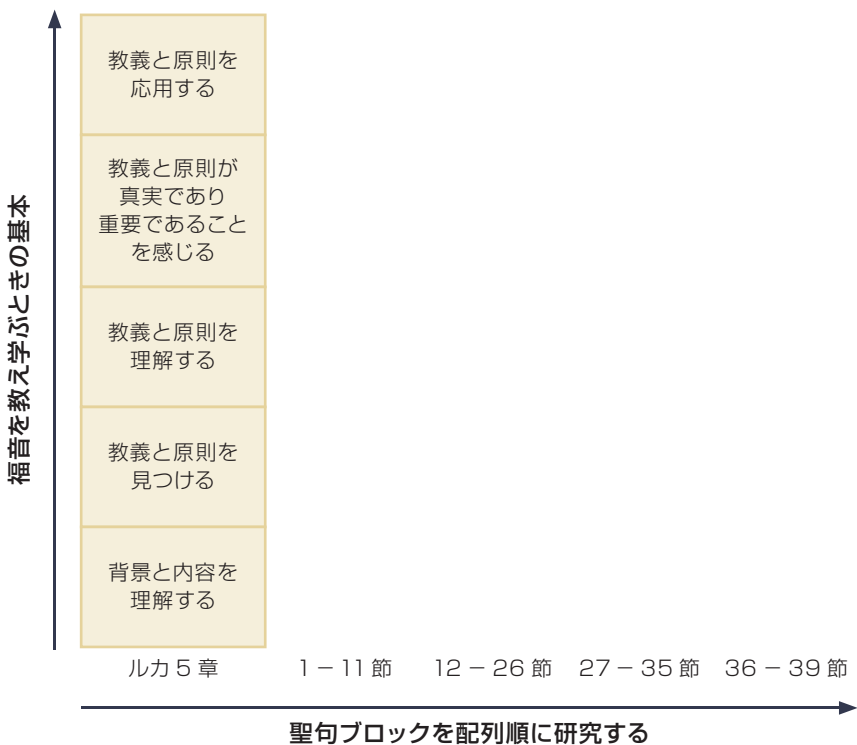
ルカ 5 : 1 – 11 ベテロとヤコブとヨハネは、奇跡的におびただしい魚をとった後、主から召されて人をとる漁師となる。

ルカ 5 : 12 – 26 イエスは数人の病人を癒し、罪の赦しを与えられる。

ルカ 5 : 27 – 35 イエスが取税人や罪人と食事を共にされたことで、律法学者やパリサイ人はイエスに質問をする。

ルカ 5 : 36 – 39 イエスは古い皮袋の中の新しいぶどう酒のたとえを語られる。

次の図表は、これらのセグメントのそれぞれに対するサンプルレッスンの展開を示すために使用するものである。また、教師がそれぞれの節のまとまりに「福音を教え学ぶときの基本」を取り入れる計画をどの程度まで行うかについても示す。



1-11 節

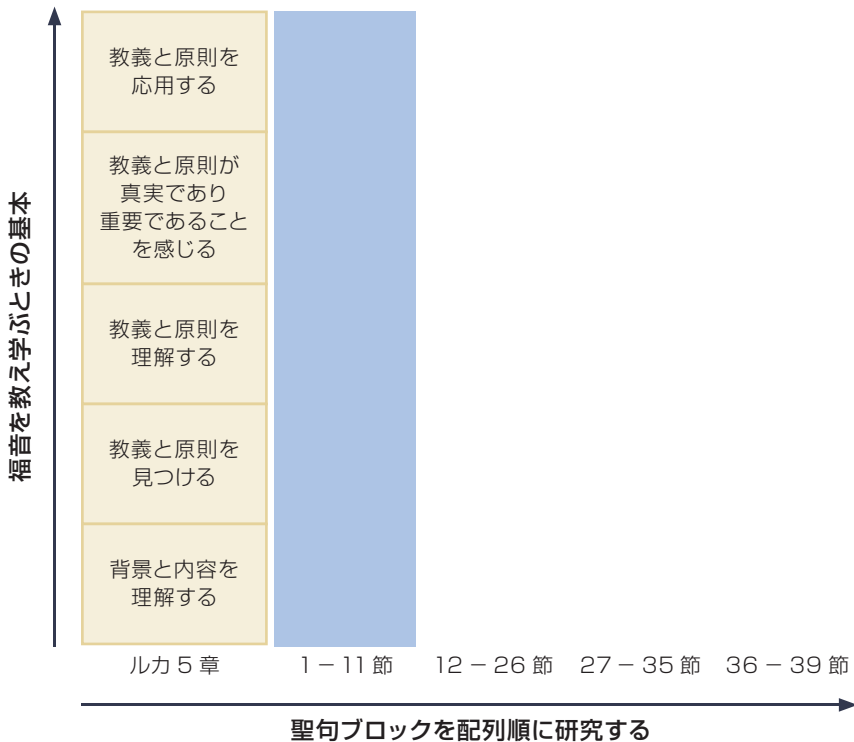
メモ

ペテロとヤコブとヨハネは、奇跡的におびた^{おびた}しい魚をとった後、主から召されて人をとる漁師となった。

最初に、生徒がルカ 5:1-11 の背景と内容を理解するように助ける。生徒はこれらの節を学ぶと、イエスがペテロに「沖へこぎ出し、網をおろして漁をしてみなさい」と言われたことが分かる(4 節)。夜通し漁をして「何も」とれなかったが(5 節)、ペテロは主に従い、驚いたことにおびた^{おびた}しい魚をとったことを、生徒は知る。ペテロの経験から、生徒は次の原則を見つけることができる。「理由が分からなくても主から求められることを行えば、わたしたちは予期した以上の祝福を受けることがある。」その後、教師は、生徒がもっとよくこの原則を理解することができるように、またそれが自分にとってどのような意味があるかを理解できるように助ける。それを行うために、ペテロの経験は生徒自身の生活における状況とどのように似ているか、生徒とともに話し合う。あるいは、末日の預言者や使徒の関連ある言葉を紹介する。

これらの節で教師が望むのは、生徒がこの重要な原則を見つけて理解するのを助けることだけでなく、御霊の影響^{みたま}を通してそれが真実であり重要であることを感じるようにすることである。そのために、理由が十分に分からないときでも主の指示に応じてどのように祝福されてきたか、生徒に経験を分かち合ってもら^{あかし}う。生徒と教師が自分の生活でこの原則が真実であるというどのような証拠を見てきたかについて証^{あかし}するとき、御霊はそれが真実であることを証し、実践するように促す。その後、教師は、少しの時間を生徒に与えて、この原則をどのように応用することができるかよく考えてもら^{あかし}い、書き留めてもら^{あかし}う。

図表は、「福音を教え学ぶときの基本」がこのセグメントで実行されたことを示すものである。



メモ

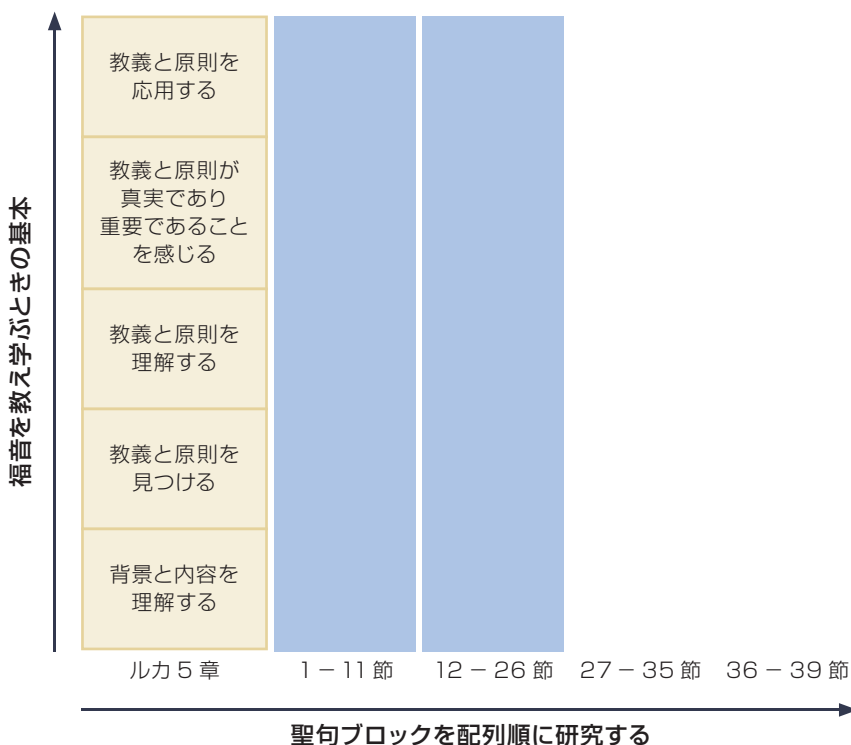
12 - 26 節

イエスは数人の病人を癒し、罪の赦しを与えられた。

生徒がこれらの節の内容を理解することができるように、教師はまず、重い皮膚病にかかっている人と中風を患っている人が主から癒しを受けた話を生徒によく知ってもらおう。内容についての生徒の理解を深めるために、これら二つの癒しはどのような点が似ており、またどのように違っているか、生徒に分析してもらおう。生徒がこれを行えるように、両方の癒しで信仰が果たした役割について考えてもらおう。どちらの場合も信仰が必要であったことが分かったら、生徒は次の原則を見つけることができる。「わたしたちが信仰を働かせて主のもとへ行けば、主は癒しを与えてくださる。」二つの話の違いを分析することによって、生徒は、重い皮膚病にかかっている人は自分で主のもとへ行き、中風を患っている人はほかの人々の助けが必要であったことに気づくであろう。このことから、生徒は、もう一つの原則を見つけることができる。「わたしたちは、ほかの人々が救い主のもとに来て癒しを受けられるように助けることができる。」

教師は、病気以外のどのようなことについて人々が癒しを受けることができるか尋ねて、生徒がこれらの原則を理解するのを助けることができる。話し合うことで、これらの節に出てくる肉体の癒しはわたしたちに霊的な癒しを与える主の力を象徴するものであると、生徒が理解することができる。霊的な癒しには、罪の赦し、悲しんでいるときの慰め、あるいは恐れや心配がなくなることなどが含まれる。

生徒がこれらの原則が真実であり重要であることを感じることができるようになるため、教師は、生徒自身、あるいは生徒が知っているだれかが霊的または肉体的に癒しを受けた経験を分かち合ってもらおう。また、救い主の癒しの影響力を受けるようにほかの人を主のもとに連れて来た人を見たときのその模範について話す



ように頼むこともできる。(生徒にそのような模範について分かち合ってもらうときに、それに関係した人の名前を言わないように注意する。)教師は、救い主の愛について、また癒しを与える救い主の力について証^{あかし}するように生徒に勧めるとよい。

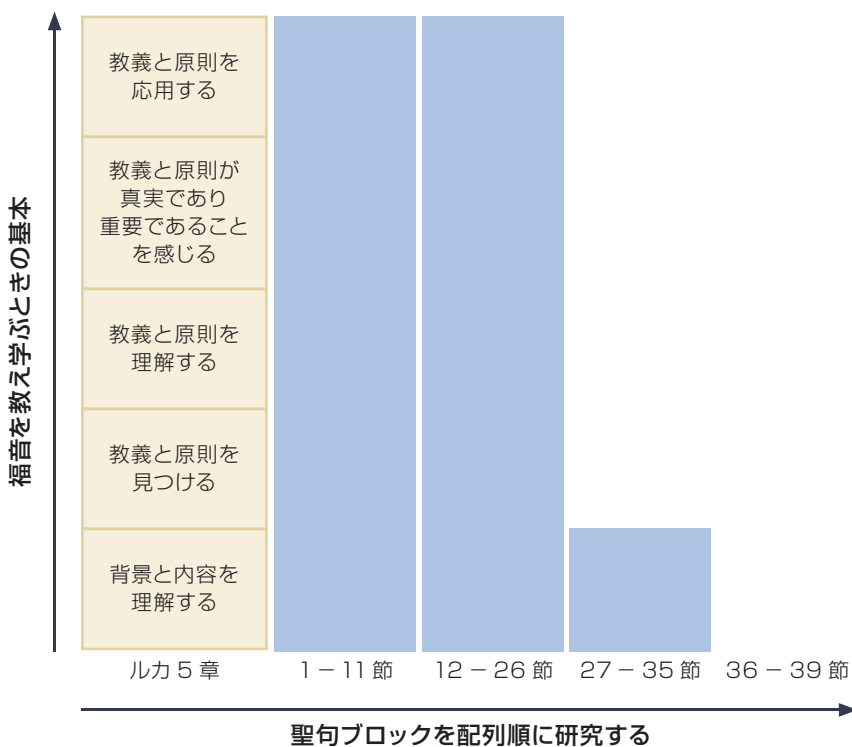
応用を促すために、癒しや赦しや慰めを受ける信仰を働かせるために行える具体的な事柄、あるいは友人やだれかほかの人を救い主のもとに連れて来る方法について生徒に考えてもらう。

27 - 35 節に進む前に、これらの節から救い主について学んだことを分かち合うように生徒に頼む。この勧めにこたえたと、救い主の思いやりに気づき、感謝する気持ちがわいてくるであろう。

27 - 35 節

イエスが取税人や罪人と食事を共にされたことで、律法学者やパリサイ人はイエスに質問をした。

このセグメントでは、生徒が背景と内容を理解するのを助けることだけを計画する。これらの節について研究すると、生徒は、取税人レビすなわちマタイの召しについて、またイエスが取税人や罪人と食事を共にされたことについて知るであろう(内容)。取税人は卑しい身分の者であり罪人であるとユダヤ人から見られていたことを生徒が理解できるように助ける(背景)。この背景は、主の弟子となるマタイの将来の召しの重要性を理解するのに役立つであろう。またそれは、これらの節に見られる、主が「取税人や罪人などと飲食を共に」しておられることについてのパリサイ人と主とのやり取り、ならびに罪人が悔い改めるのを助けるという主の使命をさらに意味あるものとしている(30 - 32 節参照)。



メモ

メモ

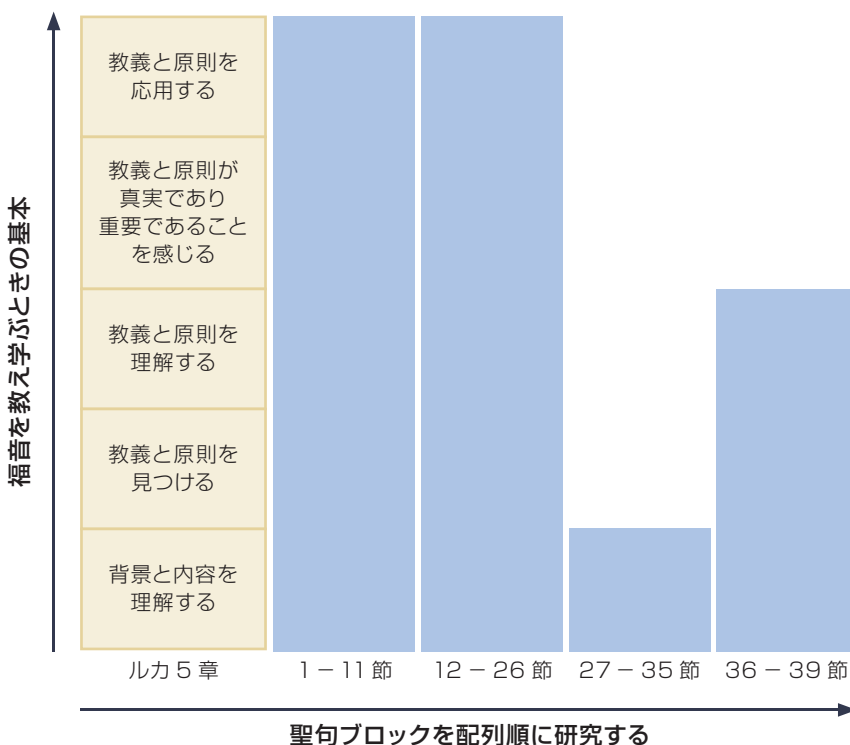
36 - 39 節

イエスは古い皮袋の中の新しいぶどう酒のたとえを語られた。

生徒がこのたとえの背景と内容を理解するのを助けるために、柔らかく弾力性のある皮袋と固くて弾力性のない皮袋の違いについて生徒に話し合ってもらおう。その後、イエスがパリサイ人に語っておられることと(背景)、このたとえの「古い着物」と「古い皮袋」は、変わろうとせず、キリストの教義を受け入れようもしないパリサイ人を象徴していることを説明する。また、「新しい着物」と「新しい皮袋」は自発的に変わり、救い主とその教えを受け入れる人々を象徴していることも指摘する。

その後、このたとえに基づく原則を見つけるように生徒に言う。生徒は次の真理を見つけるであろう。「救い主と福音を受け入れるためには、^{ほんそん}謙遜であり、自発的に変わらなければならない。」その後、生徒にその章を見直してもらい、救い主とその教えに対してかたくなで不従順な態度を示した人々の例と、謙遜であり、喜んで変わった人々の例を探してもらおう。この活動は、生徒がもっとよくこの原則を理解するのに役立つであろう。

レッスンの結びとして、ルカ5章を学んで得たその他の洞察あるいは感じたことを分かち合うように生徒に勧める。さらに、教えた真理について証し、^{あかし}見つけた原則と教義に従って行動するように生徒に勧める。



教える準備をする

個人的な準備〔4.1〕

ボイド・K・パッカー長老は次のように述べている。「教師が個々のレッスンの準備のためだけでなく、御霊と調和した生活が続ける準備のためにもできるかぎりすべてのことを行うとき、力が与えられる。靈感を求めて御霊に頼ることを学べば、靈感を受けて教えることができるという、はっきりした知識をもって、……生徒の前に立つことができる。」(Teach Ye Diligently, 改訂版〔1991年〕, 358 - 359)

福音の教師の準備として最も重要で基本的なことは、自分自身を霊的に備えることである。そのような備えをする際に考慮すべき重要なこととして、福音に従って生活すること、助けと導きを祈り求めること、信仰を働かせること、現職訓練集会(教師会)に参加することなどがある。

福音に従って生活する〔4.1.1〕

教師がどれほど忠実に福音に従って生活しているかが、その教え方に影響を及ぼす。聖霊を伴侶として導きを得るのにふさわしい生活をする事以上に大切な準備はない(2ページの第1.2項「生活する」を参照)。

助けと導きを祈り求める〔4.1.2〕

祈りは教える準備するのに欠かせないものである(教義と聖約 42:14; 104:79, 82 参照)。教師は、聖文と福音の原則を理解する際に御霊の助けを祈り求め、また御霊によってそれらの原則を教える最良の方法を判断する際に知恵を祈り求めることができる。各クラスを始める前に助けと導きを祈り求め、また御霊によって感じ、学ぶ生徒の自発性を祈り求めることができる。各生徒をもっとよく理解するために識別の賜物を求め、奮闘している個々の生徒に手を差し伸べるために助けを求め、またほかの生徒よりも愛することが難しい生徒を愛するために慈愛の賜物を主に求めることができる(モロナイ 7:48 参照)。

信仰を働かせる〔4.1.3〕

「宗教教育セミナー・インスティテュートの目的」の「教える」の段落には、効果的に教える教師は神の言葉の力を信頼し、主と聖霊を信じ、生徒を信頼しているはずであるという意味が含まれている。教師が良い働きができないとき、これらの要素を欠いていることがよくある。

みことば
御言葉の力を信頼する。教師は、生徒は聖文研究をすることが好きではない、あるいは毎日聖文を教えていると生徒の興味を引き続けることができないと思う誘惑に駆られる



メモ

ことがある。しかし、聖文には「命の言葉」が記されており（教義と聖約 84：85）、その言葉は「剣やそのほか……どのようなことよりも」心に「力強い影響」を及ぼす（アルマ 31：5）ということ覚えておかなければならない。

ヘンリー・B・アイリング長老は次のように述べている。「皆さん自身のために、また生徒のためにお願いします。生徒は〔聖文を〕読みたいと思うだろうという信仰を持ってください。生徒を聖文に駆り立てるには及びません。信仰が生徒を聖文に引き寄せるでしょう。……主がその書をお書きになったのです。皆さんを引き寄せるようにそれを書く方法を、主はニーファイに示されました。そして、それは皆さんの生徒を引き寄せるでしょう。」（“The Book of Mormon Will Change Your Life”〔モルモン書に関する CES シンポジウム、1990 年 8 月 17 日〕、2）

主と御霊^{みたま}を信じる。青少年とヤングアダルトに福音の原則を教える責任は困難で圧倒されてしまいそうだと感じるかもしれない。しかし、それは主の業である。主は信仰をもって主に心を向ける人々を助けてくださる。モルモン書はこう教えている。「キリストは言われた。『あなたがたはわたしを信じるならば、わたしの心にかなることを何事でも行う力を持つであろう』と。」（モロナイ 7：33）

教師は、主が各生徒の必要を理解し、祝福を授けたいと思っておられるという信仰を持たなければならない。また、聖霊が各生徒に福音のメッセージを伝え、生徒の必要と状況に応じて福音の原則を応用するように促してくださいと信じなければならない。教師は、聖霊が「真理を教えるために遣わされた慰め主」であられることを覚えておかなければならない（教義と聖約 50：14）。



生徒を信頼する。教師は、適切に導き励ませば生徒は聖文を理解し、教義と原則を見つけるようになり、ほかの人々に福音を説明し、福音の教えを生活に应用できるという信仰を持たなければならない。J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長は、セミナーとインスティテュートの生徒の幾つの特徴について述べている。

「教会の青少年は、御霊に関することに飢えています。彼らは福音を学びたいと切望しています。福音を薄めることなく純粋なまま学びたいと思っています。……」

……皆さんは、このような霊的経験の豊かな青少年に対して、ご機嫌取りをする必要もなければ、宗教について耳にささやきかける必要もありません。まっすぐに面に向かって話せばよいのです。宗教的な真理を世俗的な事柄で覆い隠す必要はありません。皆さんはこれらの真理を包み隠さず、ありのままに教えることができます。」（『教育に関する教会の指針』改訂版〔1994 年〕、4、12）

生徒の外見や行動、あるいは福音学習に対する対応を見ると、「御霊に関することに飢えて」いないかのようと思われることが時折ある。このような状況で、教師にとって特に重要なのは、クラーク管長の教えを信じる信仰を働かせることである。ヘンリー・B・アイリング長老は、次のように力強い約束の言葉を述べている。「生徒は、飢餓^{きが}で気を失うということを知らないかもしれませんが。しかし、神の言葉は、生徒自身が渴いていることを知らなかったその渴きを癒します。そして、聖霊はそれを生徒の心の中に記してくださることでしょ。」（“We Must Raise Our Sights”〔モルモン書に関する CES 大会、2001 年 8 月 14 日〕、3）

御言葉の力を信じる信仰，主と聖霊を信じる信仰，また生徒を信じる信仰を働かせることによって「セミナー・インスティテュートの目的」を達成しようと努める教師は，絶えず以下のことを自問しなければならない。

わたしの教え方は，

1. 神の言葉に対する理解と愛を深めるように促しているだろうか。
2. 聖霊を招き，教化に結びついているだろうか。
3. 信仰をもって個人的に福音を学び，福音に従って生活するように各生徒を促すものだろうか。
4. 生徒がイエス・キリストをもっとよく知り，愛し，イエス・キリストに従ううえで助けとなるものだろうか。

現職訓練集会（教師会）に参加する〔4.1.4〕

セミナー・インスティテュートは，教師と指導者に現職訓練の機会を提供する。現職訓練はおもに，教授法を改善し，福音の知識を増し，教師がセミナーとインスティテュートにおける管理運営の方法を学ぶのを助けることを意図している。

この訓練の一つの面は，公式の現職訓練集会（教師会）である。現職訓練集会（教師会）は定期的に行われ，教師と指導者が出席するように期待されている。この集会で，参加者は聖文について学び，話し合っ，その理解を深める。生徒を鼓舞する教授法を学び，練習する。また，生徒の登録，出席，修了を増やすためのアイデアを分かち合い，現在必要とされている事項について協議し，また管理運営上の責任を果たす方法を学ぶ。

現職訓練のもう一つの面は，クラス参観に関するものである。教師は，自分の教授法を見て有益なフィードバックをしてくれるようにコーディネーターや校長，同僚の教師に依頼すると非常に役立つであろう。参観者には，しばしば，教師が伸ばそうと努めている特定の教授技術に関して具体的なフィードバックをするように依頼できる。機会がある所では，教師はほかの教師を見ることから益を得られる。

信仰をもって，また学んで改善したいという心からの望みをもって現職訓練に臨む人々は，着実な成長と進歩を経験するであろう。

生徒の準備〔4.2〕

聖典には，霊的な学習に努める人々の心と意思の備えの状態のことが述べられている。例えば，旧約聖書の中の祭司であり学者であるエズラは，「心をこめて主の律法を調べ……た。」（エズラ7：10）使徒行伝には，「心から教を受けいれ〔た〕」忠実な聖徒のことが述べられている（使徒17：11）。救い主は，ニーファイの民を訪れたとき，「明日のために心〔を〕備え……なさい。わたしはもう一度あなたがたのところに來るであろう」と言われた（3ニーファイ17：3）。

メモ



メモ

生徒は学習経験の中で教化をもたらす聖霊の影響力を感じるために、「御言葉を聞く用意」ができていなければならない(アルマ 32:6)。クラスで、生徒は、思いを研ぎ澄ますとき、学習経験に注意を集中するとき、また御霊によって教えられることを喜んで受け入れる気持ちを示すとき、学ぶ準備が整っている。生徒が福音を学ぶためにその心と思いを備えられるように、教師は以下のことを含め、多くのことについて助けを与えることができる。

生徒のために祈る。教師は、「喜んで」「御言葉を受け入れるように……心を備えさせるために」生徒に御霊を注いでくださるよう主にお願ひすることができる(アルマ 16:16-17)。

愛と敬意のある雰囲気をはぐくむ。教師やほかの生徒から愛され、信頼され、価値ある者と認められていると感じている生徒は、もっと御霊の影響を受け、参加したいという強い望みをもってクラスに来るであろう。

目的意識を確立する。教師は、クラスに出席するのは天の御父と御子イエス・キリストを知るようになるためであり、また聖典と預言者の言葉に見いだされるままの福音を学ぶことによって永遠の命に向かって進歩するためであると、生徒が理解できるように助けなければならない。

興味を引く、時宜にかなった、教化するレッスンをを行う。教師が教化するレッスンを準備していつもそれを行うと、生徒は、クラスに出席する度に何かを学べると期待するようになる。ボイド・K・パッカー長老は次のように教えている。「あなたがクラスを教えている場合、……〔生徒は〕何かを学ばないかぎり、熱い思いをもって戻って来ることはない。戻って来たいと思う何かを学ばなければならない。クラスで得るものがあれば……自発的に、実に熱心に来るであろう。」(*Teach Ye Diligently*, 182)

クラスの始めに聖霊を招く。祈り、賛美歌、聖文を読んで考えたことの発表を含む、よく準備された、生徒が司会するディボーションナルは、しばしば御霊を招き、生徒を一致させ、霊的な学習に対して生徒の思いと心を備えさせる。

生徒の興味を引き、維持する。教師は、生徒の興味を引き、より大きな目的をもって聖文を調べるように生徒を導く方法で毎回のレッスンを始めることによって、生徒の心を学習経験に集中させることができる。例えば、教師は、ホワイトボード(または、黒板)に興味を引く質問を書いたり、物や絵、写真を見せたりして、クラスに来る生徒の興味を引くことができる。

多くの生徒が注意力を持続できる時間には限度があるので、賢明な教師は、レッスン中に何度か生徒の興味と熱意を再び引き出す方法を探すものである。これは、学んでいる聖文に生徒の注意を集中させる方法で行わなければならない。

学習者としての役割をよく果たすように生徒を備える。教師は、参加するように生徒に勧める前に、生徒から尋ねられたことについてはっきりと説明し、模範を示し、準備し実践する時間を生徒に与え、その後、学習の過程において生徒が自らの役割を果たすように勧め、また彼らが努力していることを認めなければならない。学習者としての役割を果たすように生徒を備える教師は、「セミナー・インスティテュートの目的」の達成についてはるかに大きな成功を収めるであろう。

レッスンの準備〔4.3〕

メモ

レッスンの準備のための資料〔4.3.1〕

聖典

4つのセミナーコースと、承認されているインスティテュートのコースのほとんどで、標準聖典を学ぶ。これらのコースで教える事柄を決めるときの第1の資料は、聖典そのものである。セミナーとインスティテュートの教師への話の中で、エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように教えている。「聖典と生ける預言者の言葉の代わりを十分果たせるようなものなどないことを、常に覚えておいてください。聖典と生ける預言者の言葉を基本の資料としなければなりません。」(“The Gospel Teacher and His Message”〔CES 宗教教育者への講話, 1976年9月17日〕, 3)

インスティテュートのコースの中には、標準聖典の学習ではなく、福音のテーマに焦点を当てているものがある。これらのコースを教える教師は、準備のための第1の資料として(聖典と同様に)インスティテュートの教科課程で提案されている資料を考慮しなければならない。教師は、これらのコースで教える教義と原則を明らかにし説明するために、聖典と預言者の言葉を使用する機会をいつも探さなければならない。

セミナーとインスティテュートの教科課程

セミナーとインスティテュートの教科課程用資料は、効果的なレッスンを準備して教えるのに役立つおもな資料として提供されたものである。教科課程には、聖句とその背景に関する背景の情報、難しい言葉と語句の説明、聖文中で教えられている教義や原則についての中央幹部の見解、またどの内容と教義と原則を教えるかについての提案も書かれている。教師は聖句ブロックの学習に教科課程を活用すると、聖霊の靈感を受け、生徒の必要を満たすレッスンをするすることができる。

ヘンリー・B・アイリング長老は、教科課程の準備と活用について次のように説明している。「教会で教える教義が正確であることを確認するために預言者によって召されている人々は、皆さんが受け取るその教科課程の中のすべての言葉、すべての写真、すべての図表を再検討します。教科課程は神から靈感されたものであるという信仰を働かせることによってのみ、教科課程の力を引き出せるのです。……

教科課程の内容とその配列に忠実であれば、わたしたちが持つたぐい^{たまたまの}ない教授の賜物は抑えられることなく、引き出されることでしょう。」(“The Lord Will Multiply the Harvest”〔ヘンリー・B・アイリング長老との夕べ, 1998年2月6日〕, 4-5)

その他の資料

教師は、聖句ブロックをもっとよく理解する助けとして、教会機関誌、特に総大会からの教えなど、その他の資料を使用することができる。その他の資料を用いて、推測やセンセーショナルな表現に走ったり、教会が明確にしていない概念を教えたりすることがあってはならない。以前に確認され、公表されたものであっても、クラスで使用するのに適切でないものがあるかもしれない。レッスンは生徒の信仰と証^{あかし}を築くものでなければならない。



メモ

教える事柄とそれを教える方法を決める〔4.3.2〕

教師は皆、レッスンを準備するときに、「何を教えるか」、また「それをどのように教えるか」を決めなければならない。「教える事柄」とは、背景（背後の事情、文化、状況など）、内容（話の流れ、人物、出来事、説教、靈感に基づく説明など）、また聖句ブロック内にある重要な福音の真理である。「教える方法」とは、生徒に理解させるために教師が用いる方法、採り上げ方、活動（クラス討論、視聴覚資料、筆記活動、小人数のグループ学習など）である。教える方法を選ぶ前に教える事柄を決める必要がある。そうすれば、方法や技術ではなく、いつも直接聖文に焦点を合わせることができる。

教師は、レッスンを準備するとき、教える事柄と教える方法の両方を決めるために十分に時間をかけ、努力しなければならない。レッスンの準備で教える事柄にばかり力を入れると、生徒を学習に参加させる方法を考える時間を十分に取れなくなる。そうすると、レッスンは退屈で、ひどく教師本位なものになる恐れがある。また、教える方法に集中しすぎると、レッスンは、目的と力を欠いた、ちぐはぐなものになってしまう可能性がある。

教える事柄を決める〔4.3.3〕

教師は、教えようとする事柄を準備するときに4つの基本的な段階を踏む。まず、聖句ブロックの背景と内容を理解するように努める。第2に、ブロック内に見られる教義と原則を見つけ、理解する。第3に、生徒が学び、応用するためにどの原則が最も重要かを判断する。第4に、聖句ブロックの各セグメントをどの程度強調するかを決める。

1. 教える聖句ブロックの背景と内容を理解する。

教師は、聖句ブロックの背景、すなわち背景を理解し、その内容がよく分かるようになるまでその聖句ブロックに集中するように努めなければならない。聖句に集中するとは、読み、研究し、深く考え、読んだ事柄について靈感と理解を祈り求めることである。

聖典の内容を理解するために行える最も有益な方法の一つが、話題や行動が変わる聖句ブロック内の自然な変わり目に注意することである。教科課程と自分自身の洞察を用いて、これらの自然な変わり目に基づき、聖句ブロックをより小さなセグメント、すなわち節のまとまりに分けることができる。これらの小さなセグメントは重要な基礎ブロック、すなわち構成要素となり、教師は後に準備をするときにこれを用いて、レッスンの流れを組み立て、また聖句ブロック内のすべての内容に少なくともある程度の注意を向けることができる。

また、この方法で聖句ブロックの要点をまとめるとき、重要であると思われる人物、場所、出来事、原因と結果の関係について、また、難しい言葉や語句の意味について理解を増すように努めなければならない。内容を十分に理解するために、複数の聖句ブロックを読む必要があることがよくある。

2. 教義と原則を見つけ、理解する。

教師は、背景と内容を理解することに加えて、聖句ブロック内の教義と原則を注意深く見つけて理解し、また教科課程で提案されている教義と原則を検討しなければならない。教科課程に書かれていなければ、教義と原則を分かりやすい簡潔な言葉で書き出すように努力しなければならない。こうすることは、原則とその意味の両方を心の中でしっかりとまとめるのに役立つ。これはまた、レッスンで学習活動を指導するのに役立ち、生徒が理解力を増し、応用にもっと集中できるようにする助けともなる。

3. 生徒が学び、応用するためにどの原則が最も重要かを判断する。

普通の聖句ブロックには、ほとんどの場合、クラスの時間内に有意義な話し合いを行える以上の多くの題材がある。教師は聖典と教科課程を研究した後、生徒が理解し応用するためにどの教義と原則が最も重要であるかを判断する必要がある。この判断をする際に、教師は以下のことを考慮しなければならない。

聖霊の促し。教師は、レッスンでどの原則と教義を強調するか判断する際に、絶えず聖霊の導きを求めなければならない。

靈感を受けた記録者の意図。教師は、預言者である記録者が何を伝えたいと思っていたか見極めるようにしなければならない。エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように述べている。「彼ら〔記録者〕がわたしたちの時代を見、わたしたちのためになることを選んでくれたとしたならば、なおさらモルモン書を研究する必要があるのではないのでしょうか。『これを記録するように主がモルモン（モロナイあるいはアルマ）に靈感をお与えになったのはなぜだろうか、現代の生活への教訓として何を学べるのだろうか』と絶えず自問する必要があります。」（「モルモン書——わたしたちの宗教のかなめ石」『リアホナ』2011年10月号, 56）教師は、教える聖典のコースが何であっても、レッスンを準備するときに同様の質問について考慮しなければならない。

教師はまた、聖典中の預言者の主要な目的は常にイエス・キリストについて証あかしすることであるということに心を留めておかなければならない。「わたしが一心に志すのは、人々がアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神のもとに来て救われるように、説き勧めることである。」（1ニーファイ6:4）したがって、教師は、「この聖句ブロックは、生徒がイエス・キリストの教義と贖罪しよくざいについて理解しそれに頼れるようにイエス・キリストの何を教えているだろうか」と自問しなければならない。

教師は、靈感を受けた記録者の意図を判断しようとするとき、聖典に明らかにされている事柄を越えないように注意しなければならない。ヘンリー・B・アイリング長老は次のように注意を喚起している。「記録者が言おうとしたすべての事柄、あるいは彼らが述べていない事柄を自分は知っているとはなりません。」（“And Thus We See:” Helping a Student in a Moment of Doubt” [ヘンリー・B・アイリング長老との夕べ, 1993年2月5日], 6）

改心を促す原則と基本的な教義。教師は、教える事柄を決めるとき、次のことを考慮しなければならない。「この聖句ブロックで強調で

メモ



メモ

きるすべての真理のうちでどれが、生徒を天の御父と救い主に近づけ、救いに導くのに役立つだろうか。」ヘンリー・B・アイリング長老は次のように助言している。「レッスンを準備するとき、改心を促す原則を探してください。……改心を促す原則とは、神の御心みこころに従うように導く原則です。」(“Converting Principles” [L・トム・ペリー長老との夕べでの話, 1996年2月2日], 1)

「福音については二つの見解があります。その両方とも真実です。それらによって皆さんの教える力に非常に大きな違いが生じます。一つの見解は、福音とはすべての真理であるというものです。そのとおりです。福音とは真理です。この見解によれば、わたしはクラスで真理であることは何でもかなりよく教えることができます。わたしは福音を教えていることになるでしょう。別の見解は、福音とは、それを守り、従い、受け入れるならば永遠の命に至る原則であり、戒めであり、儀式であるというものです。これも真実です。



これらの見解のどちらかを選んで専らそれを自分の教え方とすると、大きな一歩を踏み出すこととなります。福音とは、それを守り、従い、受け入れるならば永遠の命に至る儀式であり、原則であり、戒めであるという見解ではなく、福音とはすべての真理であるという見解を取るならば、生徒が汚れた海に耐えられるように助けるという競技からすでに身を引いてしまったも同然なのです。」

(ヘンリー・B・アイリング, "Eyes to See, Ears to Hear" [新約聖書に関するCESシンポジウム, 1984年8月16日], 6)

教師はまた、採り上げる聖句ブロックがセミナー・インスティテュートによって強調するものとして選ばれている「基本的教義」のどれかを教えるものであるかどうかを判断しなければならない。これらの教義は、生徒が天の御父の計画と教会の基本的な信条を理解できるようにするものである(35ページの第2.7.2項「基本的教義」を参照)。

生徒の必要と能力。 教師がよく生徒を知り、理解するようになればなるほど、すぐに応用できる重要な原則を見つけ、強調するのが容易になる。教師は聖句ブロックを研究するとき、自分自身にとって感動的な、あるいは特に深い意義のある教えや概念を見つめることがあるかもしれない。しかし、それが生徒たちの霊的な準備や理解力とはかけ離れている場合がある(例として、1コリント3:2に書かれているパウロの堅い食物と乳についての勧告を参照)。教師にとっては新しくない、あるいは興味を感じない原則でも、生徒にとって非常に重要な場合がある。教師は生徒を教えているのであり、レッスンのためのレッスンをしているのではないということを中心に留める必要がある。教師は学習経験の場を与えているのであり、単にレッスンの概要を準備しているのではない。どの原則と教義が生徒にとって最も重要であるかを判断するときに、教科課程は教師にとって特に助けとなる。

リチャード・G・スコット長老は次のように教えている。「皆さんの生徒の個人的な能力と必要に応じて、最も優先順位が高いものは何かを判断してください。生徒が重要な原則を理解し、自分のものとし、人生の手引きの一部とするならば、最も重要な目的が達成されたこととなります。」("To Understand and Live Truth," [リチャード・G・スコット長老との夕べ, 2005年2月4日], 2-3)

どの真理を強調するかを決めながら、教師は、聖句ブロックを採り上げる際に焦点を当てる予定のない原則や教義を簡単に指摘するように計画することもできる。こうすれば、レッスンで大きく焦点を当てるわけではないが、生徒個人にとって重要である可能性のある原則を聖霊がその個人に理解させてくださる機会を備えることになる。教師はまた、自分が気づかなかった、あるいは話し合う予定のなかった何らかの福音の真理を、生徒が見つけたり、あるいは話し合いたいと思ったりすることがあるということを中心に留めておかなければならない。

教師は、これらのことをすべて考えながら、御霊みたまの確認を求めるとしなくてはならない。御霊は、靈感を受けた聖典の記録者の意図や生徒の必要、また生徒が天の御父と救い主に近づくのにどの福音の真理が助けとなるかを、教師がもっとよく理解できるように助けるであろう。

4. 聖句ブロックの各セグメントをどの程度強調するかを決める。

メモ

教師は、聖句ブロックの背景と内容を理解し、それをより小さな、内容に関連したセグメントに分け、生徒が学び応用するための重要な福音の真理を見つけたので、今や、聖句ブロックの各セグメントをどの程度強調するかを決める準備が整っている。教師は、レッスンで強調しようとする教義と原則が含まれているそれらのセグメントを最も強調するのが普通である。すなわち、教師は、これらの節のまとまりについて、生徒がその背景と内容を理解し、その中に見いだされる重要な教義と原則を見つけて理解し、それらの教義と原則が真実であり重要であることを心に感じ、これらの真理を生活に応用できる方法を知るように導くのである。

聖句ブロックの別のセグメントでは、レッスンで強調されている真理にあまり焦点が当てられていないかもしれない。しかし、とばしたり、無視したりしてはならない。教師は、これらの節のまとまりについても同様に、少なくとも要約するように計画しなければならない。

注——準備の時間が無制限にあるということはきわめてまれである。教師がよく犯す間違いは、読み、研究し、教える事柄を決めるのに時間をかけすぎて、教える方法について十分に準備する時間をなくしてしまうことである。毎回のレッスンを準備する際に教師が言う必要のある大切な事柄がある。それは、「教える事柄は十分に理解できたと思う。今、それを効果的に教える方法を決める必要がある」というものである。

教える方法を決める〔4.3.4〕

教師は普通、自分が教える聖句ブロックと自分が見つけた真理に感動を覚えるものである。教師は、研究し、理解し、御霊によって教えを受けるように熱心に努力することによって教化され、自分が準備していたときに学んだ事柄を伝えたいと自然に感じるものである。これが適切なこともあるが、レッスンの目的は、生徒が聖文を理解し、聖霊によって教えを受け、彼らが学ぶことを応用する励ましを感じるようにすることであることを覚えておかなければならない。つまり、教師自身が聖文から学んだ事柄と、それが重要であると感じる理由を生徒に告げる以上のことが常に必要なのである。また、教師が聖句を読み、それを注釈し、次いで別の聖句を読む以上のことを表している。

生徒は、教師がレッスンの準備中に経験したことと同様の学習の過程を踏むように導かれるときに教化される。理解するために聖文を調べ、自分自身で福音の真理を見つけるように生徒を導かなければならない。自分の言葉で福音を説明し、自分が知っていることと感じていることを分かち合い、証する機会を与えなければならない。こうすることは、彼らの頭から彼らの心に福音を移す助けとなる。

生徒はこの方法で絶えず福音を学ぶ経験をすれば、自分自身で聖文を研究し、御霊によって学ぶ自分の能力に自信を持つ。そして、学んでいる事柄を生活に応用したいという望みを感じる。また、自分が信じている事柄をほかの人々に説明し、福音の教義と原則について証を述べる備えももっとよくなるようになる。

教師は、生徒がクラスで一緒に聖文を学ぶときにこの学習の過程を経験するのに役立つ方法を計画しなければならない。教師がレッスンプランを作成するときに、以下の質問に対する答えが教える方法を決める基準となる。

メモ

1. どのような方法または学習活動が、生徒が知る必要のある背景と内容を理解するのに助けとなるだろうか。
2. どのような方法が、生徒が重要な教義と原則を見つけ、言葉で表現できるようになるのに助けとなり、またほかの教義と原則を見つける機会となるだろうか。
3. 生徒がこれらの原則と教義を理解するのを助けるのに、最良の方法は何だろうか。
4. これらの原則が真実であり重要であることを感じるように生徒を導き、それについて分かち合い証するように勧めるために、どのような方法または採り上げ方があるだろうか。
5. 生徒がこれらの原則を生活に応用できる方法を知るのを助け、またそうするように彼らを励ますのに、効果的な方法は何だろうか。

以下は教える方法を決める際に考慮すべき幾つかの事項である。

教授法が、教えるメッセージに調和しており、御霊の影響を受ける助けになることを確認する。時として教師は、生徒を楽しませようとしたり、彼らの興味を引こうとしたりして、理解と教化に至らない方法を選んだり技術を使ったりすることがある。教授法を選ぶときは、その方法によって効果が高まるか、それとも生徒に取り入れてもらおうとするメッセージから注意がそらされるか考えなければならない。例えば、教えることを目的としたゲームは知識（聖書中の各書の配列順など）を与えるのに楽しく効果的な方法である。しかし、最終的な目標が霊的な気持ちを引き出すということであれば、それはほぼ間違いなく逆効果となる。小人数のグループによる活動も有効であるが、この活動はかなりの時間を必要とするので、簡潔に述べられている原則を見つけるのには最良の方法とは言えない。

教師は、教授法と活動が福音を学ぶ場にふさわしく、だれも怒らせたり傷つけたりすることがなく、御霊の影響を受ける助けになることを確認しなければならない。

「福音の優れた教師は定められたコース資料を使い、イエス・キリストの福音の教義と原則と聖約を教えることに最も力を注ぎます。」

(ダリン・H・オクス「福音を教える」『リアホナ』2000年1月号、95参照)



教科課程を使用する。セミナーとインスティテュートの教科課程には、「福音を教えるときの基本」を実行する、教える方法についての提案が書かれている。教師は各レッスンを準備するとき、教科課程を注意深く検討し、聖句ブロックを教えるためにどの情報と方法を使用するかを選ばなければならない。教師は、教科課程の聖句ブロックのための提案のすべて、または一部を選ぶことができる。あるいは、クラスの必要と状況に合わせて提案されているアイデアを変更することができる。

関連性と目的をはっきりさせる。生徒は、聖句ブロックで学んでいる事柄と自分の状況や事情の関連性を理解するとき、通常、福音の教えるを学んで応用するようにもっと動機づけられるものである。また、聖文から実生活の状況の中で導きとなる答えと指示をどのように得られるかを知ることでもある。

したがって、教える方法を準備するとき、教師は、聖句ブロックに含まれている永遠の真理についてよく考え、それを生徒の生活にとって有益で有意義なものにできる方法を検討するとよい。このことを心に留める教師は、しばしば、生徒に関連のある質問、状況、あるいは問題を採り上げてレッスンを始める。そのような質問、状況、あるいは問題を抱えている生徒は、導きと方向づけを与える福音の原則と教

義を知るために聖文を調べるようになる。教師は、レッスンを準備するとき、生徒の興味を持続させ、絶えず学習の過程に生徒を引き込む方法も計画しなければならない。

時間配分を決める。教師は、聖句ブロック全体を採り上げるように熱心に努力しなければならない。しかし、レッスンの様々な部分にどれだけの時間を使うか決めるとき、生徒を教えているのであり、レッスンのためのレッスンをしているのではないということを心に留めることが重要である。教師は、レッスンプランに厳密に従うことに集中するあまり、クラスの時間に靈感を受ける可能性やレッスンプランにない生徒の参加の可能性をなくすようであってはならない。そのためには、レッスンを変える必要がある。

教師が最も犯しやすい間違いの一つは、レッスンの初めの方に時間をかけすぎて時間が足りなくなり、残りの部分を大急ぎで行わなければならないというレッスン展開である。準備するときに、自分が選んだ方法を使うとレッスンの各部にどれくらいのかかるかを予測する必要がある。ほとんどの場合、教師は限られたレッスンの時間内で自分が伝えたいと思うすべてを教えることはできないので、何を強調し、何を要約するかを決める必要がある。

時間配分の必要性は、各レッスンだけでなく、コース全体についても言える。例えば、新約聖書コースで、四福音書に時間をかけすぎれば、残りの書に見いだされる重要な福音の真理を適切に教えることができなくなってしまう。

セミナーとインスティテュートのほとんどの教科課程には、時間配分の提案とコース全体を採り上げるためのスケジュールが記されている。

生徒が役割を果たすように助けることに焦点を当てる。教師は教えようとする方法の準備をするとき、教える事柄だけでなく、学習者に焦点を当て続けなければならない。また、「今日はクラスで何をしようか」あるいは「生徒に何を教えようか」と単に考えるだけでなく、「今日はクラスで、生徒は何をするだろうか」あるいは「生徒が知る必要のあることを見つけるように、どう助けられるだろうか」と考えながらレッスンの準備を進めなければならない。

様々な方法や採り上げ方を用いる。説得力のある教授技術でも、使いすぎれば、効果がなくなったり退屈なものとなったりする。目先を変えるだけの方法を選んではならないが、効果的に教えている多くの教師は、各レッスンの時間内でも教え方に変化を持たせ、また日によっても変化をつけている。生徒が興味を失った場合や、生徒が望ましい結果に到達するのに今行っていることが助けにならないと思われる場合、レッスン中に方法を変えられるように準備しておかなければならない。

様々な教授法を用いることは、生徒が異なる方法で学べるようにするのも役立つ。生徒が、視覚や聴覚、触覚などの様々な感覚を使用しなければならない教授法や学習活動を取り入れれば、生徒はもっと参加するようになり、教えられた事柄を記憶するのに助けとなる。

教師は一般的に、用いるのに楽で有効であると思う方法を選ぶべきではあるが、もっと効果的にできる新しい方法や採り上げ方を進んで試してみなければならない。

この手引きの次の章では、教える方法を決めるときに検討できる様々な教授法と採り上げ方を紹介する。

メモ



5

教授法, 技術, 採り上げ方

教えることは、複合的かつ多面的な職務である。教える方法や技術をリストにすれば、そのリストは多くのアイデアと实例を含み、何冊もの本になるであろう。しかし、これらの事柄は、効果的な教授に不可欠な幾つかの一般的な教授法、技術、採り上げ方に分類することができる。本章ではこれらの重要な分野の幾つかを紹介する。

教える際にどの方法を用いるかを決めるとき、方法と技術はそれ自体が目的ではなく、目的を達成する手段にすぎないことを覚えておくことが重要である。教師は、生徒が特定の聖句ブロックの内容、教義、原則を理解するのに最も役立つ方法、ならびに教化と応用を促す方法を選ばなければならない。特定の技術を使用する目的を心に留めておくことは、もっと有意義な方法でそれを用いるのに役立つであろう。また、御霊がなければ、最も効果的な教授法と採り上げ方を用いたとしても成功は得られないということも覚えておくことが重要である。

質問 [5.1]

効果的な質問をすることは、教師が伸ばすことのできる最も重要な技術の一つである。質問によって、生徒は聖文を理解する過程に入り、重要な福音の真理を見つけて理解できるようになる。また、生徒は福音が自分の生活にどのような影響を及ぼしてきたかをよく考え、現在、また将来、福音の原則をどのように応用できるかについても考えるようになる。効果的な質問をすることは、選択の自由を行使し、学習の過程において自分の役割を果たすことによって学習経験の中に聖霊を招くように生徒を促すものである。

レッスンを準備する段階で、生徒が学ぶときに理解できるように導く質問と、生徒の思いと心を引きつける質問を努めて注意深く覚えておくのは価値のあることである。教師は、質問を考えるとき、その質問をする目的をまず決めなければならない(例えば、聖句から情報を見つけてもらいたい、聖句の意味について考えてもらいたい、あるいは原則が真実であるという証を分かち合ってもらいたい、など)。その後、その目的を心に留めてよく考えて質問を組み立てなければならない。質問によって望んだ結果が得られるかどうかは、注意深く選んだわずかな言葉によって大きく左右される。

教師は、考え、感じるように促す質問を準備して、その質問をするように努力しなければならない。一般的には、単純に「はい」か「いいえ」で答えられる質問や、答えがはっきりしすぎて生徒に考える気持ちを起こさせない質問は避けるべきである。また、論争を招く可能性のある質問も避けるべきである。これは生徒を混乱させるとともに、クラスに不和を生じさせ、御霊を悲しませるからである(3 ニーファイ 11:29 参照)。

「質問をし、質問に答えることが、教える学ぶすべてのことの核心です。」

(ヘンリー・B・アイリング, "The Lord Will Multiply the Harvest" [ヘンリー・B・アイリング長老とのタペ, 1998年2月6日], 5-6)



クラスで質問するときは、答えについて考える時間を与えることが重要である。時折、教師が質問をして1、2秒待ってだれもすぐに返事をしてくれないと、うろたえて自分で答えを言ってしまうことがある。しかし、効果的な質問に対してしばしば必要とされるのが、考え、熟考することである。また、生徒は聖文の中から答えを見つけたり、意味のある答えを考えたりするのに時間を必要とする場合がある。時には、言葉で述べる前に答えを書き出す時間を生徒に与えると効果的である。

メモ

偉大な教師であるイエス・キリストは、様々な手法で質問をし、御自分が教えた原則を考えて応用するように人々を促された。イエス・キリストの質問は、御自分が教えている相手の生活に何をもたらそうとしておられたかによって様々であった。ある質問は、「律法にはなんと書いてあるか。あなたはどうか読むか」と尋ねられたときのように、考えて聖文から答えを引き出すように聞き手を促すものであった(ルカ10:26)。また、別の質問は、「あなたがたはどのような人物であるべきか」と尋ねられたときのように、決意を引き出そうとするものであった(3ニーファイ27:27)。

教師は多種多様な質問をすることができるが、福音を教え、学ぶのに特に重要な質問は一般的に4種類である。

1. 情報を探すように生徒に勧める質問
2. 分析して理解するように生徒を導く質問
3. 気持ちと証を促す質問
4. 応用するように促す質問

情報を探すように生徒に勧める質問〔5.1.1〕

探す質問は、聖句ブロックの内容に関する大切な細かい事項を調べるように勧めることによって、生徒が聖文の基本的な理解を得られるように助けるものである。探す質問は聖句の中の情報を探すように促すものであるため、先にこのような質問をしておいてから、答えが出ている節を読んでもらうとよい。これによって生徒の注意力を高め、聖句の中から答えを見つけ出してもらうことができる

探す質問には、*だれが、何を、いつ、どのように、どこで、なぜ*などの言葉がしばしば含まれる。以下は、*情報を探すように*生徒に勧める質問の幾つかの例である。

- マタイ19:22によれば、なぜ金持ちの青年は悲しみながら立ち去ったのでしょうか。
- サムエル上17:24で、イスラエルの人々はゴリアテを見たとき、どのように振る舞ったのでしょうか。26節で、ダビデはどのように振る舞ったのでしょうか。
- アルマ38:5-15で、アルマは息子シブロンに何を勧告しているのでしょうか。



メモ

探す質問に対する答えは、基本的な理解の基盤となるものであり、ほかのタイプの質問はその基盤の上に加えられるもので、より深い理解と応用を促す。「人々は人の子をだれと言っているか」という救い主の質問は、情報の背景を与えている(マタイ 16:13)。そして、弟子たちの返答は、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」(マタイ 16:15) というさらに深い、さらに鋭い質問に対する準備となった。

分析して理解するように生徒を導く質問 [5.1.2]

分析する質問は通常、生徒が学んでいる聖句についてよく知るようになった後で尋ねる。この質問によって、学習者が聖文をより広く、またより深く理解しようとする気持ちを抱くように促すことができる。また、生徒が関係とパターンを調べたり、聖文内の対比を見つけたりするのに役立つ。分析する質問はほとんどの場合、その答えが複数ある。

分析する質問は一般に、3つの目的のうちの少なくとも一つを果たすものである。それは生徒にとって次のことの助けとなる。

- 聖文の背景と内容をもっとよく理解する。
- 福音の原則と教義を見つける。
- それらの原則と教義をより深く理解するようになる。

生徒が聖文の背景と内容をもっとよく理解するのに役立つ。分析する質問は、生徒の歴史的また文化的背景の面から、あるいはほかの聖句と照らして聖句を調べてもらうことによって、聖文と出来事に対する理解を深める助けとなる。また、このような質問は、生徒が言葉や語句の意味を明確にするのにも役立ち、また、話の流れの詳細を分析してより深い意味を知るのにも助けとなる。このプロセスによって、生徒は原則と教義を見つけることができるように備えられる。

以下はこのタイプの質問の例である。

- マタイ 13:18 - 23 のイエスの説明は、3 - 8 節のイエスの教えを理解するのにどのように役立つでしょうか。
- 天使の指示に対するレーマンとレムエルの対応とニーファイの対応はどのように違っていることが分かるのでしょうか(1 ニーファイ 3:31; 4:1 - 7 参照)。
- 主はジョセフ・スミスに「人を神よりも恐れてはならなかった」と勧告されましたが、116 ページを紛失するに至った原因は何でしたか(教義と聖約 3:7)。

生徒が福音の原則と教義を見つけるのに役立つ。生徒は、聖文の背景と内容を理解するようになると、聖文に含まれている原則と教義を見つける能力が増す。分析する質問は、生徒が結論を引き出し、聖句ブロックに見いだされる原則や教義を分かりやすく説明する助けとなる(26 ページの 2.5.1 項「教義と原則を見つける」を参照)。

以下はこれらの質問の幾つかの例である。

メモ

- 大変な困難に遭ったにもかかわらずニーファイが真鍮しんちゆうの版を手に入れることに成功したことによって、どのような原則が明らかにされているでしょうか（1 ニーファイ 3 – 4 章参照）。
- 最初の示現から神の属性についてどのような教義を学べるでしょうか（ジョセフ・スミス—歴史 1:15 – 20 参照）。
- 長血を患っていた女性が救い主にさわろうとしたことと、その行為に救い主が対応されたことから、どのような教訓を学べるでしょうか（マルコ 5:24 – 34 参照）。

生徒が原則と教義をより深く理解するようになるのに役立つ。生徒は原則と教義を有意義に応用できるようになるには、それを見つけるほかに、理解する必要がある。特定の原則や教義の意味をもっとよく理解する助けになる質問や、原則を現代の状況に照らして考えるように生徒を促す質問、あるいは原則をどのように理解しているか説明するように促す質問は、特に有益である。以下はその幾つかの例である。

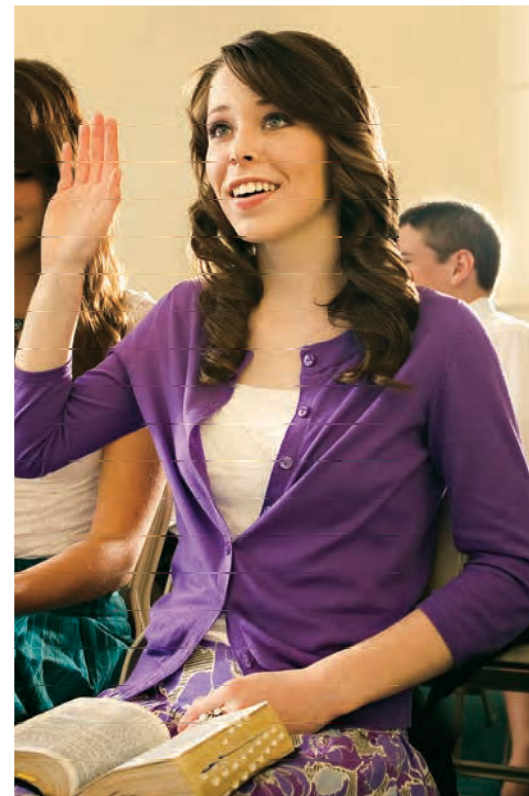
- わたしたちが「勢力と意思と力」を尽くして神を愛した証拠として、どのようなことが挙げられるでしょうか（モロナイ 10:32）。
- ほかに人々に思いやりのない言葉をかける誘惑や、御霊を侮辱するような催し物に参加する誘惑などに打ち勝つために必要な霊的強さを得るうえで、常に祈ることはなぜ助けとなるでしょうか（教義と聖約 10:5 参照）。
- キリストの基の上に築かれた人の生活には、どのような行動と特質が見られるでしょうか（ヒラマン 5:1 – 14 参照）。
- アルマ 40 章で学んだことを用いて、わたしたちの教会の会員ではない友人に復活の教義をどのように説明できるでしょうか。

気持ちと証を促す質問 あかし [5.1.3]

生徒が福音の原則と教義について考え、理解するのに助けとなる質問もあれば、霊的な経験についてよく考えさせ、福音の原則や教義が真実であり、生徒の生活にとって重要であることをもっと深く感じるように導く質問もある。多くの場合、そのように感じると、もっと忠実に福音の原則に従って生活しようという、より強い望みを心の中に持つようになる。教会教育システムの宗教教育者への話の中で、ヘンリー・B・アイリング長老は、この種の質問について述べ、次のように語っている。

「靈感を招く質問があります。偉大な教師はそのような質問をします。……靈感を招かない可能性のある質問として、次のようなものがあります。『真実の預言者はどのようにして分かりますか。』この質問に対する答えは、リスト形式で、聖文と生ける預言者の言葉についての記憶から引き出されます。多くの生徒が参加して答えることができます。ほとんどの人が少なくとも一つはまずまずの意見を述べるすることができます。そして、思いが鼓舞されるでしょう。

しかし、少し変えて、次のように質問することもできます。『皆さんはいつ、自分は預言者の前にいると感じましたか。』この質問は、記憶の中の自分の気持ちを思い出すように促します。質問した後、少し時間を置いてからだれかに答えてもらうのが賢明です。話をしない人々も霊的な経験について考えることでしょう。それが聖霊を招きます。」（“The Lord Will Multiply the Harvest” 6）



メモ

このような質問は、過去のことをよく考え、「記憶の中の自分の気持ちを」思い出し、今話し合っている福音の教義や原則に関する自分の霊的な経験について考えるように促すものである。しばしば、これらの質問から、生徒がその気持ちと経験について話したり、教義や原則について証を述べたりすることがある。これらの質問は、福音を生徒の思いから生徒の心に移す助けとなる。また、福音の教義や原則が真実であり重要であると感じるとき、それを自分の生活にもっとよく応用するようになる。

以下に挙げるのは、感じるように促し、証を述べるように勧める質問の幾つかの例である。

- ほかの^{ゆる}人を救うことから得られる平安と喜びを、いつ感じましたか。
- 自分の理解に頼るよりも主に信頼したことで、主から導かれて物事を決めることができたときのことを考えてください（箴言 3：5 - 6 参照）。そうすることによって、どのように祝福されましたか。
- あなたのために払ってくださった犠牲について救い主に個人的に感謝を述べることができるとしたら、何を述べたいですか。
- 聖なる森で起こったことのために、あなたの生活はどのように変わりましたか。
- 信仰をもって試練に対応している人々を見たのは、いつですか。その経験からどのような影響を受けましたか。

注意——この種の質問に対する答えは、特に個人的なものであり、よく気を配る必要がある。教師は、質問に答えるように、自分の気持ちや経験について分かち合うように、あるいは証を述べるように強いられていると決して生徒に感じさせないようにしなければならない。さらに教師は、個人の霊的な経験は神聖なものであることを生徒が理解するように助け、そのような経験については適切に話すように勧めなければならない（教義と聖約 63：64 参照）。

応用するように促す質問 [5.1.4]

結局、福音を教える目的は、生徒が聖典に見いだされる原則と教義を応用し、忠実で従順な人々に約束されている祝福を受ける資格を得られるように助けることである。過去に福音の原則に従って生活することによってどれほど祝福を受けたか理解することのできた生徒は、さらに大きな望みを持ち、将来福音の原則をよく応用するためにより良い備えをするであろう。生徒が現在の状況の中でこれらの原則をどのように応用できるかを知り、また将来どのようにそれらを応用できるかを考えるように促すのに、質問はきわめて重要な役割を果たす。

以下は、生徒が自分の生活に原則と教義を応用できる方法について具体的に考えるのに役立つ質問の幾つかの例である。

- 安息日をもっとよく聖日として守り、もっと十分に世の汚れに染まらないようにするために、何を变える必要があるでしょうか（教義と聖約 59：9 - 13 参照）。
- 預言者から勧告されていることでもっと厳密に従えることは何でしょうか（アルマ 57：1 - 27 参照）。

- 最初に神の国を求めるならば人生のほかの事柄に祝福を受けるといふ原則は, これから2, 3年先の目標と活動に優先順位をつけるうえで, どのように役立つでしょうか (マタイ6:33 参照)。



クラス討論 [5.2]

有意義なクラス討論は, 福音を教え学ぶにきわめて重要な役割を果たす。クラス討論は, 学習を促す方法として教師が生徒と言葉を交わし, 生徒が互いに言葉を交わして交流するときに行われるものである。良い討論は, 生徒が重要な質問に対する答えを求めることの大切さと, ほかの人々のコメント, アイデア, 経験を聞いて学ぶことの価値を学ぶのに役立つ。また, 生徒がクラスで一定レベルの集中と参加を維持するのにも役立つ。その結果, 生徒はしばしば, 話し合っている福音の教義と原則をもっと深く理解し, 学び, 感じる事柄を応用したいという望みをさらに心の中に強く持つようになる。

以下は, 教師がクラス討論を行い, 促すのに役立つ幾つかのアイデアである。

討論を計画する。ほかの教授法と同様, 討論も入念に準備し, ^{みたま}御霊の影響の下で行う必要がある。教師は, 生徒が学ぶ必要のある事柄を理解するのに討論がどのように役立つか, その目的を達成できる質問は何か, 最も効果的にそのような質問をするにはどうすればよいか, 生徒の答えで討論が望ましくない方向にそれの場合どのように対処するか, あらかじめ考えておく必要がある。

教師は解説しすぎないようにする。討論のテーマに関する解説をしすぎる教師は, 生徒の参加意欲をそぐ可能性がある。教師が答えを与えたくてたまらないということを生徒が知るからである。教師が解説しすぎると, 生徒は自分が貢献する価値はないと感じ, 興味を失うことになる。

参加するように生徒全員に勧める。教師は, 有意義な討論に参加するように生徒全員に適切に勧める方法を見つける努力をしなければならない。様々な理由で参加をためらう生徒にも勧める。教師は, 答える準備ができていないと分かっている生徒を指名して困惑させることのないように気をつけなければならない。

時折, 一人の生徒や少数の生徒がクラス討論を支配する傾向がある。教師は, そのような人と個人的に話し, 彼らの参加意欲を感謝し, クラスの全員に参加を促すことがどれほど重要であるかを述べ, また彼らが進んで答えようとするときに指名されない可能性がある理由について説明する必要があるかもしれない。

生徒を名前と呼ぶ。生徒を名前呼んで質問に答えてもらったり, 意見を述べてもらったりすると, 愛と敬意のある学習環境を設けるのに役立つ。

沈黙を恐れない。効果的な質問をするとき, 生徒がすぐには返答しないことが時折ある。沈黙が長すぎるのでなければ, 教師はこの沈黙を心配することはない。往々にして生徒は, 質問された事柄とその質問への答え方についてよく考える機会が必要である。このようによく考えることによって, 聖霊による教えが促される。

メモ

質問を別の言葉で言い換える。時々、質問の意味がよく分からなくて、生徒が返答に窮することがある。教師は質問を別の言葉で言い換えるか、あるいは質問の意味が分かったかどうか生徒に尋ねるとよい。生徒が深く考えて適切な答えをまとめられるように適切な時間を与えることなく、次々と質問をするようなことは避けなければならない。

注意深く耳を傾け、関連質問をする。教師は時々、次に言うべきことや行うべきことに気を取られて、生徒の発言に注意を払わないことがある。教師は、生徒を注意深く観察し、耳を傾けることによって、彼らの必要を見分け、聖霊の指示の下で討論を導くことができる。教師は生徒の答えを確実に理解するために、次のように尋ねるとよい。「それはどういう意味かわたしが理解できるようにしてもらえますか。」「具体的には、どのような例がありますか。」関連質問をすることによって、生徒が考えていることと感じていることをもっと話してもらい、またしばしばその返答に証の霊を招く。教師は、同様に互いの意見に耳を傾けること、また人が発言しているときは口を挟まないことを、生徒に留意させる。

「あなたが自身の中から一人の教師を任命しなさい。そして、全員が同時に語ることなく、一時に一人を語らせて、すべての者が彼の言うことに耳を傾けるようにしなさい。それは、すべての者が語って、すべての者が互いに教化し合うように……するためである。」



(教義と聖約 88 : 122)

生徒の意見や質問をほかの生徒に向ける。多くの場合、クラス討論は、教師が質問して生徒が答え、その後教師が生徒の答えに自分の考えを追加し、さらに次の質問をするというパターンで行われる。教師が一人の生徒からの質問や意見をほかの生徒たちに向けるとき、討論はもっと有意義で、活発で、効果的なものとなる。「何か追加したいことがありますか」「その意見についてどう思いますか」というような簡単な質問で、生徒が生徒に答えるというパターンができる。これによってしばしば学習経験が非常に豊かになる。通常は、時間に制限がないかぎり、意見を述べたい生徒の全員に話す機会を与える。

生徒の答えに肯定的な態度で感謝を述べる。生徒が返答したとき、教師は何らかの方法で感謝を伝える必要がある。「ありがとう」と言うだけでもよいし、その答えに対するコメントでもよい。正しくない答えが返ってきたとき、その生徒に恥ずかしい思いをさせないように配慮する必要がある。効果的に教える教師は、生徒が述べた正しいコメントの一部を引用して説明を加えるか、生徒がもう一度自分の答えについて考えるように関連質問をする。

クラスで一緒に聖文を読む [5.3]

クラスで聖文を読むことは、生徒が学んでいる聖句に精通し、それをもっとよく理解する助けになる。また、自分自身で聖文を読む能力にもっと自信を持つようになるのにも役立つ。しかし教師は、よく読めない人や非常に恥ずかしがりの人を当惑させないように気をつける必要がある。声に出して読むのを好まない生徒に無理強いしてはならない。しかし教師は、生徒がもっと気楽に参加できる方法を工夫して、生徒の参加を促すとよい。例えば、生徒に前もって短い聖句を割り当ててその生徒が読めるようにしておくことは、その生徒がクラスに参加するのに適切な方法である。

以下は、クラスで一緒に聖文を読む幾つかの方法である。

メモ

- 生徒に一人一人順番に、あるいは全員一緒に、声に出して読んでもらう。
- 生徒同士で互いに読み合ってもらおう。
- 生徒に聖句を黙読してもらおう。
- 物語の中に出て来る様々な人が語った言葉を別々の生徒に割り当てて読んでもらう。
- 教師が声に出して読み、生徒は各自の聖典のその箇所を黙読する。

教師の提示 [5.4]

生徒が学習の過程において役割を積極的に果たそうとすることは、聖文を理解し応用するうえで重要であるが、生徒が耳を傾ける様々な機会に教師が適切に情報を提示することの必要性に代わるものではない。この手引きの目的上、教師が語り、生徒が耳を傾けるこのような時間を、「教師の提示」と呼ぶ。教師の提示は、適切に利用すれば、ほかの教授法の効果を高めるものとなる。しかし、使いすぎれば、教師が中心のこの活動は、教授の効果を減じ、生徒が研究と信仰によって学ぶ機会を制限することになる。

大量の資料を要約したり、生徒に新しい情報を提示したり、レッスンのある部分から別の部分に移行したり、結論を引き出したりするときに、教師の提示は非常に有効である。教師は、生徒が聖句ブロックの背景をもっとはっきりと理解できるようにするために、説明し、意味を明らかにし、例証する必要があるかもしれない。また、重要な教義と原則を強調し、それを応用するように生徒に勧めることもできる。恐らく最も重要なことであるが、教師は、福音の真理について証し、天の御父と御子を愛していることを述べるとよい。

教師は、何かの教授法を用いるときと同じように、教師の提示を用いるときも、次のように自問して絶えず生徒の受容度を評価しなければならない。「生徒は興味を持ち、集中しているだろうか。」「提示していることを、生徒は理解しているだろうか。」結局、この教授法やそのほかの教授法の有効性は、生徒が御霊によって学び、聖文を理解し、学んでいることを応用したいと思っているかどうかによって決まるのである。

教師がこの方法をもっと効果的に利用するために、以下のアイデアが役立つであろう。

レッスンの中で教師の提示を用いる部分を計画する。時々、教師は、レッスンのほかの部分を入念に準備しておきながら、自分がほとんどの時間話をする部分に同じ注意を払わないことがある。教師の提示に関して心配なことの一つは、生徒が受け身で学習経験に参加するだけとなりやすい点である。そのために、教師の提示にも入念な計画と準備が必要である。この入念な計画と準備には、提示を始める方法と筋道立ててレッスンを展開する方法を決めることが含まれる。



メモ

教師の提示の活用を計画するとき、どの部分で生徒が役割を積極的に果たすことが特に重要か、教師は入念に考慮しなければならない。通常、レッスンは聖句ブロックの背景と内容を理解することから原則と教義の発見、話し合い、応用に展開するとき、生徒が役割を積極的に果たすことの重要性が増してくる。

教師の提示をほかの方法と結びつける。クラスで教師の提示をもっと効果的に使うには、レッシンプラン全体の一部としてそれを使い、レッスンの中にほかの方法や採り上げ方を組み込むことである。提示は柔軟であって、生徒が退屈しているか混乱していることが明らかの場合に変更できるものでなければならない。このようにして、教師は話している最中も、生徒と学習に焦点を当て、必要に応じて変更を加えるようにする。教師の提示を真珠のネックレスの糸にたとえた人がいる。真珠は教師の用いる様々な方法（質問、討論、グループ学習、視聴覚プレゼンテーションなど）である。しかし、それらは教師の教えと説明という糸に通して一つにつながれている。糸だけで魅力的なネックレスは作れない。

適切な変化をつける。教師の提示に変化をもたせる方法は様々ある。教師は声の抑揚、高さ、大きさを変えることによって、また提示を行いながら部屋を歩き回ることによって、提示が単調にならないようにすることができる。また、提示する資料の種類に変化を持たせることもできる。例えば、教師は、関連する話を紹介したり、適切なユーモアを用いたり、写真やその他の掲示物を見せたり、引用文を読んだり、ホワイトボードや黒板、視聴覚プレゼンテーションを使ったり、証を述べたりすることができる。教師の提示に適切な変化をつけると、聖文を理解し応用する生徒の能力が必ず増すであろう。



物語 [5.5]

物語は生徒がイエス・キリストの福音を信じる信仰を築く助けになる。物語は興味を引きつけ、生徒が追体験によって福音を理解するのに役立つ。また、生徒が聖句ブロックで見つけた福音の原則を理解するのに特に有効である。聖文の背景のほかに、物語の中の福音の原則を現代の状況に照らして説明することによって、生徒に、福音の原則が自分の生活にどのように関連しているかを理解させ、また福音の原則を応用したいという望みを持たせることができる。

ブルース・R・マッコンキー長老は次のように述べている。「もちろん、現代の信仰を鼓舞する話、すなわちこの神権時代に起こったことを話すのに何ら問題はありません。……事実、これを最大限に奨励するべきです。昔の忠実な人々の間で起こった同じ事柄が聖徒たちの生活の中でも起こっているということを教えるために、わたしたちはあらゆる努力を払わなければなりません。……」

恐らく、信仰を鼓舞する話を提示する際の理想的な方法は、聖文に見いだされることについて教え、その後でそれを、この神権時代、この民、また最も理想的にはわたしたち個人に起こった同様かつ同等の事柄を紹介して現実の生活と結びつけることです。」（“The How and Why of Faith – promoting Stories” *New Era*, 1978年7月号, 4-5）

教師は、預言者の生涯の物語や教会歴史の物語、また総大会の説教と教会機関誌に見られる物語を分かち合うことができる。また、自分の経験から実話を分かち合うこともできる。最も有意義で影響力のある学習経験が得られるのは、福音の原則に従って生活することでどのように祝福されたかを告げる話を、生徒自身の生活の中から話してもらうときである。

メモ

物語を用いるに当たっては、幾つかの注意事項と助言に留意しなければならない。

- 物語を紹介することが教授法や技術の主流となる場合、物語自体がレッスンの中心となって、聖文に使う実際の時間が少なくなり、教える教義と原則が軽視されることになる。
- 教師は自分自身の生活からあまり多くの話を紹介すると、個人的な称賛を得て、「自分自身を世の光とする」ことになってしまう（2ニーファイ 26：29）。
- 物語によって聖文の教えを明らかにし、活気づけ、生徒が御霊の力を感じられるようにすることはできるが、決してそれを用いて感情をあおってはならない。
- 教師は、物語をもっと劇的なもの、あるいは印象深いものにしようとして実話の内容を脚色することのないように気をつけなければならない。
- 要点を例証するユーモラスな話など、物語が実話でない場合は、話の始めに実話ではない旨をはっきりと伝えなければならない。

小グループ討論と割り当て [5.6]

生徒が学習活動や討論と一緒に参加できるように、時折、クラスを二人一組か小グループに分けるとよい。小グループ活動によってしばしば、より多くの生徒が参加できるようになり、生徒が互いに気持ちや考え、証を気兼ねなく分かち合える環境を提供することができる。また、これらの活動は、生徒がほかの人々に福音を教える機会となり、将来福音を教える準備をするのに役立つ。小グループでの討論によって、興味と集中力を失っていると思われる生徒を効果的に参加させることができ、また生徒のコミュニケーション技術を伸ばし、適切な社会的また霊的な関係を強化することができる。また、内気な生徒に自信を持たせ、より有意義な参加を促すこともできる。



生徒に二人一組か小グループで討論を行わせるとき、以下の事項を心に留めておくとうい。

- 教師は、生徒を小グループに分ける前に、活動で何を行うように期待されているか明確な指示を与えなければならない。これらの指示事項をホワイトボード（または、黒板）に書くか、配付資料に印刷し、活動中に生徒がそれを参照できるようにしておくことがしばしば役に立つ。
- 生徒の生活と状況に関連づける小グループの学習活動は、通常、いっそうの興味と参加を促す。

メモ

- 各グループに生徒のリーダーを割り当て、また時間制限を設けることは、グループで討論を続けるのに役立つ。グループ活動の時間が長いと、しばしば、グループ討論の終わる時間がまちまちとなり、クラス内の秩序が失われる可能性がある。
- 通常、活動で学んだことをクラスで分かち合う準備をするように、あるいは教える準備をするように事前に生徒に伝えておけば、生徒はもっと興味をもって活動に参加する。これはまた、生徒がほかの人々に福音を教える練習をする機会ともなる。
- 生徒は一緒に集まる前に個人的に聖文を調べるか、引用文を読むか、何かほかの課題を果たしておく、しばしば、グループでもっと良い討論を行える。
- 5人以上のグループでは、各人が有意義な参加を行うのは難しくなる可能性がある。さらに、それ以上の規模のグループでは、討論を続けるのが時間的にもっと困難になる。
- 小グループ討論は、生徒をグループ分けするのに時間がかかることを考えると、簡単な質問に答えるのに最良の方法ではないかもしれない。
- グループによる学習活動は、使いすぎれば効果が薄れることがある。

小グループ討論や割り当ての最中に、生徒は、活動の目的から気をそらしたり、個人的なことを話したり、学ぶ努力をなおざりにしたりすることがある。各グループを回り、学習活動を見ながら積極的にかかわりを持つ教師は、生徒がその活動を続けて、その割り当てから最良のものを得る助けができる。

筆記活動〔5.7〕

教師は、ノートをとること、日記を書くこと、ワークシート、個人の思い、エッセイなどの筆記活動に参加するように生徒に勧める。時折、考えるように促す質問に対する答えを書き留めるように奨励することは、深く考えて、自分の考えをはっきりさせるのに役立つ。クラスで自分の考えを分かち合う前に質問に対する答えを書き留めるように勧めると、生徒は自分の考えをまとめることができ、それが聖霊の影響を受ける時間となる。生徒は最初に自分の考えを書くと、その考えをもっと分かち合いたいと思うようになり、分かち合う事柄がもっと有意義なものとなる。とりわけ、筆記の割り当てによって、生徒に次のような機会が与えられる。すなわち、個人として参加する、靈感を受ける、ほかの人々を教えたり自分の気持ちを分かち合ったりする準備をする、自分の生活に主の手を認める、証を述べる。教師は学習経験としてどの筆記活動がふさわしいかを判断するとき、デビッド・A・ベドナー長老が述べた次の原則を考慮すべきである。「聖文を研究するとき、学んだことや考えたこと、感じたことを書き留めるのは深く考える方法の一つであり、継続して教えが授けられるように聖霊を招く強力な方法となります。」（『御言葉が目の前にあるので』『リアホナ』2006年4月号、20参照）

年齢が若い生徒や十分な能力がない生徒の筆記活動は、それがうまくできるように生徒に合わせて調整しなければならない。例えば、教師は、多くの情報を提供しながら、質問事項の少ない、空欄を埋める問題を用意することができる。このような生徒を助けるために、短い聖句や特定の質問に集中できる筆記の割り当て



と, その割り当てを果たす十分な時間を与えよ。

メモ

生徒は通常, 以下のような場合に筆記活動からより多くのものを得られる。

- 生徒が割り当てを果たす際に絶えず参照できるように, 教師は書面にした明確な指示を与える。
- その活動は生徒個人の状況に関連のある福音の真理に生徒の思いを集中させるものである。
- その活動は生徒がそれらの真理を個人として応用するうえで助けとなる。
- 筆記活動の間いつでも生徒は教師から支援と助けを得られる。
- 活動の難易度に応じて時折時間制限を設ける。
- 生徒に活動から学んだ事柄について説明してもらったり, 分かち合ってもらったり, 証してもらったりする。
- 個人の気持ちや決意に焦点を当てた筆記活動は, 生徒の許可なしには教師を含むほかの人々に分かち合うことはない生徒に保証する。
- その活動はレッスンプランの有意義な一部であり, 「時間つぶしの活動」や行儀が悪いときの罰として行うものではない。
- 文章を書くのが難しい生徒に対しては, 別の方法で思いや考えを記録できるようにする。ほかの生徒に筆記者となってもらい, 録音機材を使うなどの方法がある。
- 筆記活動を使いすぎない。

ホワイトボードまたは黒板 [5.8]

よく準備してホワイトボードや黒板を使うと, 教師が十分に準備していることが伝わり, クラスの目的を果たすという気持ちの表れにもなる。レッスン時に効果的に使うと, 生徒は学ぶ準備ができ, 特に視覚によって学ぶ傾向がある生徒に対しては有意義な参加が促される。ホワイトボードや黒板を使う場合, 教師は, 全員が見えるようにはっきりと大きく書き, 間隔をあけて整然と読みやすくすることを覚えておかなければならない。ホワイトボードや黒板を使えない所では, 大きな紙かポスターボードで代用してもよい。

教師は, ホワイトボードまたは黒板に, レッソンの要点や原則をまとめたり, 教義や出来事を図解したり, 地図を描いたり, フローチャートを描いたり, 聖文中の事柄を絵にしたり, 歴史的な出来事を表にしたり, 生徒が聖文から見つけたことをリストにしたりすることができる。あるいは, 学習効果を高めるその他の多くの活動を行える。



実物と絵〔5.9〕



実体のない福音の様々な事項について教えるのは、多くの場合難しい。霊的な原則を生徒が理解する助けとして実物と絵を用いるのは、一つの効果的な方法である。例えば、石けんのようなよく知られている物は、悔い改めのようなより抽象的な原則を理解するのに役立つ。救い主は、聞き手が霊的な原則を理解できるように、しばしばこの世の物（パン、水、ろうそく、升など）を引き合いに出して述べられた。

実物と絵を用いると、生徒が聖文中の人物、場所、出来事、物、象徴がどのようなものであるかを思い描くのに助けとなる。教師は、くびき（マタイ 11:28 - 30 参照）についてただ話すのではなく、クラスにくびきを持って来るか、その絵を見せるか、黒板にそれを描くとよい。生徒は「野の花」（マタイ 6:28 - 29）について読むとき、花のにおいをかぎ、花に触れることもできる。種入れぬパンを味わってみるのもよい。

地図やチャートを含めて、実物と絵は、生徒が聖文を思い描き、分析し、理解するのに役立つものである。特に討論を促すために使うと有効である。生徒がクラスに入って来るときに実物や絵が展示されていると、学ぶ雰囲気が高められ、生徒の探求心が深まる。

実物と絵を使うときに考慮すべき注意事項が二つある。第1に、それはレッスンから気をそらさず、常にレッスンの目的を強化するものでなければならない。第2に、出来事の背景と詳細をクラスで討論する資料として使うものは、その出来事や物語についての画家の解釈ではなく、常に聖文でなければならない。

視聴覚プレゼンテーションとコンピュータープレゼンテーション〔5.10〕

主が主の子供たちに目と耳を通して教えを理解させようとされた話が、聖典には満ちている（1ニーファイ 11 - 14 章；教義と聖約 76 章；モーセ 1:7 - 8, 27 - 29 参照）。視聴覚資料およびテクノロジーリソースは、適切かつ効果的に用いるとき、生徒がもっとよく聖文を理解し、福音の真理を学び、応用するのに役立つ。

視聴覚資料は、聖典の重要な出来事を描写し、生徒がこれらの出来事を思い描き、体験するのに役立つことができる。これらの資料によって、人が課題や問題を克服するために福音をどのように応用できるかを劇化することができ、また真理について証する機会を御霊^{あかし}に与えることができる^{みたま}。

教師は、コンピューター技術を使ってビデオの一部を見せ、重要な質問や画像、中央幹部の話の引用を表示し、レッスン中に見つけた原則と教義を強調することができる。レッスンの要点をまとめ、参照聖句を表示し、グループや個人の学習活動に対する指示を視覚で伝えるために、ホワイトボードや黒板を使うのと同じようにコンピュータープレゼンテーションを使用することもできる。これらの方法でテクノロジーを用いることは、視覚で学ぶ生徒にとって役立ち、また生徒が学んでいる事柄を組み立て、もっとよく理解する助けとすることができる。

メモ

指針〔5.10.1〕

視聴覚資料とテクノロジーを使う場合、恐らくほかの教授法以上に、幾つか固有の問題が起こり、うまくいかなくなる可能性がある。教師は、視聴覚プレゼンテーションやコンピュータープレゼンテーションが適切であって学習経験に役立つかどうか判断する際に、知恵を使わなければならない。テクノロジーを過信すると、聖文に基づく、学習者に焦点を当てたレッスンではなく、テクノロジーとメディア主導のレッスンになることがある。以下の問いは、教師が視聴覚資料とコンピューターリソースを使用する際に賢明な判断を下す助けになるであろう。

1. そのリソースは生徒が重要な事柄を学ぶのに役立つだろうか。視聴覚プレゼンテーションは生徒に非常に楽しい気持ちや強い印象を与えるものではあるが、それはレッスンの目的を達成し、生徒が学ぶ必要のある事柄を学ぶのに直接役立つだろうか。楽しみのために、あるいは余った時間を埋めるためにこれらのリソースを使うのは、それを使用する十分な理由とはならない。教師はクラスで使用する前にプレゼンテーションを視聴し、それが聖文ならびにレッスンで教える教義と原則を補強あるいは立証するものであることを確認しなければならない。
2. それはレッスンの資料だろうか、それともレッスンの中心となるものだろうか。ボイド・K・パッカー長老は次のように助言している。「クラスで用いる視聴覚教材は、その使い方によっては、祝福にもなり、のろいにもなる。これらの教材は、食事の際の香辛料や調味料にたとえられる。レッスンにアクセントをつけたり、レッスンを興味あるものにしたりするために控えめに用いるべきである。」(Teach Ye Diligently, 改訂版〔1991年〕, 265)
3. それはふさわしい内容で、教会の標準に合っているだろうか。それは人を教化するだろうか。世の中で作られるものには、良いメッセージを伝えるものも多くあるが、御霊に背く好ましくない内容、あるいは福音の教えと調和しない考え方を容認する好ましくない内容のものもある。ビデオやオーディオの一部が適切であっても、それが不適切な内容を含むものから取ったのであれば、使用してはならない。一般的に議論を招くものや興味本位あかのものは、信仰と証を築かない。
4. それは著作権法やその他の適用される法律を犯すものではないだろうか。ビデオや音楽、そのほかの視聴覚資料には、著作権法や利用規約で使用制限を設けられているものがたくさんある。セミナーとインスティテュートの教師ならびに指導者は皆、自分が教えている国の著作権法に従い、適用される法律と義務を守り、自分自身や教会が訴訟の対象にならないようにすることが重要である。

以下の指針は、すべての国におけるセミナーとインスティテュートの教師ならびに指導者に適用されるものである。

教会が制作した資料の利用〔5.10.2〕

教会が制作した資料に特別な指示がないかぎり、教師と指導者は、教会が制作したフィルム、ビデオ、画像、音楽録音を、教会ならびにセミナー・インスティテュートでの非営利の利用のためにコピーすることができ、また見せることもできる。『賛美歌』『子供の歌集』ならびに教会機関誌に出ている音楽も、その賛美歌

や歌に特に注意書きがなければ、教会ならびにセミナー・インスティテュートでの非営利の利用のために使用することができる。セミナーとインスティテュートの教師ならびに指導者は、教会が制作した資料を、その資料について制限事項が述べられていないかぎり、ダウンロードすることができ、また見せることもできる。

メモ

教会以外が制作した資料の利用 [5.10.3]

原則として、プログラム、ソフトウェア、視聴覚資料は、適切なライセンスを購入していないかぎり、インターネットからダウンロードしたり、クラスで見せたりしてはならない。ビデオ、歌、その他の視聴覚資料は、教会所有のものでないかぎり、どの国であっても、そのような資料をクラスで使用することは著作権法に違反する危険性が高い。したがって、原則として、全世界のセミナーとインスティテュートの教師ならびに指導者は、教会が制作していない資料をクラスで見せるべきではない。

著作権で保護された（楽譜や音楽録音など）音楽を含むメディアを複製することは、著作権者による書面の許可がなければ、著作権法の直接的侵害である。許可がなければ、歌についている著作権で保護された歌詞の複製も違法である。

以下の指針は、アメリカ合衆国の著作権法に対する幾つかの例外を具体的に要約したものである。この例外規定により、アメリカ合衆国内のセミナーとインスティテュートの教師ならびに指導者は、事前にビデオの著作権者からライセンスを得ないでクラスでビデオクリップを使用することができる。他の国々でも同様の例外があるが、セミナーとインスティテュートの教師は、商業ビデオのビデオクリップや、放送またはインターネットから録画したプログラムのビデオクリップを見せる前に、その国における特定の法律と例外を知るために教会の知的財産事務所（Intellectual Property Office）に連絡するべきである。

商業ビデオの利用。アメリカ合衆国の法律には、ライセンスを購入しなくても教師と生徒がクラスで商業ビデオを使用できるという例外規定がある。しかし、この例外規定下で商業ビデオを使用することができるのは、以下のすべての条件が満たされる場合のみである。見せるビデオクリップは、(a) 法律に従って作成されたものであり、(b) 対面して教えるときに使用し（すなわち、セミナーとインスティテュートの教師や指導者がビデオクリップを見せる場所にいること）、(c) 教室、または教育の用に供する類似の場所で使用し、(d) セミナーやインスティテュートのクラスなど、非営利の教育組織によって見せ、(e) 娯楽のためではなく、コースの教科課程に直接関係する教授目的のために見せなければならない。レンタルあるいは購入した商業メディアを、レッスン時やその前後に娯楽の目的だけで見せることは、法律に違反し、不正である。最初から最後まですべてを見せる場合はまず間違いなく違法となる。

放送から録画したプログラムの利用。アメリカ合衆国では、一般大衆に無償で提供されている放送から録画したテレビ番組は、以下の条件を満たす場合のみクラスで使用することができる。(a) コピーの保存期間は45日を越えず、その後直ちに消去する。(b) コピーを作成した日から10日以内にクラスでのみ使用する（最初の10日以降は、最初の45日以内であれば、教師の評価のために、あるいはそのプログラムを将来のレッスンで使用するかどうか決めるためにそのコピーを使用できる）。(c) コピーは1回だけ見せる（レッスンを補強する必要がある場合のみ、

メモ

2 回見せることができる)。(d) 教室, または教育の用に供する類似の場所でのみ使用する。(e) プログラムの全体のメッセージあるいは内容を変えない。(f) コピーはほかの人に渡すために複製してはならない。(g) すべてのコピーに, 録画したプログラムに対する著作権表示をしなければならない。(h) 教育資料やその他のものを作るために, 別のプログラムのセグメントと(物理的に, あるいは電子的に) 結合しない。

前述の要件に加えて, 商業ビデオのクリップや, 放送またはインターネットから録画したプログラムのクリップは, 以下の条件も満たさなければならない。(a) ビデオまたはプログラムの一部のみを見せる。(b) プログラムはいかなる修正も編集も加えずに使用する。(c) プログラムの制作者や所有者が教会やセミナー・インスティテュートあるいはその教を推奨しているかのような使い方, あるいは教会やセミナー・インスティテュートがプログラムやその製作者または所有者を推奨しているかのような使い方をしない。(d) 教会やセミナー・インスティテュートを奨励するかのような使い方をしない。(e) すでに知られている内容の規制と教会の方針に従って使用する。

セミナーとインスティテュートの教師や指導者は, 上記の指針で答えられない質問があれば, 教会手引きの第 21.1.12 項の「著作権表示のある資料」を参照する(『手引き第 2 部——教会の管理運営』[2010 年] 21.1.12)。その後, 必要であれば, 下記に連絡する。

Intellectual Property Office
 50 E. North Temple Street, Room 1888
 Salt Lake City, UT 84150-0018
 電話: 1-801-240-3959, または 1-800-453-3860 内線 2-3959
 ファックス: 1-801-240-1187
 電子メール: cor-intellectualproperty@ldschurch.org

音楽 [5.11]

音楽, 特に教会の賛美歌は, 生徒が福音の学習経験で聖霊の影響を感じるのを助ける重要な役割を果たす。教会の『賛美歌』のはしがきの中で, 大管長会は次のように述べている。「霊を鼓舞する音楽は, 教会の集會に欠かすことができません。賛美歌は主の御霊を招き, 敬虔な雰囲気をかもし出し, 教会員を一つにし, 主に賛美をささげる機会を与えてくれます。

賛美歌を歌うことが, すばらしい説教となることもあります。賛美歌は, 人を悔い改めと善い行いへと駆り立て, 証と信仰を強めてくれます。また, 疲れた者を元気づけ, 悲しむ者を慰め, そして最後まで堪え忍ぶように励ましを与えてくれます。」(『賛美歌』9 参照)。ダリン・H・オークス長老は次のように教えている。「集會で, クラスで, 家庭で, わたしたちはこの天から授けられた財産を十分に活用しているでしょうか。……

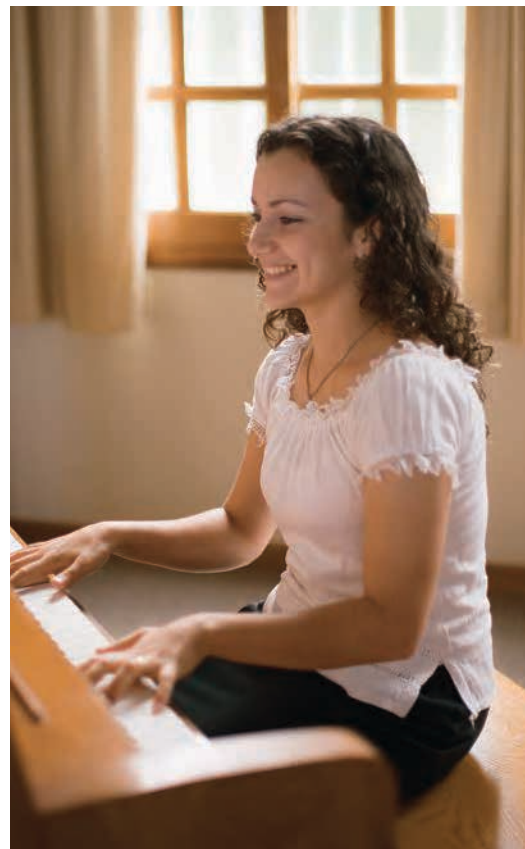


「神聖な音楽は福音を教え、祈る準備をするうえで大きな効果を発揮します。」
 (「音楽による礼拝」『聖徒の道』1995年1月号, 11, 13) 教師は、生徒が礼拝における音楽の重要性を理解できるように、また御霊がもっとよく働きかける雰囲気を作るのに音楽がどれほど役立つかについても理解できるように助けなければならない。

以下は、教師が音楽を使って生徒の福音の学習経験を豊かにすることのできる幾つかの方法である。

- 生徒が教室に入って来るときや、生徒がレッスン中に割り当てを受けて何かを書いているときに、霊的な音楽をかける。
- クラスで一緒に賛美歌を歌うときに積極的に参加するように生徒を誘い、促す。
- 福音の原則を復習し、その日の教えに直接関係がある賛美歌、または賛美歌の一節を歌って、レッスン中に追加の洞察を与える。そのために利用できる参照聖句索引と主題別索引が『賛美歌』の後部にある。
- 賛美歌の歌詞を読むことによって、生徒が福音の教義と原則について証を築き、証を述べる機会を与える。
- クラスで生徒にその場にふさわしい歌を歌ってもらう。

(バックグラウンドミュージック、マスター聖句、暗記など) 何かの目的をもってクラスで音楽を使おうとするときは、ボイド・K・パッカー長老が述べた次の注意事項を心に留めることが重要である。「メッセージに若人の心を引きつけたいと思ひ、神聖な福音のテーマを取ってそれを現代音楽に結びつけようと多くの努力が払われてきた。……それをどのように行って霊性を増すことができるか、わたしは知らない。それは行えないと、わたしは思う。」(*That All May Be Edified* [1982年], 279) 結局、学習経験の中で使用する音楽がどれも教会の標準に一致しており、決して主の御霊に逆らわないものであることを確認するのは、教師の責任である。



メモ

一般的な助言と注意 [5.12]

教師が生徒と良い関係を築きたいと望むのはふさわしいことである。しかし、無意識であっても自制できない場合でも、称賛されたいという思いがある教師は、生徒が学んで成長するのを助けようとするよりも、生徒からどのように思われるかにもっと気を使うようになる可能性がある。そうすると、聖霊を招くのに役立つ方法ではなく、生徒の目に自分のイメージを焼きつけるのに役立つ方法をしばしば使うようになる。このわなに落ちる教師は偽善売教の罪を犯している。「利益と世の誉れを得るために……自分自身を世の光とする」からである（2 ニーファイ 26:29）。おもしろがらせること、自分に注意を引きつけること、あるいは生徒の称賛を得ることを目的として、ユーモア、個人的な話、その他の教授法を使うことのないように、教師は気をつけなければならない。そうではなく、宗教教育者は皆、天の御父に栄光を帰し、生徒をイエス・キリストのもとに導くことに焦点を当てなければならない。

ハワード・W・ハンター大管長は次のように教えている。「福音ではなく皆さんに忠誠心を持つように生徒を感化し、説得する危険性があるということに、皆さんは気づいていると、わたしは確信しています。現在、それは取り組まなければならない大きな問題です。皆さん全員がこのようなカリスマ的教師であることを願うばかりです。しかし、ここにほんとうの危険があります。皆さんが聖文の解釈や提示を与えるだけでなく、生徒を聖文そのものの中に招き入れなければならない理由はそこにあります。主の御霊に関する皆さんの個人的な思いを伝えるだけでなく、主の御霊を感じるように生徒を導かなければならない理由はそこにあります。結局、どんなに上手な教え方であろうと、キリストの教義を教える人のもとに招くだけでなく、直接にキリストのもとに生徒を招かなければならない理由はそこにあります。これらの生徒が必ずしも皆さんのもとに来られるわけではありません。彼らが高校や大学を出た後、皆さんは彼らの手を取って教えてあげることではできません。また、皆さんには個人的な弟子は必要ないのです。」（“Eternal Investments” [ハワード・W・ハンター会長との夕べ、1989年2月10日]、2）

さらに、次の助言と注意点が様々な教授法と状況に適用される。

- **競争の利用。**教師は、クラスで競争する方法を利用するとき、特に生徒同士を競争させるときには、気をつけなければならない。競争は口論、落胆、あざけり、当惑を招き、御霊を失う原因となる可能性がある。
- **否定的なことの強調。**教師は、クラスや生徒個人に失望感を伝える際には知恵を使わなければならない。ほとんどの生徒は、ふさわしくないという思いをある程度感じているので、短所を強調するよりも、彼らを褒めて励ますことが必要である。
- **皮肉。**教師が生徒に、あるいは生徒がほかの生徒に言う皮肉は、ほとんどの場合、否定的であり、有害であり、あざけりを招き、御霊を失う結果を招く可能性がある。
- **不適切なコミュニケーションと言葉。**教師は生徒をどなりつけたり、生徒と口論したりしてはならない。宗教教育の場には冒瀆と俗悪な言葉があってはならない。

- **体力の使用。**教師は体の大きさや力の違いを使って生徒を威嚇あるいは強制して物事を行わせようとしてはならない。ふざけて体に触れることでも、誤解を与えたり、それがエスカレートして何かもっと重大な事態になったりすることがある。教師が生徒の体に触れてよいのは、ほかの生徒を守るためにそうせざるを得ない場合だけである。
- **性別を表す言葉。**教師は聖文中の性別を表す言葉に気をつけ、敏感でなければならない。ある聖文では、聖文の基となった言語の性質上、男性を指す言葉がしばしば使われている。教師は、男性の用語によっては男性と女性の両方を指すものがあるということを生徒に思い出させなければならない。「どこにいる人でもすべての人（英文は、men）が、悔い改めなければならない」と主がアダムに語られたとき（モーセ6:57）、主は明らかに男性と女性の両方について語っておられる。男性の用語がそのまま当てはまる場合もある。例えば、神会の方々は男性であり、また神権の義務に関する代名詞は、男性にのみ当てはまる。

メモ

6

教師として改善を続ける

教師はこの手引きに述べられている原則と方法を実行するように努力するとき、絶えず、しかし根気強く改善を図らなければならない。教師は、研究と信仰、実践、経験によって、教えに教えを加え、効果的な教授法を学び、効果的な教授法を習得しなければならない。教授法の有効性を評価する方法と、改善法に関するフィードバックと支援を受ける方法はたくさんある。教師の改善を助ける方法としては、同僚やスーパーバイザー、生徒による観察とフィードバックなど、正式に体系化された方法がある。また、生徒に聞く、ほかの教師を見る、あるいは同僚とアイデアや経験を分かち合うなど、非公式の方法もある。

フィードバックの最も価値ある源の一つは、聖霊の導きの下に行う自己評価である。ヘンリー・B・アイリング長老は次のように教えている。

「クラスの後で、皆さんは、クラスで何が起こり、また生徒たちの生活の中で何が起こったかをはっきりと知るために、祈りの時間を見つけることができます。自分の方法でそれを行えますが、わたしが行いたいのは次のような方法です。このように祈ります。『わたしが語ったり行ったりしたことや、彼らが語ったり行ったりしたことで、彼らを高めたものがありましたか。』……

へりくだり、信仰をもって祈って尋ねるならば、皆さんは、時折、恐らくしばしば、そのクラスでの生徒の顔の表情や声の調子、あるいはレッスンのある時点で生徒が座り直して身を乗り出した情景さえも皆さんの記憶として思い出すことでしょう。それによって、彼らが高められたという確信を皆さんは得ることでしょう。

しかし、それ以上に重要なことは、それによって皆さんは学ぶ機会を得られるということです。皆さんはクラスで何が起こったかを知ることができ、したがって、何度も繰り返しそのような心が鼓舞される経験を生徒に与えるために自分には何ができるかを知ることができるのです。」(“Converting Principles” [L・トム・ペリー長老との夕べでの話、1996年2月2日], 2)

教師が改善を図りたいと願い、天の御父に喜ばれる方法で教えようと絶えず努めるとき、天の御父は、教師が準備する際に靈感を授け、教師と生徒の関係を強くし、クラスでの教師の働きに力を添え、御父の業をもっと十分に果たせるように御霊を^{たま}与えて祝福してくださるであろう。また、イエス・キリストの教えと^{しよくざい}贖罪について理解しそれに頼るように生徒を導く方法で教えようと教師が努力するとき、天の御父は、教師が改善を図れる分野を知ることができるように助けてくださるであろう。

結局、すべての宗教教育者の目標は、可能なかぎり、「神からこられた教師」である世の救い主を代表することでなければならない(ヨハネ3:2)。ボイド・K・パッカー長老は、セミナリーとインスティテュートの職員に次のように語っている。「わたしはすばらしい特権を頂き、何年にもわたって兄弟姉妹の皆さんの中に見ることのできた属性があります。それは偉大な教師に見られる主の面影そのものです。皆さんが抱えている問題や責任により、皆さんがそれに対処する度合いに応じて、



キリストの面影が皆さんの顔に刻まれると、わたしは信じています。そして実際には、そのときのそのクラスで、その表情により、その鼓舞する言葉により、皆さんは主であり、そして主が皆さんなのです。」(“The Ideal Teacher”〔セミナーとインスティテュートの職員への講話、1962年6月28日〕、5-6)

主の約束 [6.1]

福音を教えることは主の業であり、主はセミナーとインスティテュートの教師がその業で成功を取めるように望んでおられる。教師と指導者は、毎日主に呼び求めるとき、助けが与えられることを感じるであろう。主の福音に従って生活し、福音を教えるように努力している人に、主は次のような約束を与えておられる。

「それゆえ、まことに、わたしはあなたがたに言う。この民に向かって声を上げなさい。わたしがあなたがたの心の中に入れる思いを語りなさい。そうすれば、あなたがたは人々の前で辱められることはないであろう。

あなたがたの言うべきことは、まさにそのときに、まことにその瞬間にあなたがたに授けられるからである。

しかし、わたしはあなたがたに一つの戒めを与える。あなたがたがわたしの名によって告げることは何であろうと、すべてのことについて厳粛な心と柔和な心で告げなければならない。

わたしはあなたがたにこの約束を与える。すなわち、あなたがたがこれを行うならば、聖霊が注がれて、あなたがたの述べるすべてのことを証するであろう。」
(教義と聖約 100:5-8)



索引

あ

愛と敬意

「学習環境を作る, 愛と敬意と目的意識のある」「慈愛」の項も参照

主への__ 2, 11, 12, 13-14, 33, 65

生徒への__ 13-15, 18, 47, 50, 63

アイリング, ヘンリー・B

祈りによって自己評価を行う 78

改心を促す原則を探す 54

現世の事柄を適切に行う 8

教科課程の内容に忠実であれば 51

教師として目指すもの 1-2

原則と教義をはっきり区別する 26

質問は教えることの中核である 58

生徒が信仰をもって自由に求める 6

聖文は渴きを癒す 48

聖文は生徒を引き寄せる 48

従順であり続けることによって改善がもたらされる 3

聖典の記録者が言おうとしたすべてのことを知ることはできない 53

福音については二つの見解がある 54

御霊について話すときには慎重になる 13

御霊によってのみ 11

靈感を招く質問がある 61

証する v-vi, 12, 30, 33, 40, 43, 55, 62, 65

証を強める v-vi, 19, 30, 31, 33, 35, 55-56, 62

「改宗・改心」「心の中に, 福音を」の項も参照

暗記する, 聖句を 34

い

イエス・キリスト

教師は生徒を__のもとに導くことに焦点を当てなければならない 76

教師は__を愛していることについて証しなければならない 33

生徒がクラスに出席するのは__を知るようになるためである 15, 50

生徒が深く考えることによって__のようになれるようにする 21

生徒を__に近づけるのに役立つ真理を強調する 53-54

聖典は__に目を向けさせる 25

聖霊によって__について学ぶ 11

__に対する生徒の愛の気持ちを養う 14

__について学び従う生徒に授けられる祝福 1

__の面影を教師の顔に刻む 78-79

__の模範と__に関する話し合いに焦点を当てることによって御霊を招く 12

__のように教える v-vi, 3, 4, 13, 59, 70, 78-79

__のようになりたいという教師の望み 3

福音はもっと__のようになるのに役立つ 26

福音を教える人への__の約束 79

預言者は__について証する 53

イエス・キリストの贖罪 x, 1, 10, 14, 23, 25

一致 4, 12, 50

「学習環境を作る, 愛と敬意と目的意識のある」の項も参照

祈り 3, 11-12, 13, 78

教える準備をするときの__ v, 13, 47, 52

生徒のための__ v, 14, 50

う

ウクトドルフ, ディーター・F

青少年の心をキリストに向ける 2

お

応用する, 教義と原則を 10, 20, 26, 30-31, 40, 43, 56, 62, 66, 70

「質問, 応用するように促す」の項も参照

オークス, ダリン・H

愛に基づいて教える 13-14

教義と原則と聖約を教えることに力を注ぐ 56

教師は主の業を助ける 1

天から授けられた財産である賛美歌 74-75

特定の応用法を教えることを慎む 31

教える

一般的な助言と注意 76-77

教える事柄を決める 52-55

教える方法を決める 6, 52, 55-57

観察し, 耳を傾け, 見分ける 14, 17, 47, 64, 65

教義と原則を__ 5, 38-46

教授法, 技術, 採り上げ方 56, 58-77

宗教教育セミナー・インスティテュートで聖文を__ 38-46

推測を避ける 51

救い主の方法で__ v

配列順に聖文を__ 38

御霊によって__

「御霊によって教え, 学ぶ」の項を参照
教える事柄とそれを教える方法を決める 52-57

教える事柄を決める 52-55

教える準備をする 47-57

教える方法を決める 6, 52, 55-57

思い描く 22, 70

親, 生徒の x, 8, 17, 19

音楽 12, 35, 50, 74-75

か

改宗・改心 v, vii, 2, 6, 13, 26

「心の中に, 福音を」「宗教教育セミナー・インスティテュートの目的」「目的, セミナリー・インスティテュートの」の項も参照

改心を促す原則 54

改善する, 教師として 3, 47-49, 78-79

書く 28, 31, 32

筆記活動 68-69, 71

学習環境を作る, 愛と敬意と目的意識のある 10, 13-19, 50, 63

学習者

「役割, 学習者の」項を参照

家族を支援する 8

「神への務め」プログラム 9

関係

神権指導者との__ 3, 8-9

生徒との__ 3, 13-14, 50, 76, 78

ほかの人との__ 2, 3

感じる, 教義と原則が真実であり重要であることを 10, 26, 29-30, 40, 44, 56

管理運営する 7

プログラムと資産 8

関連性 24, 56-57

き

偽善売教…… 67, 76
基本的教義…… 35-36, 54
基本, 福音の教授と学習の…… 10-37, 39-41
教育管理会…… ix
教化…… x, 6, 10, 11, 15, 50, 55, 64
教会教育システム…… ix
教科課程…… 13, 24, 39, 51, 52, 53, 54, 56, 57, 73
教義と原則…… 5, 26, 38
 _について述べる…… 12, 28, 53, 69, 71
 _を教える…… 5, 6, 38-46
教師
 の外見…… 16
 の提示…… 65-66
 本位…… 52, 55, 57, 63, 65
競争…… 76
強調する…… 40, 53-54, 55, 57
規律…… 17-18
気を散らすものを取り除く…… 16
キンボール, スペンサー・W
 行うことによって学ぶ…… 32

く

クラーク・ジュニア, J・ルーベン
 教師である皆さんは偉大な使命を負っている…… ix
 聖典に見いだされるままの福音を教える…… 5
 青少年は御霊に関することに飢えている…… 48
 青少年は霊的な祝福を経験している…… 32
クラスの環境…… 16
クラスの管理
 「学習環境を作る, 愛と敬意と目的意識のある」の項を参照
クラスの手順…… 15
グループ活動…… 32, 67-68

け

啓示と靈感…… 15, 16, 31, 61, 68-69
 「聖霊, _の影響を招く」の項も参照
原因と結果の関係…… 27, 38, 52
言外に伝えられる原則…… 27
現職訓練集会…… 47, 49

原則

「教義と原則」の項を参照

こ

心の中に, 福音を…… vii, 2, 6, 11, 29, 30, 39, 55, 62, 63
 「改宗・改心」の項も参照
個人に合ったものとする, レッスを…… 7, 40-41, 51, 54
個人の聖文研究…… 19-23, 25
コンピュータープレゼンテーション…… 70-71

さ

探す質問

「質問, 情報を探すように生徒に勧める」の項を参照

座席…… 16

参加, 生徒の…… 6-7, 8, 21, 50, 52, 63, 67, 69

賛美歌

「音楽」の項を参照

参観・観察…… 49, 78

し

慈愛…… 3, 7, 14, 47

視覚教材

「視聴覚プレゼンテーションとコンピュータープレゼンテーション」「実物と絵」の項を参照

時間配分…… 57

視聴覚プレゼンテーションとコンピュータープレゼンテーション…… 70-71

指針…… 72

実物と絵…… 50, 70

質問…… v, 22, 29, 50, 56-57, 58-63

 応用するように促す_…… 62-63

 気持ちと証を促す_…… 30, 33, 61-62

 情報を探すように生徒に勧める_…… 59-60

 分析して理解するように生徒を導く_…… 29, 60-61

宗教教育…… ix, 1

宗教教育セミナー・インスティテュート…… ix, 8

宗教教育セミナー・インスティテュートの目的…… x, 1-9, 10, 15, 47, 50

修了, 学習コースの…… 8, 49

順次聖典教授法

「教える, 配列順に聖文を」の項を参照

準備, レッスの

「レッスンの準備」の項を参照

 個人的な_…… 47-49

 生徒の_…… 6, 49-50

神権指導者と協力して働く…… 7-8, 17, 19

障がいのある生徒…… 14, 20, 69, 71

印を付け, 注釈を施す…… 21, 28, 68-69

人格, 教師の…… 4

信仰…… 47-49

 主を信じる…… 48

 生徒を信頼する…… 48-49

 _に促された行為…… vi, 6

 「聖霊, _の影響を招く」「役割, 学習者の」の項も参照

 御言葉を信頼する…… 47-48

す

スコット, リチャード・G

 簡潔な原則…… 27

 義にかなった人格を伸ばす…… 4

 教授の効果を測る方法…… 30

 教授の最も重要な目的…… 54

 記録された聖句をそのまま引用する…… 35

 原則と枝葉的な事柄とを識別する…… 26-27

 原則は真理を凝縮したものである…… 5, 26

 生徒に真理を深くしみ込ませる…… 30

 生徒の参加は御霊を招く…… 7

 青少年が聖文を愛するようにする…… 20

 聖典は一種の手引きである…… 23

 聖文の中の友…… 25

 聖文を暗記することは友情を築くことに似ている…… 35

スミス, ジョセフ

 すべての霊は成長することができる…… 14

 聖文を理解する鍵…… 24

せ

聖句のグループ分け

 「聖句ブロックのセグメント」の項を参照

 聖句ブロックのセグメント…… 39, 52, 55

 「成長するわたし」プログラム…… 9

 精通する, 重要な聖句と基本的教義に…… 34-36

 聖典の記録者の意図…… 23, 24, 27, 38, 39, 53

生徒

__の必要と能力……9, 14, 40, 47, 51, 54
の学ぶ備え……6, 49-50, 57, 70
の学ぶ役割
「役割, 学習者の」の項を参照
ほかの人々に福音を教える……6-7, 32,
55-56, 67

生徒と良い関係を築く……13-15, 50

生徒への助言……14, 18-19, 76-77

聖文・聖典・聖句

聖句ブロックの定義と説明……39

聖典研究補助資料……21

聖文研究の技術と方法……20-23

__の教義と原則……5, 26, 53, 60

__はレッスンの準備のための第1の資料
……51

マスター聖句……34-35

を教える……v, 5, 38

聖文を自分に当てはめる……22, 40

性別を表す言葉……77

聖霊

学習における__の役割……1-2, 6, 10-
13, 15, 31, 34, 38, 48, 55

__による教化……6

__の影響を招く……6, 7, 12-13, 15,
17, 30, 31, 41, 49, 50, 56, 58,
61, 63, 68, 74

__の働き……11

は準備するときに助けてくださる……51,
53-54, 78

__を伴侶とするため懸命に努力する……
2

説明する……28-29, 32, 40, 55

福音の教義と原則を__, 分かち合い, 証す
る……31-33

前後関係と内容……24-25, 52

「理解する, 聖典と預言者の言葉の文脈
と内容を」の項も参照

選択の自由

による信仰に促された行為……6-7

を使う学習者……6, 58

そ

相互参照……22

備え, 生徒の……15, 49-50, 56-57, 70
「生徒, 学ぶ備え」の項も参照

た

大管長会

賛美歌は主の御霊を招く……74

態度, 教師の……4

ち

秩序を乱す行為や不適切な行為を正す……
17-18

著作権法……72

沈黙・静か……12, 63

て

ディボーションナル……12, 15, 16-17, 35,
50

天の御父

教えるときに__に栄光を帰す……76

__から求められることを成し遂げる準備
ができるように生徒を助ける……2

教師は__を愛していることについて証しな
ければならない……33

障がいのある生徒も__の子供であることを
思い出す……14

青少年を助けて__とともに永遠の命にあ
ずかれるようにする……x, 1

生徒がクラスに出席するのは__を知るよ
うになるためである……15, 50

生徒が__を知って愛するように助ける
……x, 1

生徒は__の御心にかなう選択をする強さ
を得る……5

生徒を__に近づけるのに役立つ真理を強
調する……53-54

聖霊によって__について学ぶ……11

__にとって無限の価値があることを教える
……14

__に喜ばれる方法で教えるときに祝福が
授けられる……78

__のようになりたいという教師の望み……
3

__は聖文を記すようにえり抜きの男女に靈
感を与えてこられた……23

__は聖文を通じて生徒に語りかけられる
……34

と

登録……8, 49

討論……63-64, 71

に

日記……68

は

背景

地理的な__……24

文化的な__……24, 60

歴史的な__……24, 60

バックナー, ボイド・K

証は実際に証を述べる中で見いだすもの
である……33

敬虔さが啓示をもたらす……16

視聴覚教材は祝福にもなり, のろいにもな
る……72

贖罪はキリスト教の教義の根本である……
1

真実の教義を理解すれば……5

救い主の面影が教師の顔に刻まれる……
78-79

救い主は教師の模範である……v

生徒は靈的に得るものがあれば熱心に來
る……50

聖文の本質と目的……26

福音のテーマを現代音楽に結びつけよう
とする努力……75

御霊と調和した生活を続けるとき, 力が与
えられる……47

靈的な事柄に無理強いはいできない……12

パターン, 聖文について考える……39

バラード, M・ラッセル

証は人の生活を変える……33

ハンター, ハワード・W

イエス・キリストの教えと模範……4

カリスマ的教師についての危険性……76

毎日聖文を勉強する……19-20

御霊の影響を模倣しようとしな……12-
13

若い人々が聖文を信頼するようになる……
34

ひ

比較と対比……22

ビデオ

「視聴覚プレゼンテーションとコンピュー
タープレゼンテーション」の項を参照

皮肉……76

ヒンクレー, ゴードン・B

成長し続ける……3

知識が十分な人はだれ一人いない……4

ふ

ファウスト, ジェームズ・E

真理を宣べ伝えなければならない(B・
H・ロバーツの言葉の引用)……28

フィードバック……49, 78

深く考える……21, 31, 40, 68-69

福音に従って生活する……x, 2, 4, 47

ふさわしさ……2, 11, 47

「福音に従って生活する」の項も参照

物理的な学習環境…… 16
分析する…… 27, 29, 32, 40, 44, 60, 70
「質問, 分析して理解するように生徒を導く」の項も参照

へ

ヘイルズ, ロバート・D
個人の義を確立するように努める…… 2
生徒が教え, 証するときに信仰が促される…… 33
生徒が霊的な証と理解を得るように助ける…… 29

ベドナー, デビッド・A
書き留めることで聖霊を招く…… 68
関連性, パターン, テーマ…… 23
信仰に促された行為は意欲があることを示すものである…… 6
聖典を初めから終わりまで通して読む…… 39
聖霊の証は心に入る…… 6

変化…… 57, 66
変更を加える, レッスンに…… 13, 17, 51, 56, 57, 66

ベンソン, エズラ・タフト
教師にとっては福音を学ぶことが不可欠である…… 20
聖典の記録者はわたしたちの時代を見た…… 53
聖典を基本の資料としなければならない…… 51
夫婦としての関係…… 3

ほ

ホランド, ジェフリー・R
穏やかな雰囲気が必要である…… 12
聖文を調べるように生徒に勧める…… 22
反応を示さない生徒を愛する…… 19
ホワイトボードまたは黒板…… 28, 69-70

ま

毎日聖文を研究し, コースのテキストを読む…… 19-23
毎日の聖文研究…… 7, 10, 19-20
マックスウェル, ニール・A
福音が真実であり, 重要であり, 緊急を要するものであることを強調する…… 30
皆さんは自分がどういう人間であるかを教えている…… 3

マッケイ, デビッド・O
秩序がなければならない…… 19

マッコスキー, ブルース・R
現代の信仰を鼓舞する話…… 66

学ぶ
環境…… 13
御霊によって…… 10, 17, 20, 55, 65
「聖霊」「御霊によって教え, 学ぶ」の項も参照

み

御霊によって教え, 学ぶ…… 6, 10-13, 15, 47
「聖霊」の項も参照

御霊によって教える
「聖霊」「御霊によって教え, 学ぶ」の項を参照

見つける
教義と原則を…… 26-28, 39, 43, 53, 56, 60-61
福音の教義と原則を__, 理解し, それらが真実であり重要であることを感じ, それらを用いる…… 26-31

耳を傾ける, 生徒の言葉に…… 14, 64

む

難しい言葉と語句の意味を明確にする…… 22, 25, 52

め

明白に述べられている原則…… 27-28

も

目的
セミナー・インスティテュートの…… 1, 10, 53-54, 78
__を果たす環境を整える…… 15, 50, 56
「イエス・キリスト」「改宗・改心」「心の中に, 福音を」の項も参照
「もし……なら, ……である」という表現…… 28

模範, 教師の…… 2-3, 20, 35

物語・話…… v, 30, 66-67

モンソン, トーマス・S
聖文の背景を学ぶ…… 24
人の方が問題よりも重要である…… 18
福音を教える目標…… 30

や

役割
聖霊の__……「聖霊」「御霊によって教え, 学ぶ」の項を参照

学習者の__…… 6, 15, 17, 50, 55, 57, 58, 66

よ

要約する…… 41, 55, 57, 65
預言者と使徒の言葉…… 5, 29, 30, 33
読む
クラスで一緒に聖文を__…… 64-65
コースのテキストを__…… 23

り

リー, ハロルド・B
証は次第にやせ細る…… 19
理解する
教義と原則を__…… 6, 28-29, 32, 40, 43-44, 46, 53, 56, 61, 66, 70
聖典と預言者の言葉の文脈と内容を__…… 10, 23-25, 34, 39, 40-41, 43-46, 52, 55-56, 59-61, 65
リストを作る…… 23
リフレッシュメント…… 16-17

る

ルカ 5 章: 例…… 42

れ

霊的なあおりや強制…… 12-13, 67
レッスンの準備…… 13, 15, 51-57, 58, 65
教える事柄を決める…… 52-55
教える方法を決める…… 6, 52, 55-57
__のための資料…… 51

ろ

ロールプレー…… 32
ロバーツ, B・H
真理を宣べ伝えなければならない…… 28
ロムニー, マリオン・G
聖文は原則を書き残したものである…… 26

わ

分かち合う…… v, 12, 30, 32, 40, 43-46, 55, 62, 67, 68
神聖な個人的な経験を__ことについて…… 32



宗教教育
セミナー・インスティテュート

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

